

## 【団体アンケート】

### 未来につなぐ三田の文化芸術アンケート調査 調査結果

---

#### 1. アンケートの目的

令和2年度に策定する「(仮称)三田市文化芸術振興ビジョン」に向け、三田市民の文化活動や鑑賞などの実態を把握し、文化施策づくりのための基礎資料とすること

#### 2. 調査期間

- ・令和2年2月14日（発送）～2月29日（締め切り）
- ・集計は3月6日到着分までを対象

#### 3. 対象

- ・三田市内で文化活動に取り組んでいる180団体の代表者

#### 4. 調査方法

- ・三田市が抽出した180団体に対し、調査票を専用封筒にて郵送
- ・回収は、記入済みの調査票を返信用封筒にて三田市役所へ返送（三田市役所への持参も可）
- ・回答締め切りの1週間前にお礼状兼督促状（ハガキ）を送付し、回収率向上に努めた

#### 5. 回収結果

- ・有効回答数154通 無効回答数2通
- ・回答率85.6%

#### 6. アンケート集計結果について

- ・次ページ以降に記載

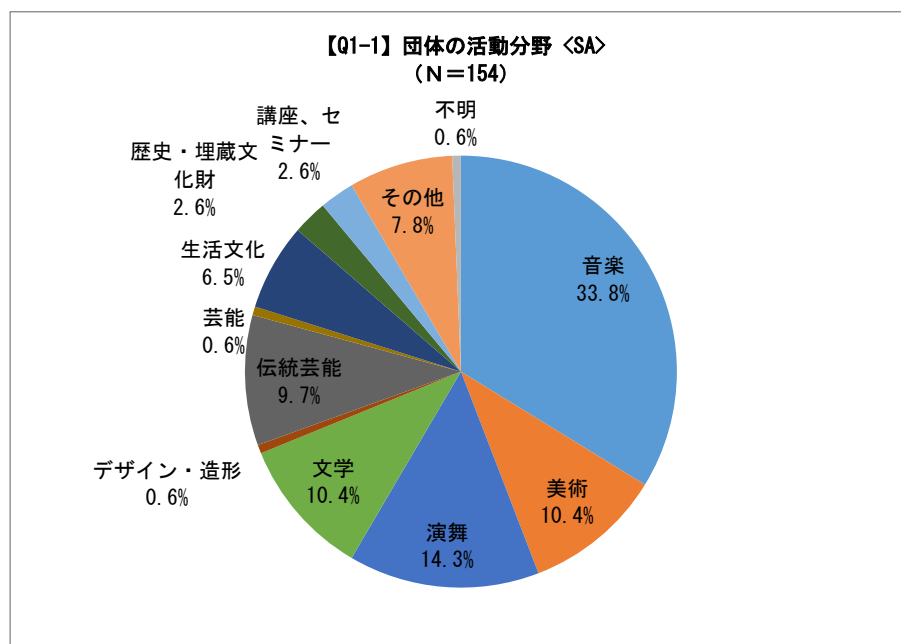
※活動分野別のクロス集計において、該当する団体数が少ない場合は、割合のあとに実数を記載している。

【問1】あなたの団体の活動分野を教えてください。〈SA〉

	全体	音楽	美術	映画	演劇	演舞	文学	メディア 芸術
件数	154	52	16	0	0	22	16	0
%	100.0	33.8	10.4	0.0	0.0	14.3	10.4	0.0
	デザイン・造形	伝統芸能	芸能	生活文化	歴史・埋蔵文化財	講座・セミナー	その他	不明
件数	1	15	1	10	4	4	12	1
%	0.6	9.7	0.6	6.5	2.6	2.6	7.8	0.6

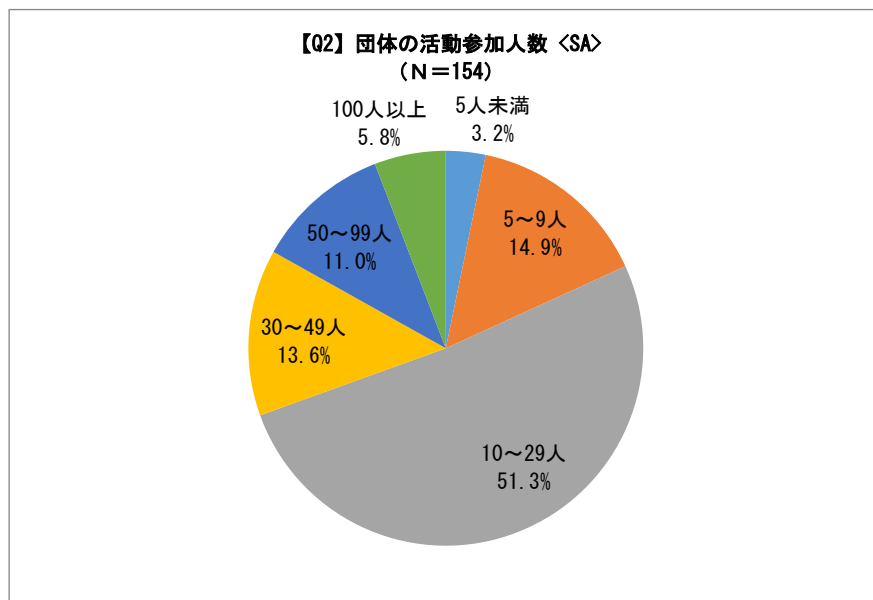
その他の回答

- ・カラオケ(7)
- ・盆栽、福祉、認定 NPO 法人子育て支援、教育、科学、文化、機関、SDGs の啓発 (各 1)

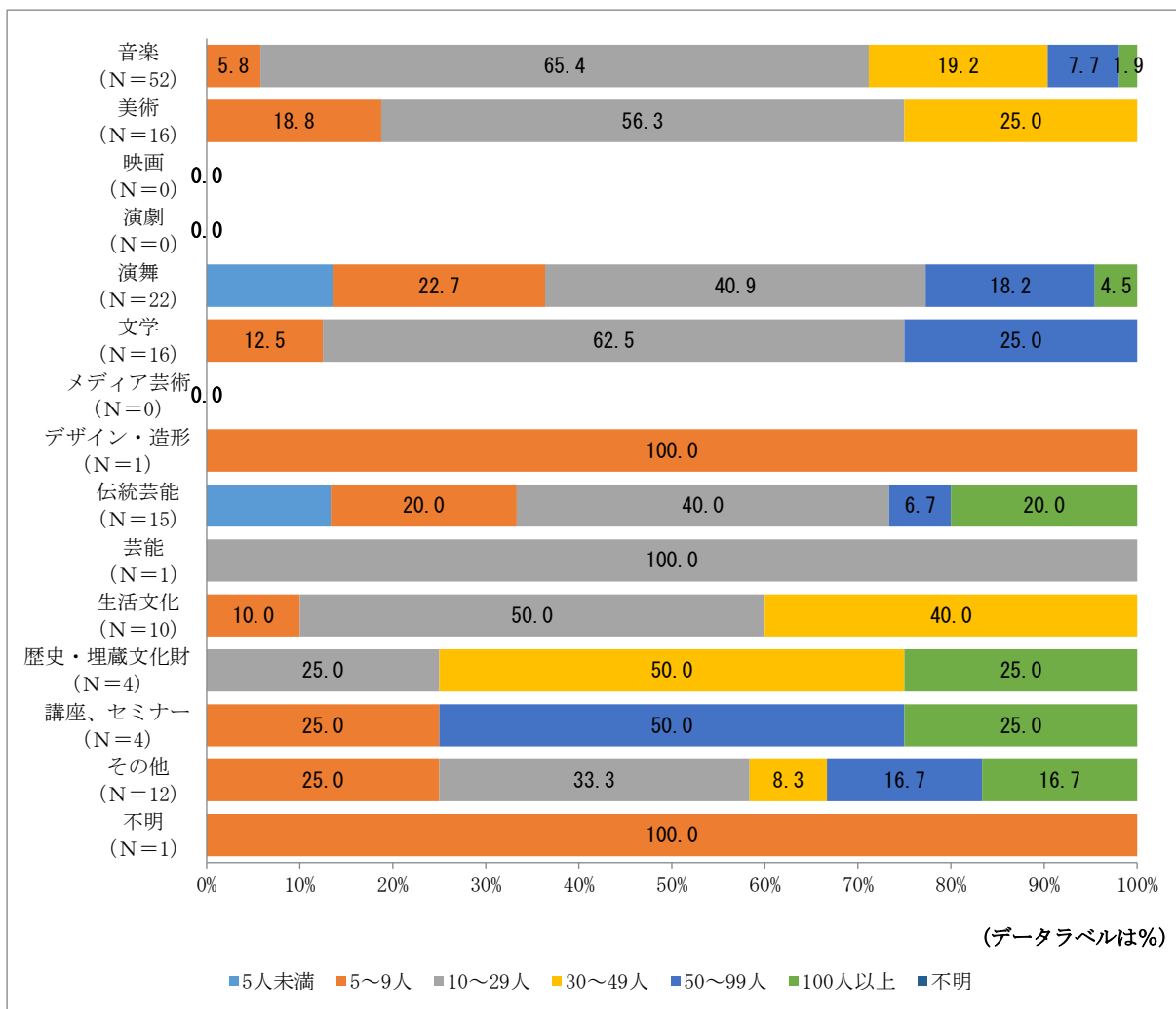


【問2】 あなたの団体の活動に参加（登録）している人数を教えてください。＜SA＞

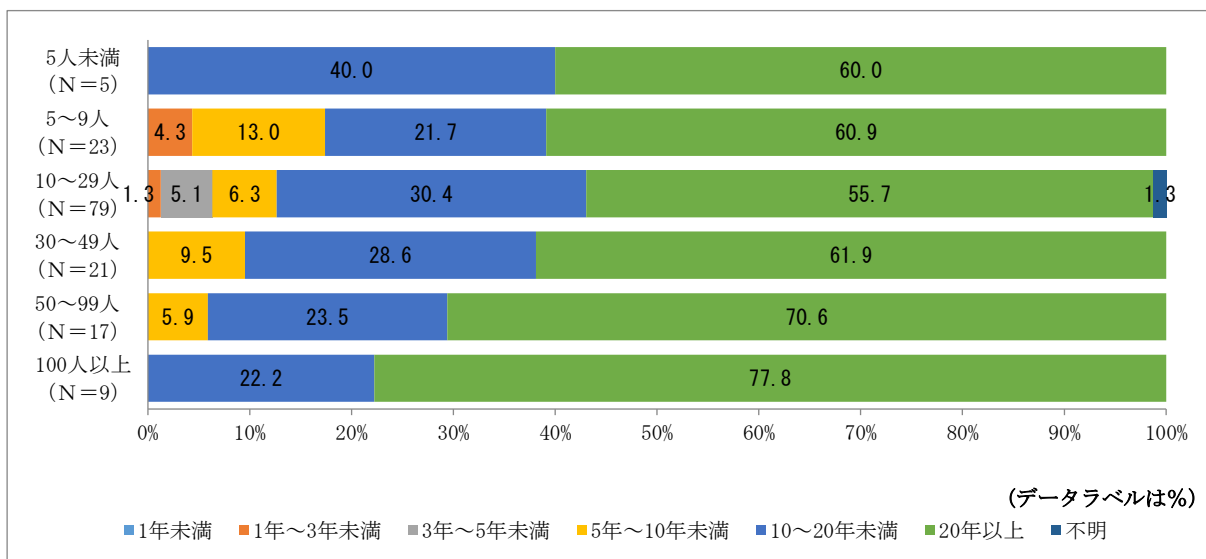
	全 体	5 人未満	5～9 人	10～29 人	30～49 人	50～99 人	100 人 以上	不明
件数	154	5	23	79	21	17	9	0
%	100.0	3.2	14.9	51.3	13.6	11.0	5.8	0.0



## ■団体の人数

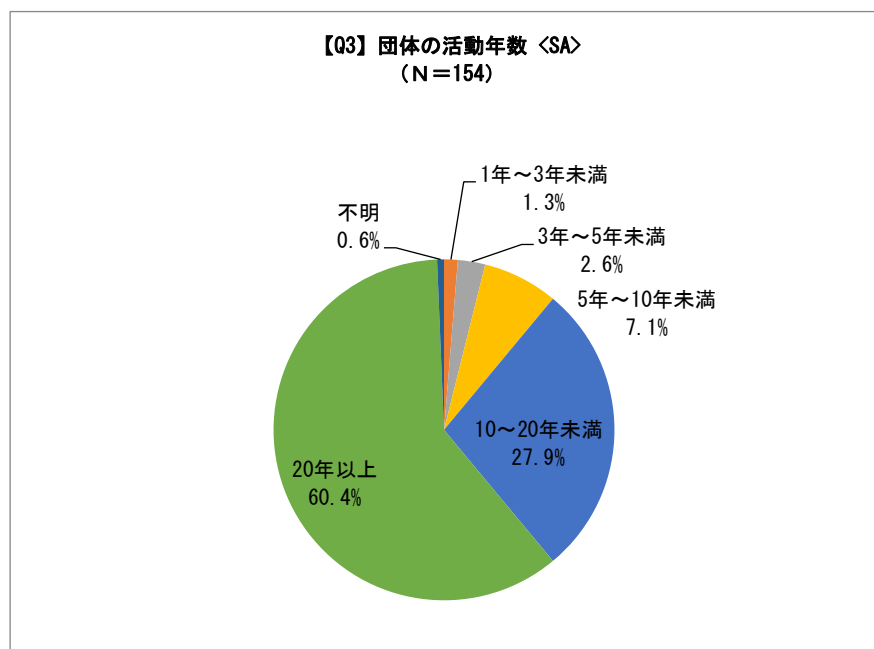


## ■活動年数

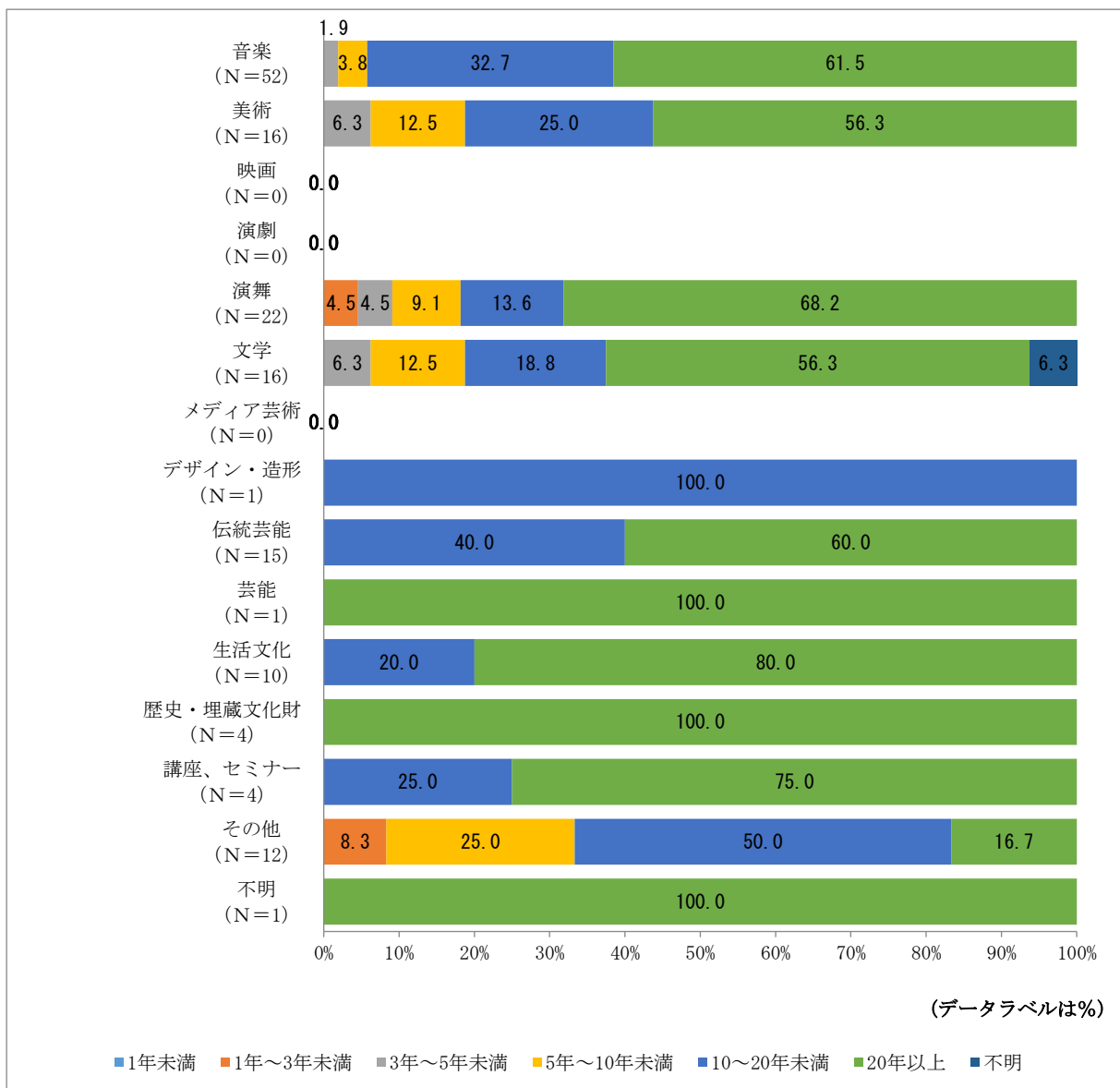


【問3】 あなたの団体が設立されてからの活動年数を教えてください、<SA>

	全 体	1 年未満	1 年～ 3 年未満	3 年～ 5 年未満	5 年～ 10 年未満	10～ 20 年未満	20 年以上	不明
件数	154	0	2	4	11	43	93	1
%	100.0	0.0	1.3	2.6	7.1	27.9	60.4	0.6

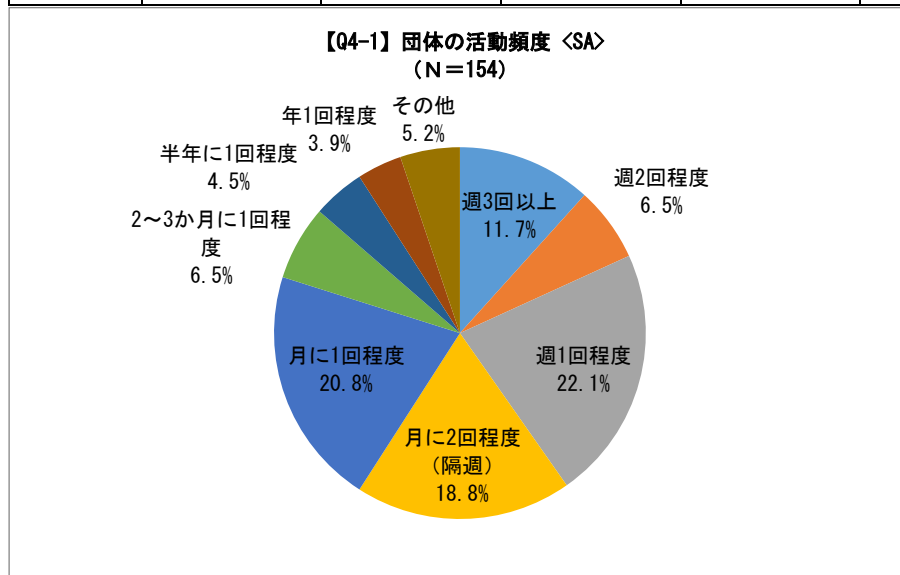


■活動分野



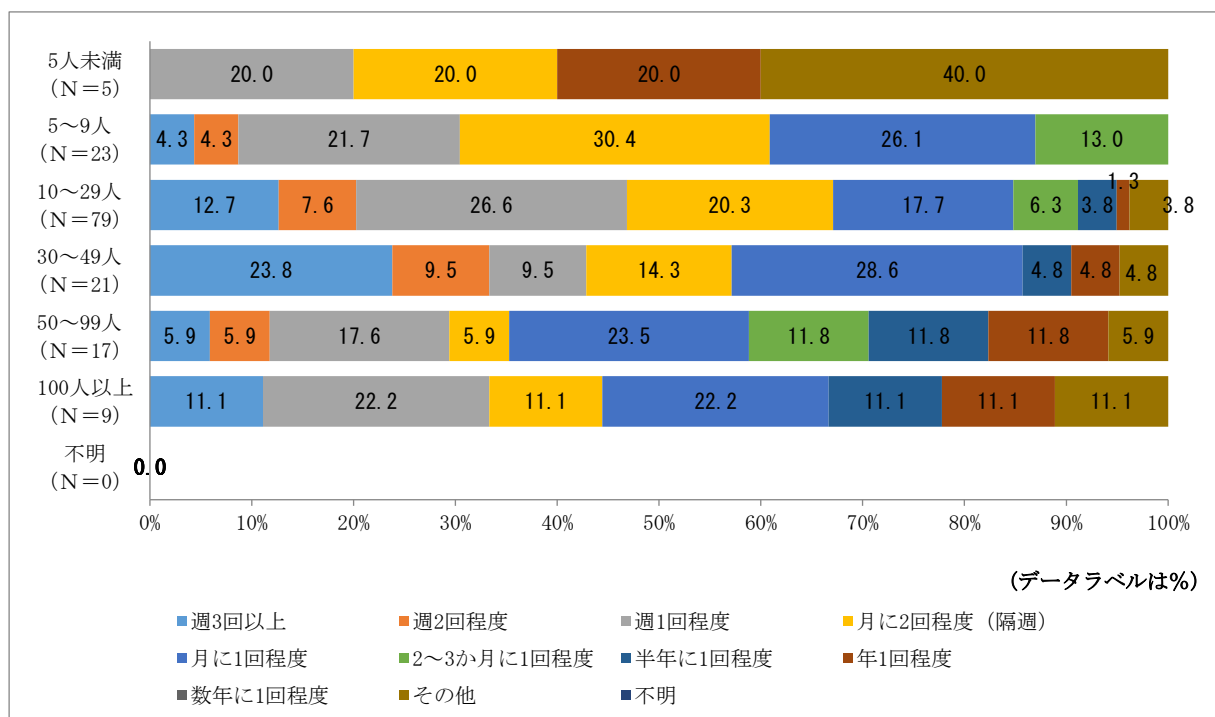
【問 4】 あなたの団体の活動頻度を教えてください。 <SA>

	全 体	週 3 回以上	週 2 回程度	週 1 回程度	月に 2 回程度(隔週)	月に 1 回程度
件数	154	18	10	34	29	32
%	100.0	11.7	6.5	22.1	18.8	20.8
	2~3か月に1回程度	半年に1回程度	年1回程度	数年に1回程度	その他	
件数	10	7	6	0	8	
%	6.5	4.5	3.9	0.0	5.2	

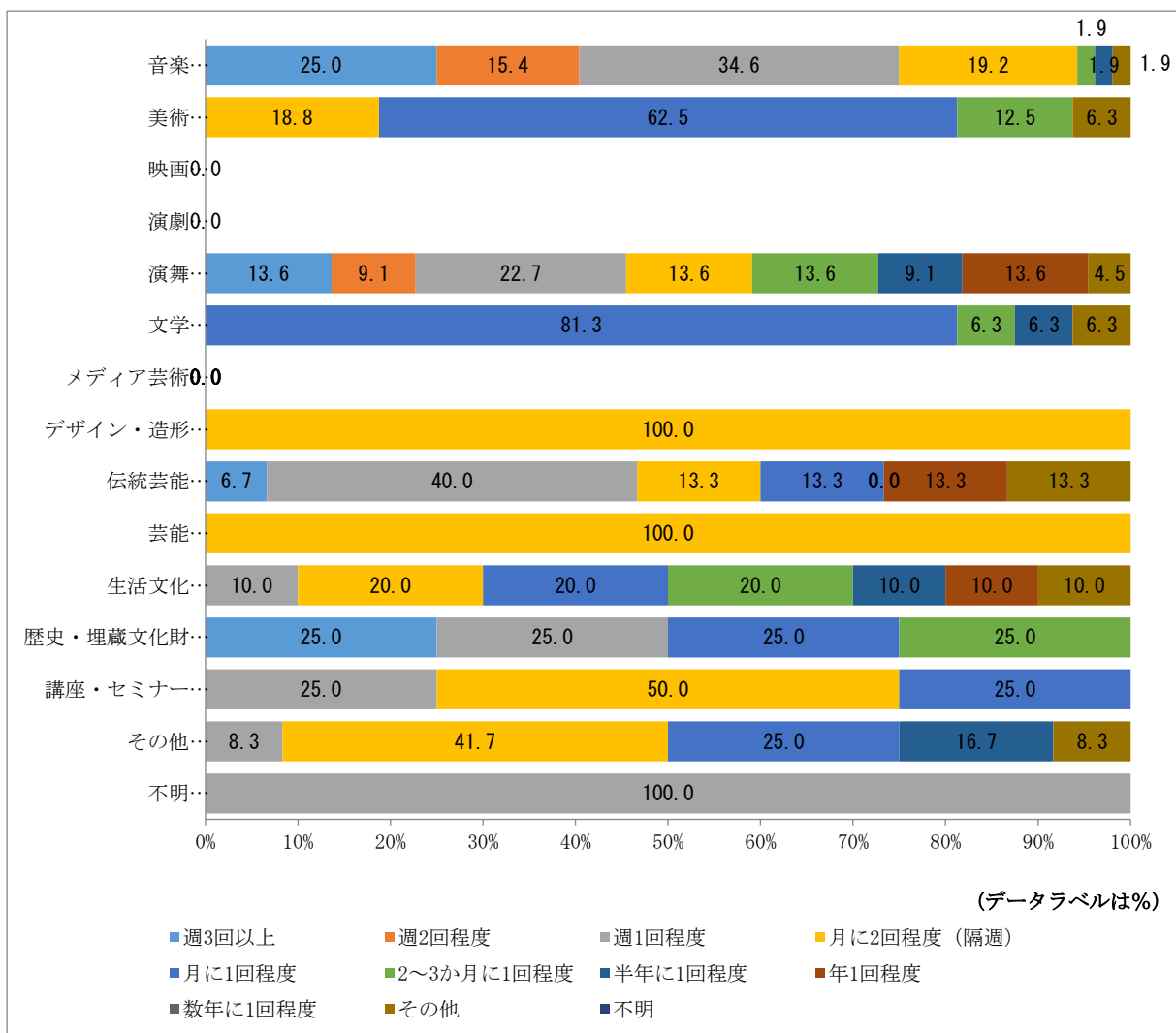


その他の回答  
・毎日

■ 団体の人数



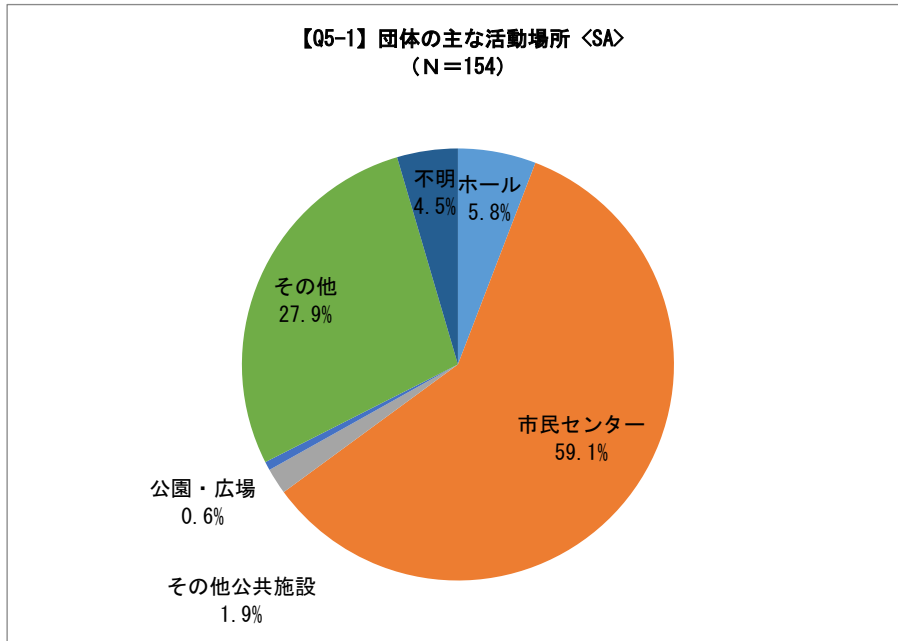
■活動分野





【問 5-1】 あなたの団体の活動場所<SA>

	全 体	ホール	市民 センター	その他 公共施設	商業施設	公園 ・広場	その他	不明
件数	154	9	91	3	0	1	43	7
%	100.0	5.8	59.1	1.9	0.0	0.6	27.9	4.5

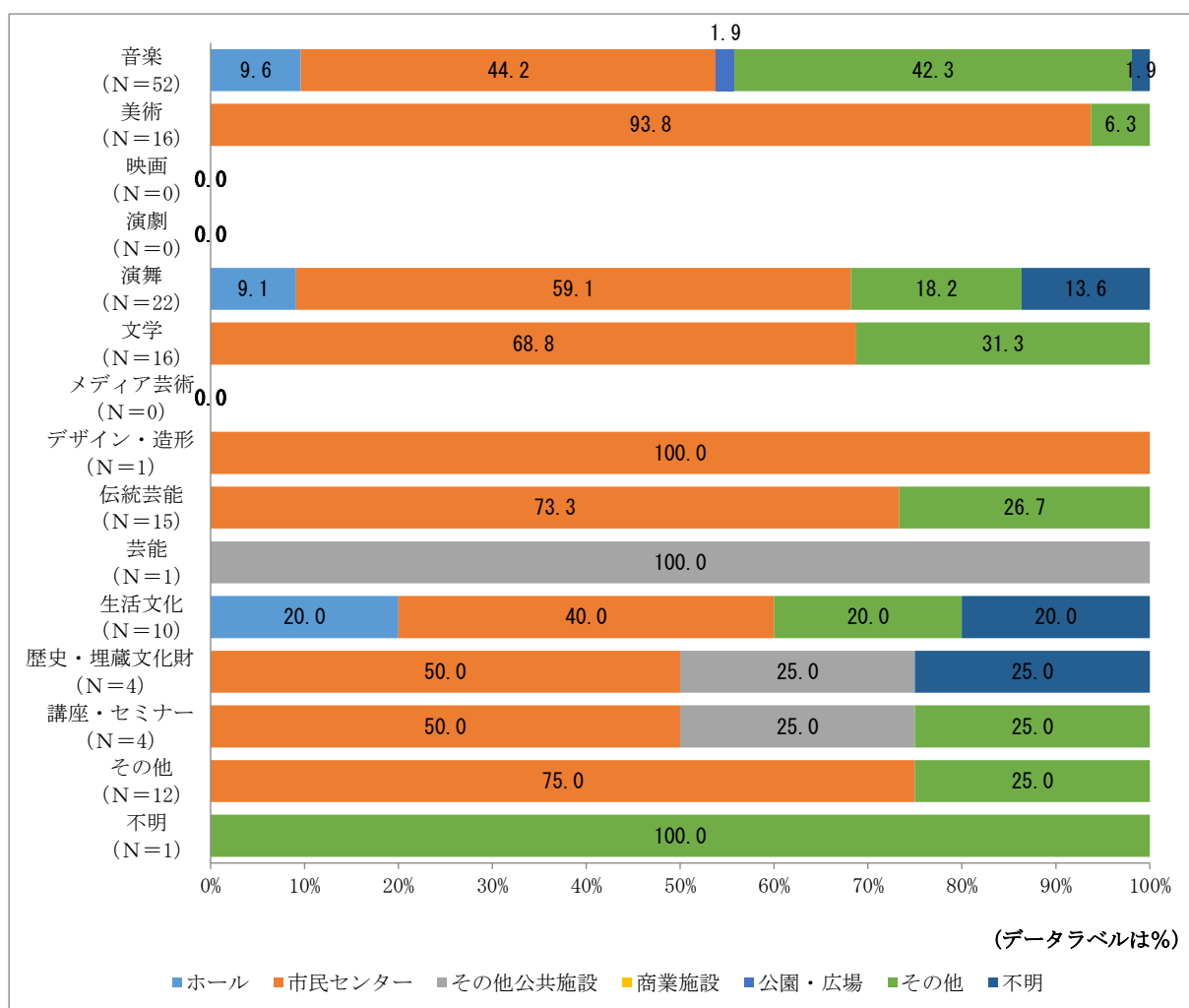


<その他の回答 (件数) >

カラオケ店(4) / 学校(3) / 学校の音楽室(2) / 中学校(2)		
その他施設 (各1件)	公共施設	中央公園 (けやき台)、けやき台コミュニティハウス、公共施設、センター、商工会館、地域のコミュニティセンター
	学校施設	関西学院大学三田キャンパス、中学校音楽室
	商業施設	まねき猫、小学校、商業施設、阪急百貨店 6 階
	その他	三輪神社会館、JA 兵庫六甲本店、屋外での写真撮影、心道会館、神戸の詩吟の流派、おけいこは三田駅前個人宅、地域のコミュニティハウス、多数利用、三輪会館、シルバー人材センター、自施設、保育、すずかけ台コミュニティハウス、八坂神社、自分の店、JA 藍 2 階会議室、地域内公民館及び神社

・「市民センター」が 59.1%を占め最も多く、次に「郷の音ホール」(5.8%)、その他公共施設(1.9%)になっている。市民センターの内訳を見ると、「さんだ市民センター」が最も多く 26.6%を占め、次に「まちづくり協働センター」(11.0%)、「フラワータウン市民センター」(9.7%)となっている。日常的な活動は、居住地に近い場所で行われている実態がわかる。逆に、「三田市立図書館」「三田市ガラス工芸館」「旧九鬼家住宅」など市の施設での活動している団体からの回答はなかった。

## ■活動分野

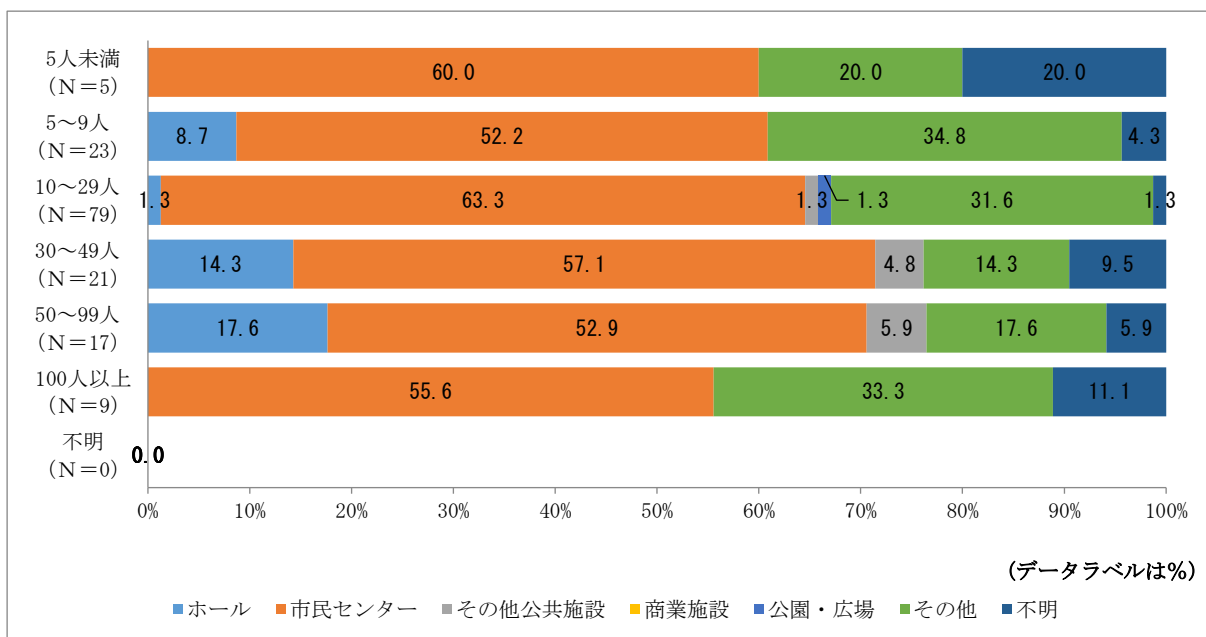


・活動分野別に見ると、「郷の音ホール」を活動場所としているのは、音楽 (9.8%)、演舞 (9.1%)、生活文化 (20.0%)。

・「市民センター」を活動場所としているのは、デザイン・造形で100.0% (1団体) で、次いで美術 (93.8%)、伝統芸能 (73.3%) の順である。

・「その他公共施設」は、芸能100.0% (1団体)、歴史・埋蔵文化財と講座・セミナーでともに25.0% (1団体) となっている。

## ■団体の人数

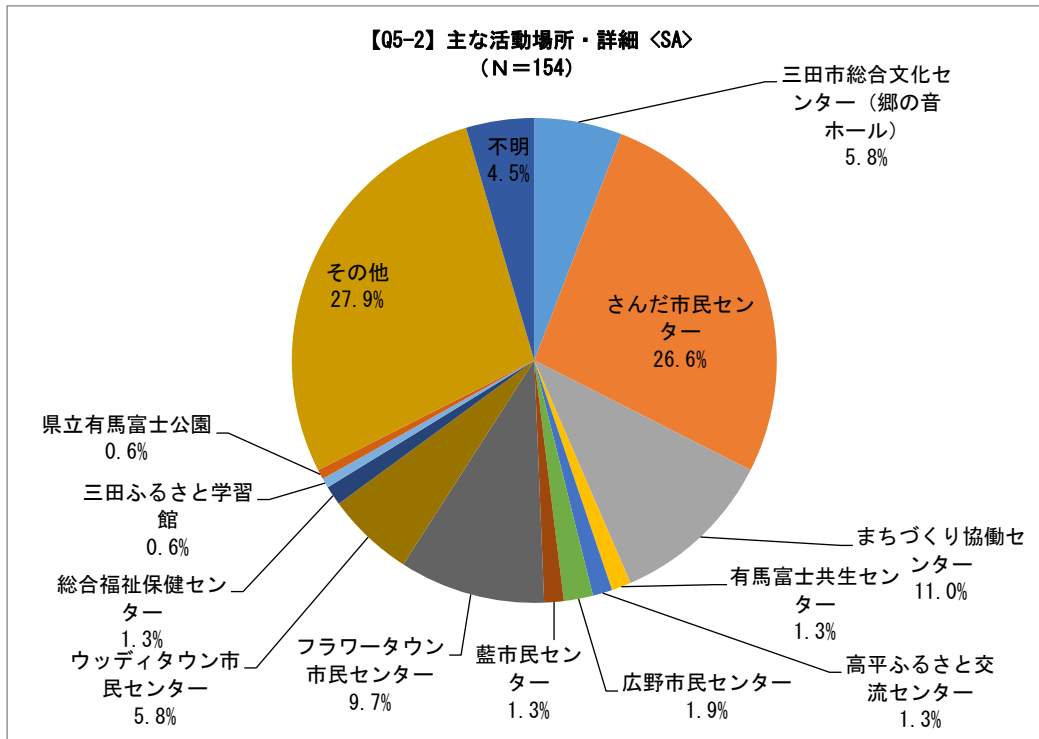


・「郷の音ホール」の利用は、人数の多い団体ほど割合が高くなる傾向にあり、割合が最も多いのは50～99人の17.6%（3団体）で、次いで30～49人の14.3%（3団体）である。もっとも少ないのは10～29人の1.3%（1団体）で、5人未満、100人以上の団体の回答数はなかった。

・「市民センター」はどの規模の団体でも50%～60%を占めている。割合が最も多いのは10～29人の63.3%（50団体）で、次いで5人未満の60.0%（3団体）である。

【問 5-2】 あなたの団体の活動場所・詳細<SA>

	全 体	三田市総合文化センター(郷の音ホール)	さんだ市民センター	まちづくり協働センター	有馬富士共生センター	高平ふるさと交流センター
件数	154	9	41	17	2	2
%	100.0	5.8	26.6	11.0	1.3	1.3
	広野市民センター	ふれあいと創造の里	藍市民センター	フラワータウン市民センター	ウッディタウン市民センター	総合福祉保健センター
件数	3	0	2	15	9	2
%	1.9	0.0	1.3	9.7	5.8	1.3
	三田市立図書館	三田ふるさと学習館	三田市ガラス工芸館	旧九鬼家住宅資料館	県立人と自然の博物館	イオンシネマ(映画館)
件数	0	1	0	0	0	0
%	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	フローラ 88	三田屋本家(能舞台)	県立有馬富士公園	三田駅前広場キッズスクエア	その他	不明
件数	0	0	1	0	43	7
%	0.0	0.0	0.6	0.0	27.9	4.5

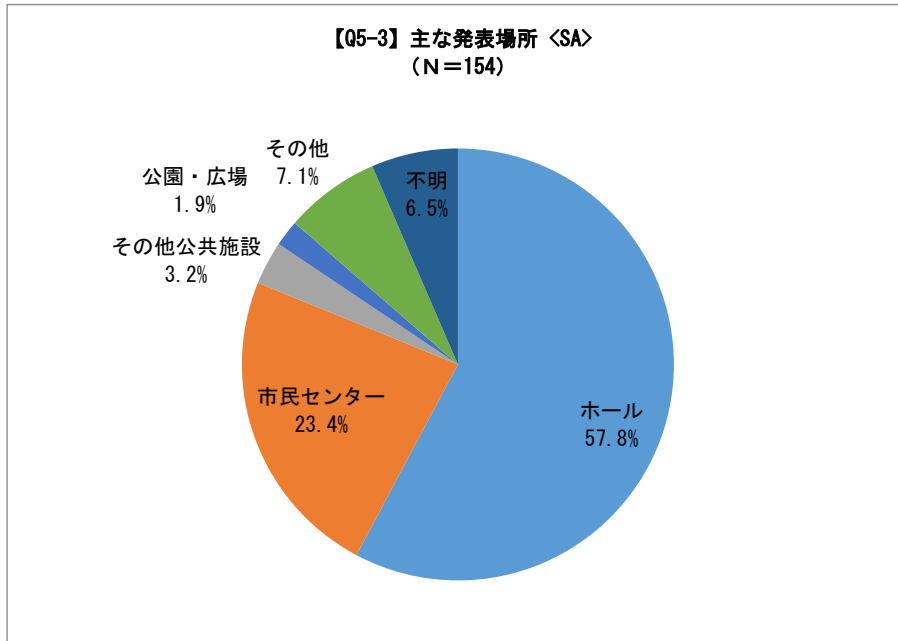


<その他の回答>

カラオケ店(2)／自施設、保育

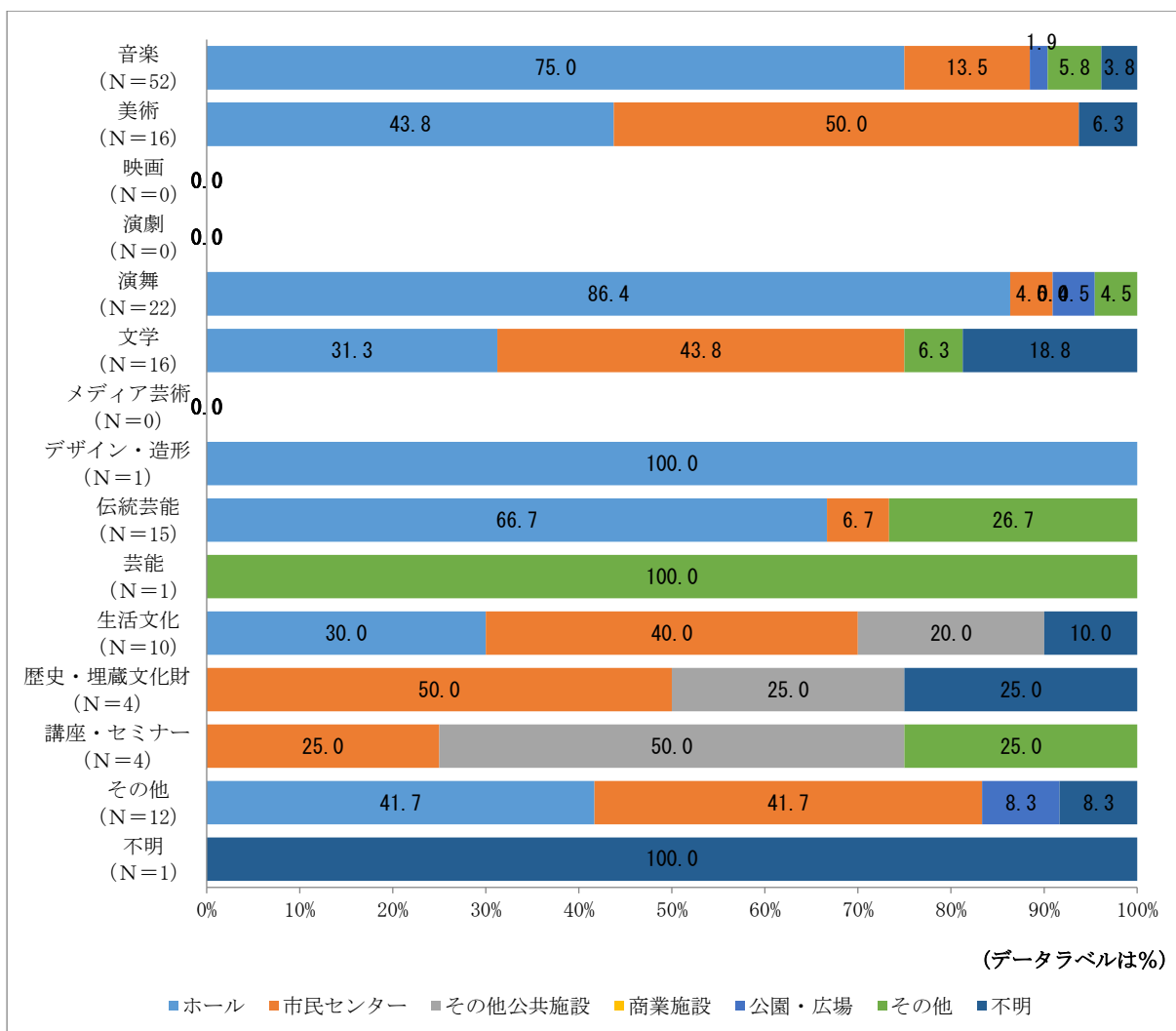
【問 5-3】 あなたの団体の発表場所・大分類<SA>

	全 体	ホール	市民 センター	その他 公共施設	商業施設	公園 ・広場	その他	不明
件 数	154	89	36	5	0	3	11	10
%	100.0	57.8	23.4	3.2	0.0	1.9	7.1	6.5



・「郷の音ホール」が最も多く 57.8%、それ以降は「市民センター」(23.4%)、「その他公共施設」(3.2%)と続く。問 5-1 で聞いた主な活動場所と比較すると、活動場所としての郷の音ホールは 5.8%であったことから、大幅に割合が増しており、文化芸術活動の発表の場として三田市内の活動団体に認知され、利用されていることがわかる。また、「市民センター」は活動場所では 59.1%の回答から半分程度に減少している。

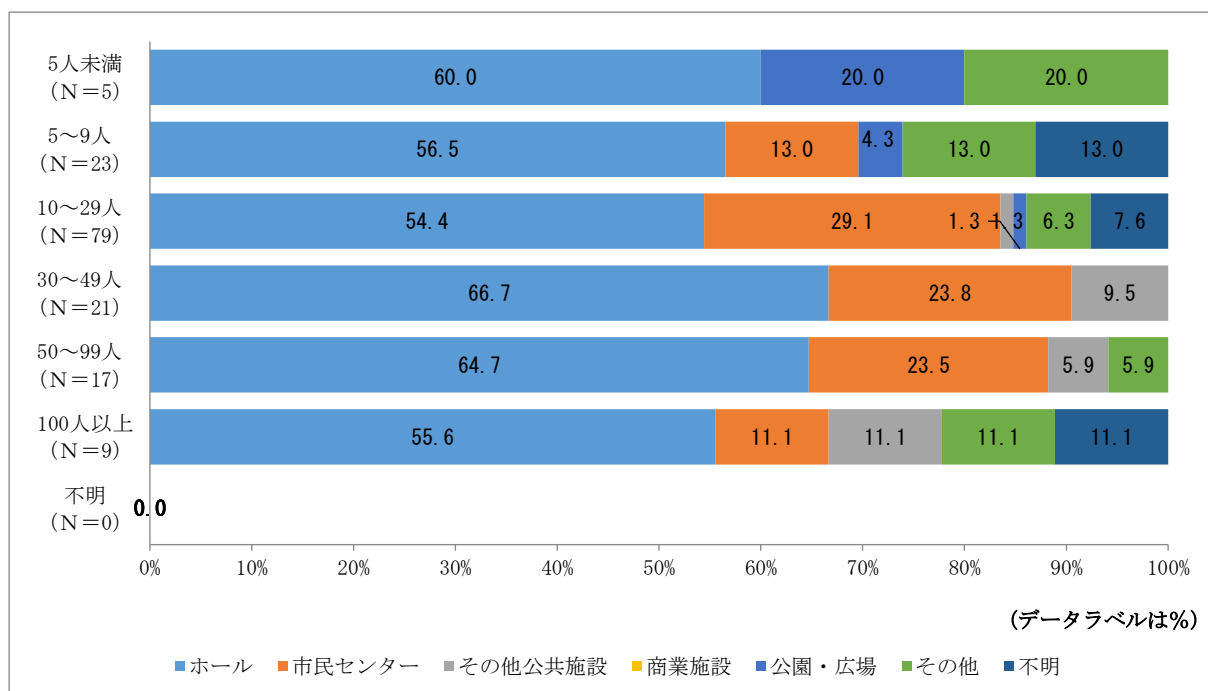
## ■活動分野



・活動分野別に見ると、「郷の音ホール」はデザイン・造形で100.0%（1団体）、演舞で88.4%（19団体）、音楽で75.0%（39団体）の順で割合が高くなっている。割合が低い分野としては、生活文化で30.0%（3団体）、文学31.3%（5団体）であり、芸能、歴史・埋蔵文化財、講座・セミナーでは回答がなかった。

・「市民センター」は美術（8団体）と歴史・埋蔵文化財（2団体）で50.0%、次いで文学の43.8%（7団体）の順で割合が高くなっている。割合が低かった分野では、演舞4.5%（1団体）、伝統芸能6.7%（1団体）、音楽13.5%（7団体）となっている。デザイン・造形、芸能では回答がなかった。

## ■団体の人数



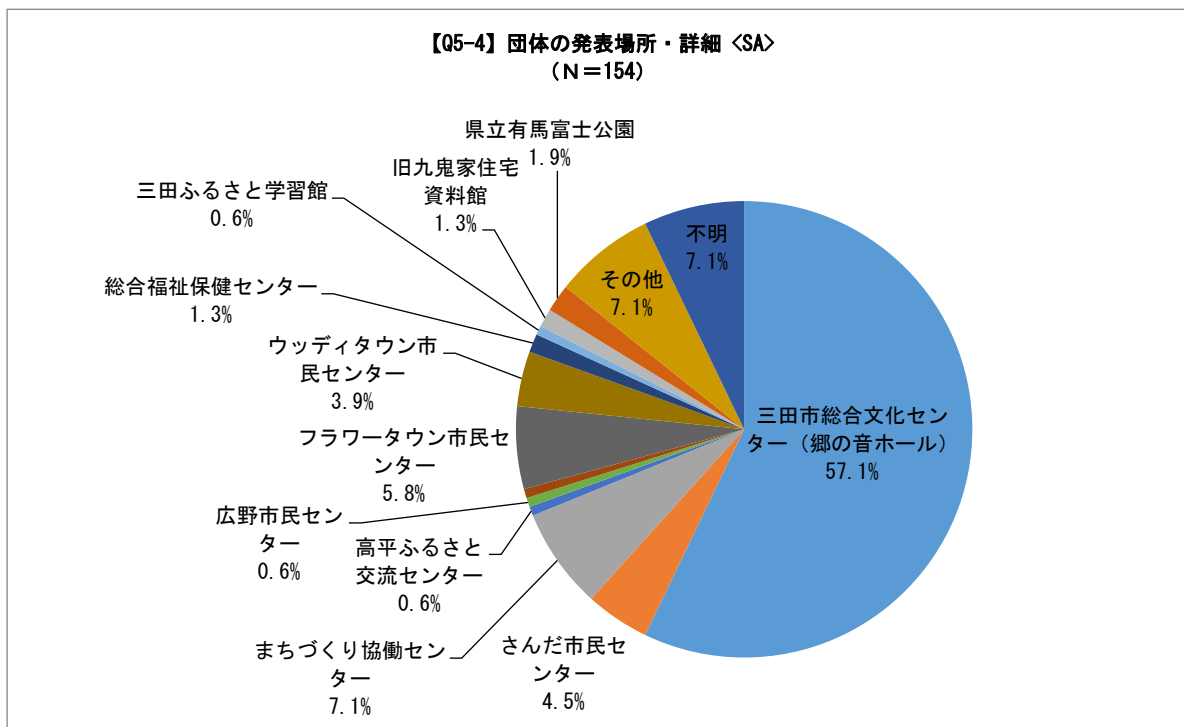
・団体の人数別に見ると、すべての団体規模において「郷の音ホール」は50%~60%を占めてお  
いる。最も高い割合なのは30~49人の66.7% (14団体) で、次いで50~99人の64.7% (11団  
体)、5人未満の60.0% (3団体) となっている。

・「市民センター」は、10~29人の29.1% (23団体) が最も高く、次いで30~49人の23.8% (5  
団体)、50~99人の23.5% (4団体) となっている。

・「公園・広場」は、5人未満で20.0% (1団体)、5~9人で4.3% (1団体)、10~29人で1.3%  
(1団体) となっている。

【問 5-4】 あなたの団体の発表場所<SA>

	全 体	三 田 市 総 合 文化センター(郷 の音ホール)	さんだ市民セン ター	まちづくり協働 センター	有馬富士共生 センター	高平ふるさと 交流センター
件数	154	88	7	11	0	1
%	100.0	57.1	4.5	7.1	0.0	0.6
	広野市民 センター	ふれあいと 創造の里	藍市民センタ ー	フラワータウン市民 センター	ウッディタウン市民 センター	総合福祉保健 センター
件数	1	0	1	9	6	2
%	0.6	0.0	0.6	5.8	3.9	1.3
	三田市立図 書館	三 田 ふ る さ と学習館	三田市ガラス 工芸館	旧九鬼家住宅 資料館	県立人と自然 の博物館	イオンシネマ (映画館)
件数	0	1	0	2	0	0
%	0.0	0.6	0.0	1.3	0.0	0.0
	フローラ 88	三 田 屋 本 店 (能舞台)	県立有馬富士 公園	三田駅前広場 キッピースクエア	その他	不明
件数	0	0	3	0	11	11
%	0.0	0.0	1.9	0.0	7.1	7.1



<その他の回答 (各 1 件) >

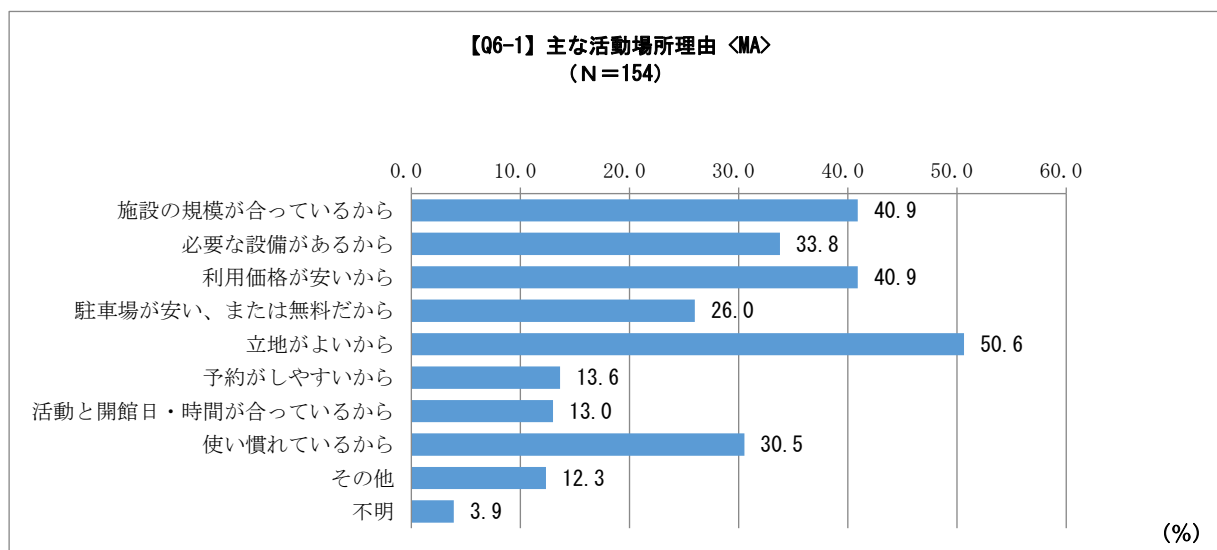
自治会、介護施設など、JA 兵庫六甲本店、中学校、八坂神社、市内の公民館、公会堂、コミセン、幼稚園、介護施設、商工会館、地域内公民館及び神社、フラワーセンター、市内及び県下の各種イベント会場と 5 年毎の記念公演



・郷の音ホールが 57.1%と最も多く、団体の発表の場として選ばれていることがわかる。市民センターは全 9 館で全体の 23.1%を占めており、その内訳を館ごとに見ると、「まちづくり協働センター」が 7.1%、「フラワータウン市民センター」が 5.6%、「さんだ市民センター」が 4.5%の順になっている。

【問 6-1】 問 5 で回答した施設を主な活動場所を選んでいる理由<IN>

	全 体	施設の規模 が合っている から	必要な設備 があるから	利用価格が 安いから	駐車場が安 い、または無 料だから	立地が よいから
件 数	154	63	52	63	40	78
%	100.0	40.9	33.8	40.9	26.0	50.6
	予約がしやす いから	活動と開館 日・時間が合 っているから	使い慣れてい るから	その他	不明	
件 数	21	20	47	19	6	
%	13.6	13.0	30.5	12.3	3.9	



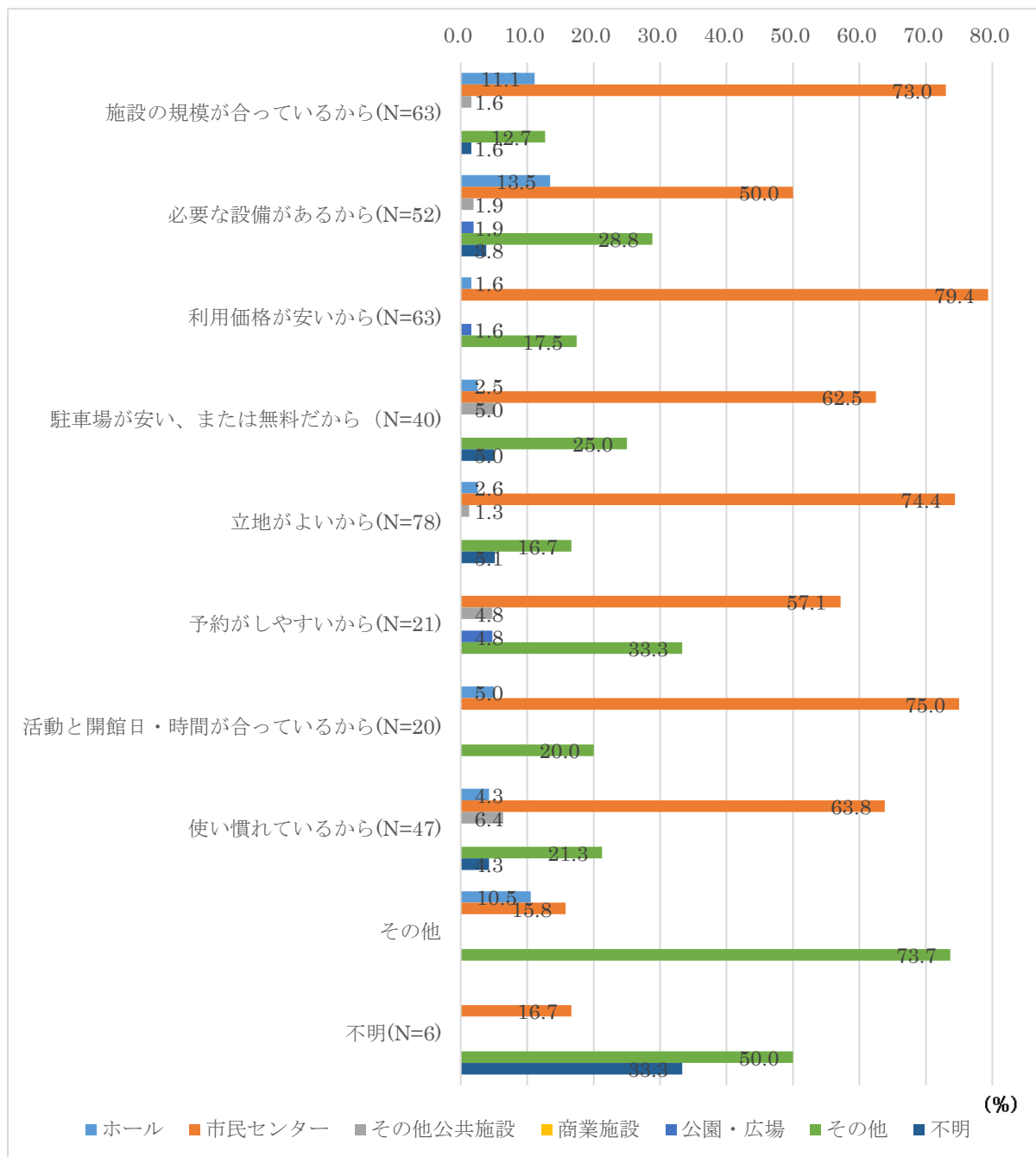
<その他の回答>

中学校の部活動だから(3)／活動場所として施設を利用していない／個人宅なので予約しないで確実に稽古ができる／高齢者が集まりやすい／公教育／展示依頼されているから／他が取れないから／登録団体として活動拠点にしているから／普段は地区内、地域外は神戸市や兵庫県芸術文化協会からの要請によって出張する／防音設備が整っているから／活動中心者の居住地域だから

・活動場所を選んだ理由として、「立地がよいから」が最も多く 50.6%を占めている。次いで「施設の規模が合っている」「利用価格が安いから」がともに 40.9%を占め、日常利用の利便性とコストを重視して選ばれていることが分かる。「使い慣れているから」が 30.5%を占めているのは、

定期的に利用している結果と考えられる。

## ■活動場所

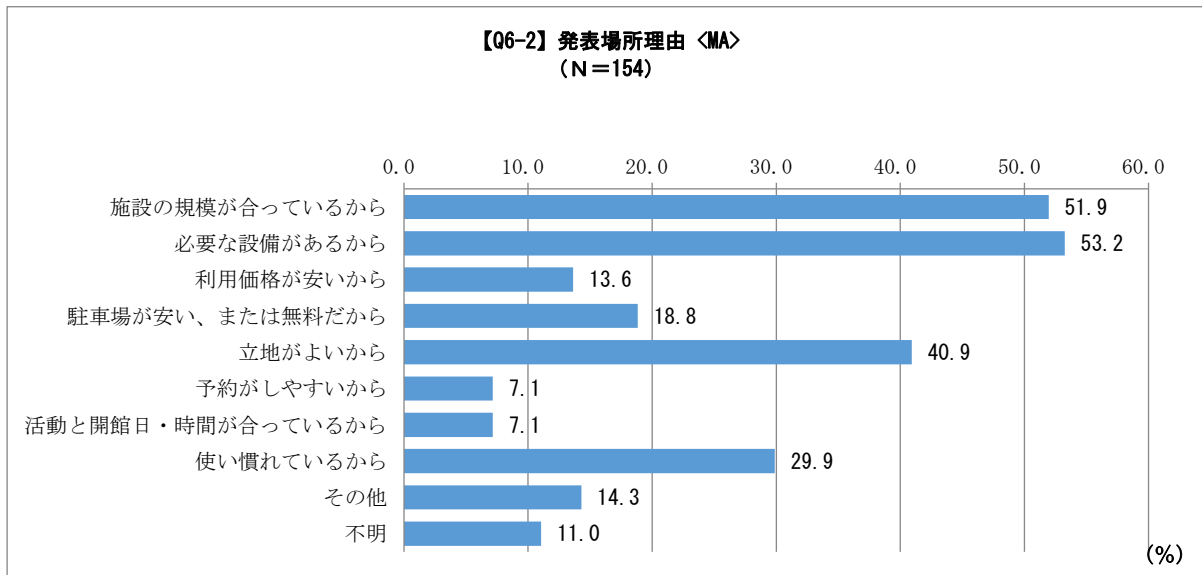


・「市民センター」を見ると、全ての項目で 50%を上回っており、満足度が高いことがわかる。回答の割合が高かった順に「利用価格が安い」79.4%、「活動と開館日・時間が合っている」75.0%、「立地が良い」74.4%となっている。

・「郷の音ホール」を見ると、全体的に 10%前後の回答になっており、活動場所としての優先順位が低いことが分かる。最も高い回答で「必要な設備がある」13.5%、「施設の規模が合っている」11.1%であり、「利用価格が安い」の回答はなかった。

【問 6-2】 問 5 で回答した施設を主な発表場所を選んでいる理由<IN>

	全 体	施設の規模 が合っている から	必要な設備 があるから	利用価格が 安いから	駐車場が安 い、または無 料だから	立地がよい から
件数	154	80	82	21	29	63
%	100.0	51.9	53.2	13.6	18.8	40.9
	予約がしやす いから	活動と開館 日・時間が合 っているから	使い慣れて いるから	その他	不明	
件数	11	11	46	22	17	
%	7.1	7.1	29.9	14.3	11.0	

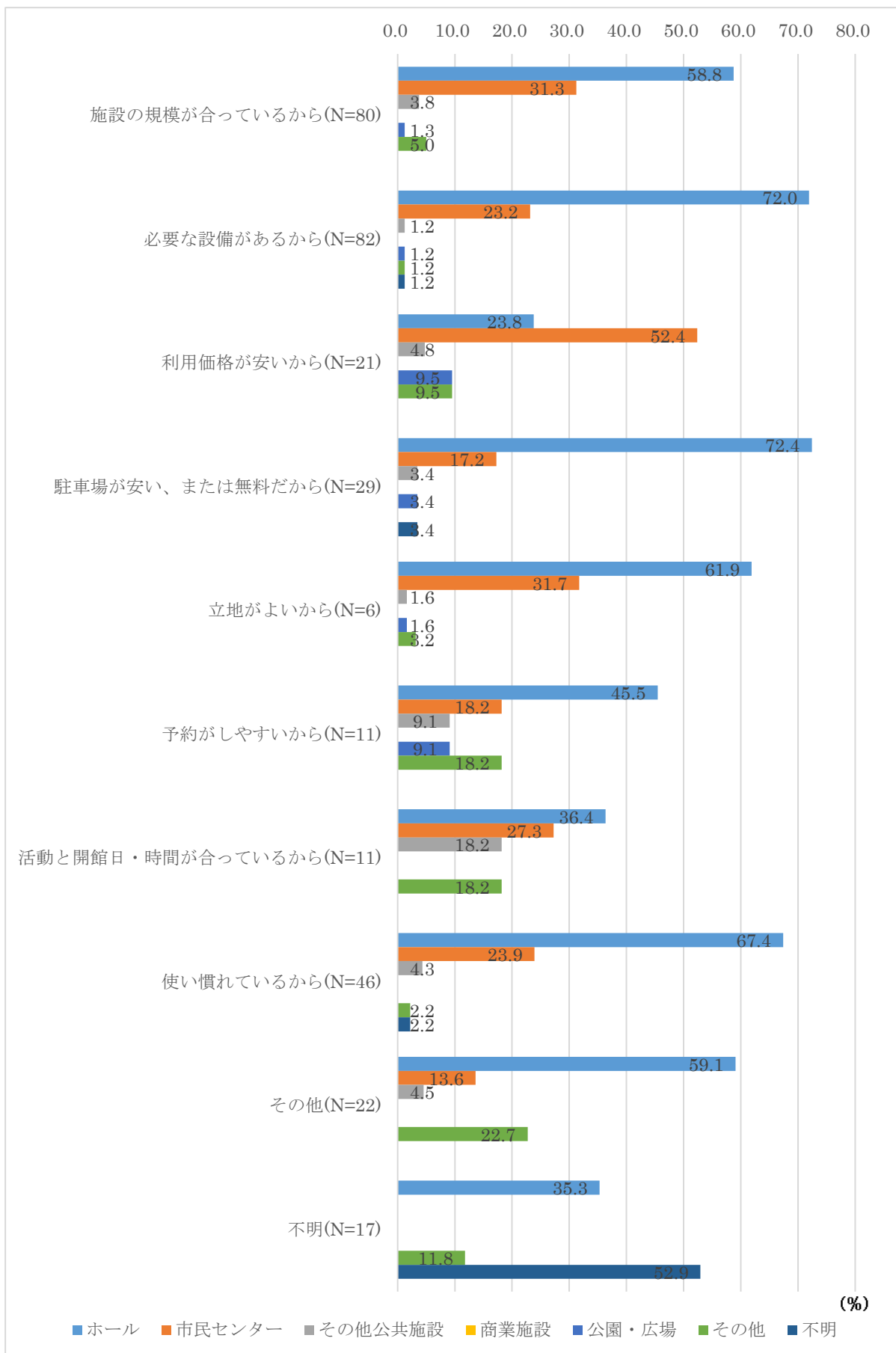


<その他の回答 (各 1 件) >

文化祭に参加／三田市を知ってもらうため／市民文化祭に参加するため／加盟団体の発表場所  
展示依頼されているから／一年に一度、合唱祭が開催されるので／他が取れないから／学校の  
部活動／依頼者からの指定／普段は地区内、地域外は神戸市や兵庫県芸術文化協会からの要請  
によって出張する／ほかに同様の施設がない／主催者の都合／活動中心者の居住地域だから

・発表場所を選ぶ理由は、「必要な設備があるから」が最も多く 53.2%を占め、次いで「施設の規模が合っているから」(51.9%)、「立地がよいから」(40.9%)となっている。「利用料金が安い」(13.6%)、「予約がしやすい」(7.1%) などについては、発表の場合は低い傾向になっており、発表の機会においては、利便性はある程度度外視して選んでいることが分かる。

■発表場所

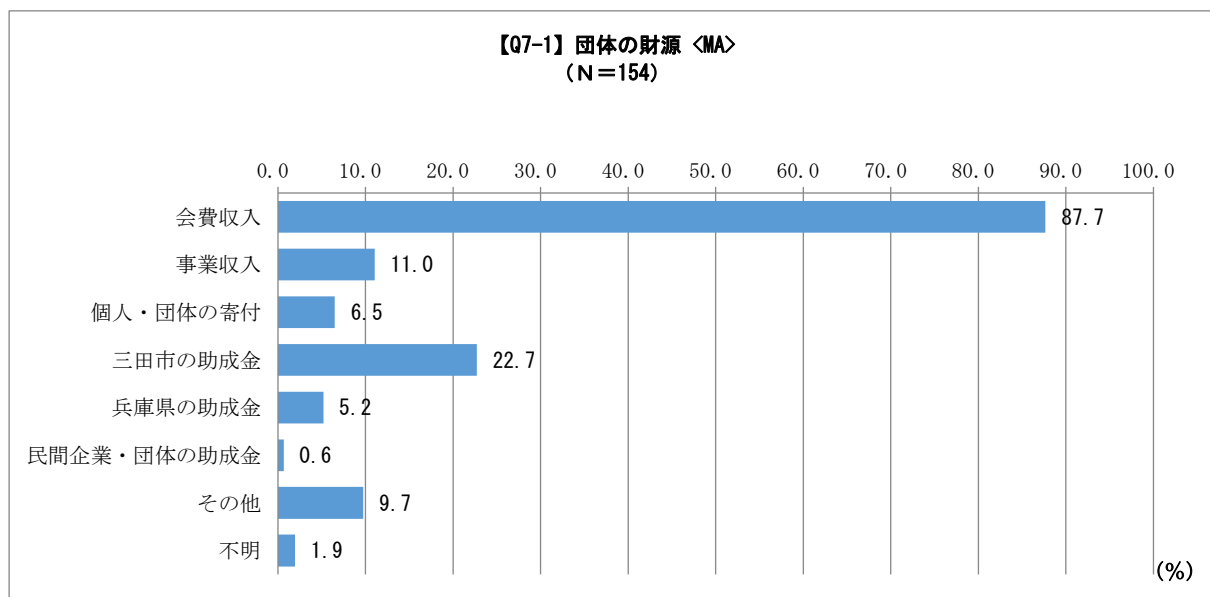


・発表場所で見ると、「郷の音ホール」が各項目で上位を占めている。回答の割合が多かったものは、「駐車場が安い、または無料だから」72.4%、「必要な設備があるから」72.0%、「使い慣れているから」67.4%の順になっている。また、「利用価格が安いから」は23.8%であった。限られた発表機会のためには、価格を度外視してもホールの設えを利用したいという意向が見える。

・「市民センター」を見ると、「利用価格が安いから」が最も多く52.4%、以下「立地が良いから」が31.7%、「施設の規模が合っているから」が31.3%の順になっており、郷の音ホールに比べ利用しやすさが優先されていることが分かる。

【問7】あなたの団体のおもな財源を教えてください。〈MA〉

	全体	会費収入	事業収入	寄付 個人・団体の	助成金 三田市の	助成金 兵庫県の	民間企業・団 体の助成金	その他	不明
件数	154	135	17	10	35	8	1	15	3
%	100.0	87.7	11.0	6.5	22.7	5.2	0.6	9.7	1.9

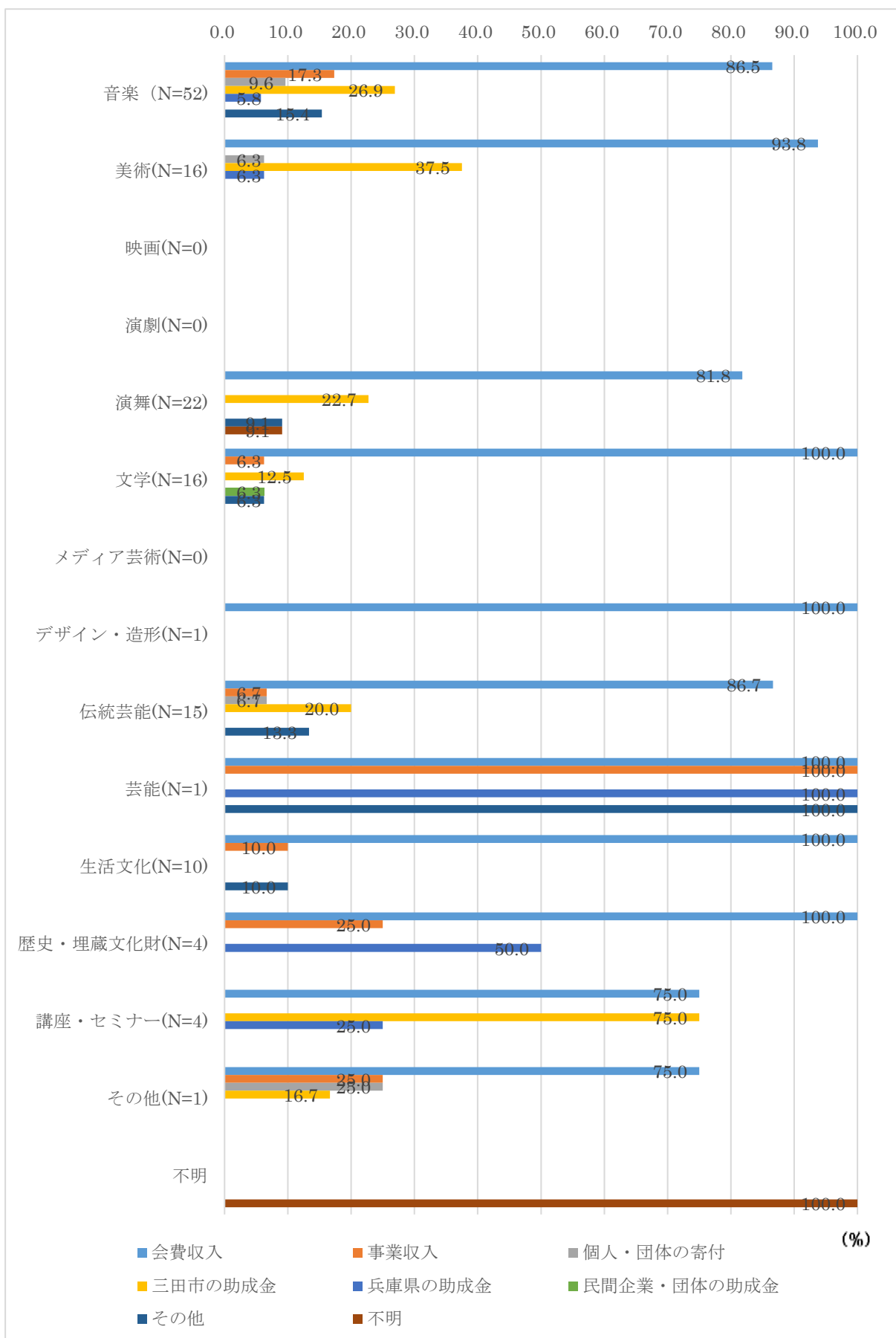


その他の回答 (各1件)

ボランティアの謝金／学校教育／大学の助成金／部費／八坂神社氏子祝儀及び神社会計より助成／保護者からの負担／社協の助成金／文化協会／地域（貴志区）の予算／学校の予算／市内のイベントに出演お誘いをいただき、出演したとき謝礼をいただく場合があります。

・「会費収入」が最も多く87.7%を占め、次に「三田市の助成金」を得ている団体が22.7%、「兵庫県の助成金」を得ている団体が5.2%である。一般的に、同一事業で県・市両方の助成金を同時に得ることは難しいことから、助成金を得ている団体は3割に満たないことが分かる。「事業収入」を得ている団体は11.0%であり、全体の1割程度となっている。

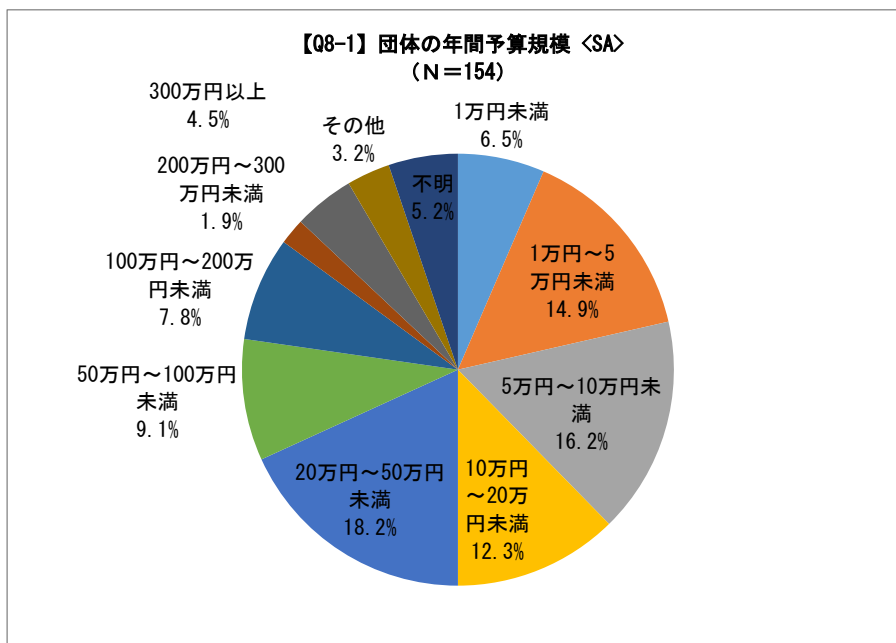
■活動分野



- ・活動分野別に見ると、「会費収入」は全ての分野において高い割合を占めている。文学、デザイン・造形、芸能、生活文化、歴史・埋蔵文化財では100.0%の団体が回答している。
- ・「事業収入」は、埋蔵文化財で25.0%（1団体）、音楽で17.3%（9団体）、生活文化で10.0%（1団体）となっている。事業収入を得ていない団体としては、美術、演舞、デザイン・造形、講座・セミナーである。しかし、入場料や参加費を徴収することにより施設の利用料金が上昇したり、利用許可が下りない場合も考えられ、一概に収入がないことを問題視することはできない。

【問8】あなたの団体の年間予算規模を教えてください。<SA>

	全 体	1万円未満	1万円～ 5万円未満	5万円～ 10万円未満	10万円～ 20万円未満	20万円～ 50万円未満
件数	154	10	23	25	19	28
%	100.0	6.5	14.9	16.2	12.3	18.2
	50万円～ 100万円未満	100万円～ 200万円未満	200万円～ 300万円未満	300万円以上	その他	不明
件数	14	12	3	7	5	8
%	9.1	7.8	1.9	4.5	3.2	5.2

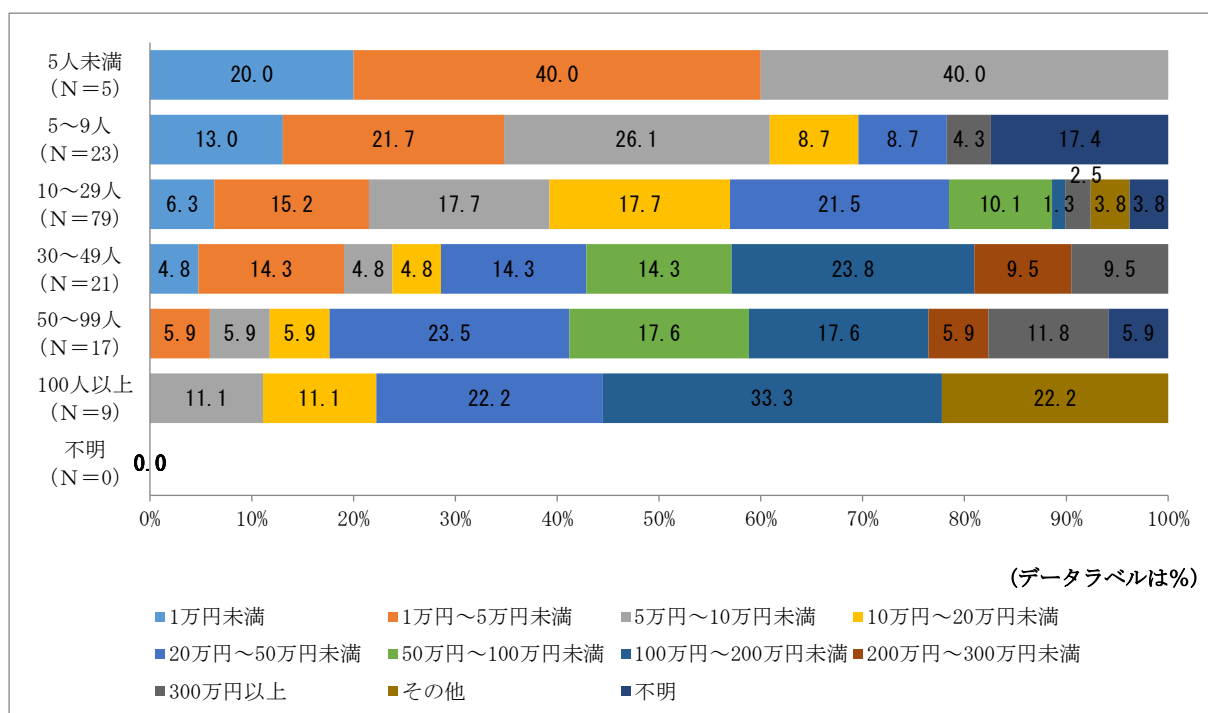


<その他の回答>

保存会活動としては5万円未満／伝統芸能開催の大祭費用は20万円

- ・活動団体の年間予算は、「20万円～50万円未満」がもっとも多く18.2%を占め、次に「5万円～10万円未満」が16.2%、「1万円～5万円未満」が14.9%の順になっている。予算は活動規模や内容によって変わるため、回答は分散している。

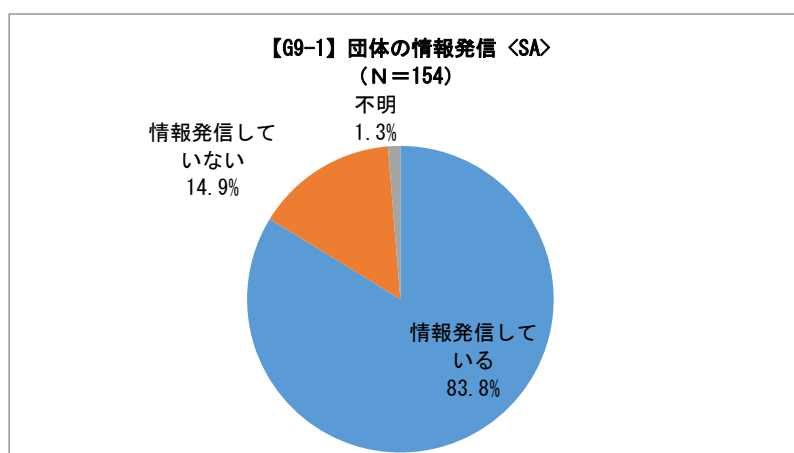
## ■団体の人数



- ・団体の人数別に見ると、参加人数が増えるにつれて年間予算額の金額は増加している。
- ・「5～10万円未満」は、5人未満の団体で40.0%（2団体）を占めているが、規模が大きくなるにつれて割合は減少し、100人以上の団体では11.1%（1団体）である。
- ・「100万円～200万円未満」の団体は、100人以上の団体で33.3%（3団体）を占めているが、30～49人の団体で23.8%（5団体）、10～29人の団体で1.3%（1団体）となっており、人数が少なくなるほど割合が減少している。

## 【問9-1】あなたの団体では情報発信をしていますか。＜SA＞

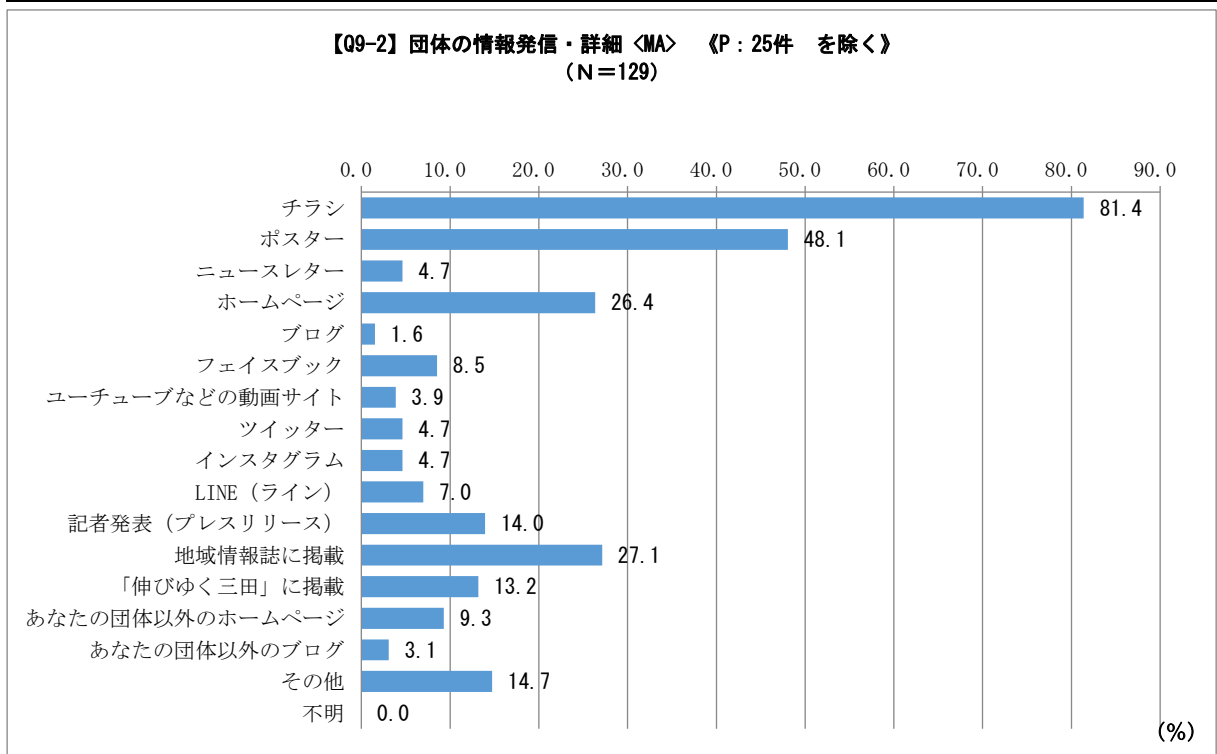
	全体	情報発信している	情報発信していない	不明
件数	154	129	23	2
%	100.0	83.8	14.9	1.3





【問 9-2】 あなたの団体ではどのような手段で情報発信をしていますか。<MA>

	全 体	チラシ	ポスター	ニュースレター	ホームページ	ブログ
件数	154	105	62	6	34	2
%	100.0	68.2	40.3	3.9	22.1	1.3
	フェイスブック	ユーチューブなどの動画サイト	ツイッター	インスタグラム	LINE (ライン)	記者発表 (プレスリリース)
件数	11	5	6	6	9	18
%	7.1	3.2	3.9	3.9	5.8	11.7
	地域情報誌に掲載	「伸びゆく三田」に掲載	あなたの団体以外のホームページ	あなたの団体以外のブログ	その他	不明
件数	35	17	12	4	19	0
%	22.7	11.0	7.8	2.6	12.3	0.0



<その他の回答>

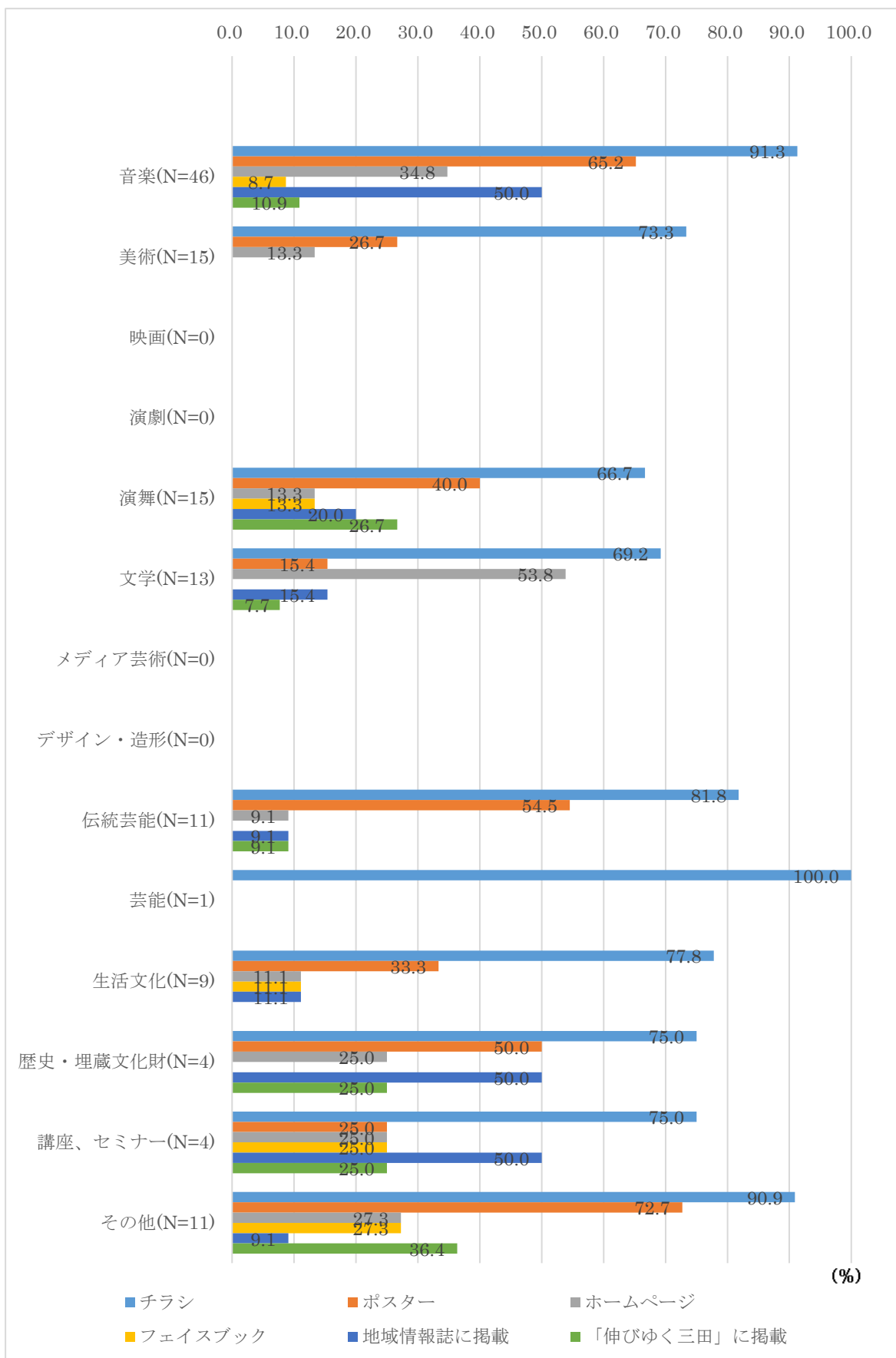
案内はがき(4)／ロコミ(3)／		
その他 (各1件)	紙媒体	神戸新聞(3)／新聞(2)／読売新聞に取材要請／同人誌／月刊の文芸マガジン／自治会広報誌／回覧板
	イベント	センターまつりに参加する／文化祭／周年事業をしている／チャリティコンサート。収益金は市に寄付／地域外開催のときに
	関係性	人とのつながり／会員が声かけ／社協「つながりバンク」に登録／全国協会に加入

・「チラシ」が81.4%を占め、次いで「ポスター」(48.1%)、「地域情報紙に掲載」(27.1%)、「ホームページ」(26.4%)の順となっている。紙媒体による告知とインターネットによる固定的な発信が行なわれていることが分かるが、一方で双方向性の発信が可能なSNSを活用している団体は少なく、「フェイスブック」(8.5%)、「ツイッター」(4.7%)、「インスタグラム」(4.7%)、「ブログ」(1.6%)という結果になっている。

・他のメディアを活用した発信について見ると、「地域情報誌に掲載」は27.1%、「記者発表」は14.0%、「伸びゆく三田に掲載」は13.2%と全体的に低くなっている。

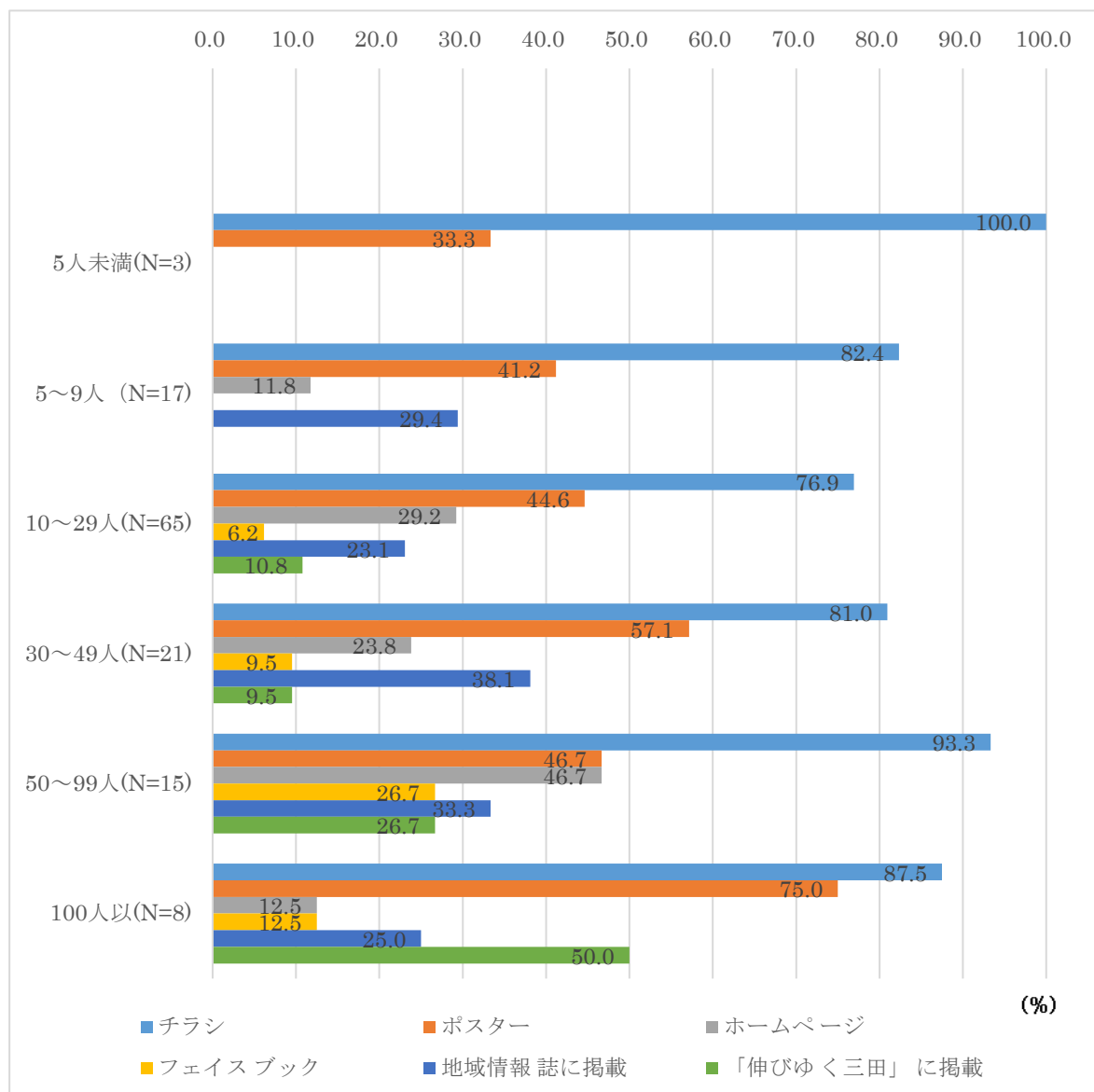
・以上のことから、チラシ・ポスターによる自主的な情報発信は行われているものの、新聞掲載のチャンスがある「プレスリリース」や「地域情報誌に掲載」、「伸びゆく三田に掲載」など不特定多数の目に触れる可能性のあるメディアの活用はまだ少ないことが分かる。

■活動分野



- ・活動分野別で見ると、「チラシ」はどの分野でも作成されており、割合では芸能で100.0%（1団体）、音楽で91.3%（42団体）、伝統芸能で81.8%（8団体）の順で高くなっている。
- ・「ポスター」は音楽で65.2%（30団体）、伝統芸能で54.5%（5団体）、歴史・埋蔵文化財で50.0%（2団体）となっている。一方、文学では15.4%（1団体）、講座・セミナーで25.0%（1団体）となっており、活動分野によって差が出ていることが分かる。
- ・「ホームページ」は文学が53.8%（7団体）と最も高く、次点は音楽の34.8%（16団体）。
- ・「フェイスブック」による発信をおこなっているのは、講座・セミナーで25.0%（1団体）、演舞13.3%（1団体）、生活文化11.1%（1団体）、音楽8.7%（4団体）である。
- ・「地域情報誌に掲載」は音楽で50.0%（23団体）と最も高くなっている。歴史・埋蔵文化財と講座・セミナーも50.0%である（各2団体）。
- ・「伸びゆく三田に掲載」は歴史・埋蔵文化財と講座・セミナーで50.0%（各2団体）が最も高く、次いで演舞26.7%（4団体）、音楽10.9%（5団体）である。

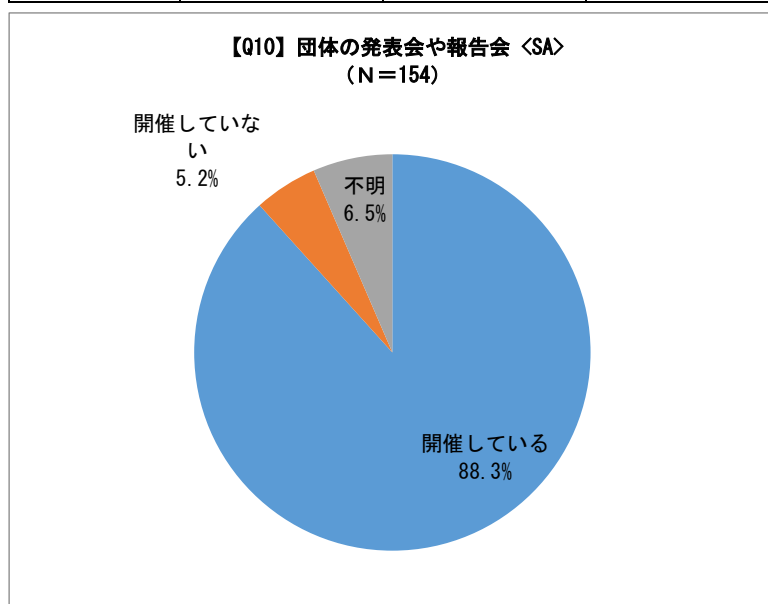
## ■団体の人数



- ・団体の人数別に見ると、「チラシ」はどの規模の団体でも制作されており、5人未満の団体で100.0%（5団体）、50～99人で93.3%（14団体）、100人以上で87.5%（7団体）になっている。
- ・「ポスター」は人数が増えるとともに割合が高くなる傾向にあり、最も高いのは100人以上の団体の75.0%（6団体）、次に30～49人の57.1%（12団体）である。最も低いのは5人未満の団体で、33.3%（1団体）である。
- ・「ホームページ」は50～99人で最も高く46.7%（7団体）で、10～29人で29.2%（19団体）、30～49人で23.8%（5団体）となっており、人数が増えるほど割合が増す傾向にあるが、100人以上の団体では12.5%（1団体）と少なくなっている。
- ・「フェイスブック」は50～99人で26.7%（4団体）と最も高く、100人以上で12.5%（1団体）、30～49人で9.5%（2団体）となっている。全体的に人数が増えるほど割合が増しているが、ここでも100人以上の団体で12.5%（1団体）と少なくなっている。
- ・「地域情報誌に掲載」は30～49人で38.1%（8団体）と最も高く、50～99人の33.3%（5団体）となっている。5人未満の団体で回答がなかった以外は、活動の規模に関係なく20～30%の回答になっている。
- ・「伸びゆく三田に掲載」は100人以上の団体で50.0%（4団体）と最も高く、50～99人で26.7%（4団体）、10～29人で10.8%（7団体）となっており、人数が多い団体ほど割合が高くなっている。

【問 10】 あなたの団体では、発表会や報告会がありますか？ <SA>

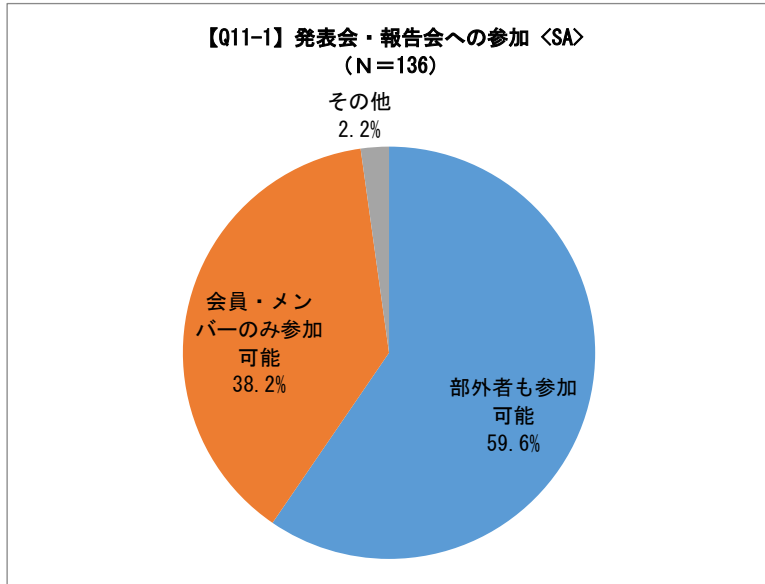
	全 体	開催している	開催していない	不明
件 数	154	136	8	10
%	100.0	88.3	5.2	6.5



「開催している」が88.3%を占め、「開催していない」が5.2%であり、9割近くの団体が活動成果を発表する機会を設けている。

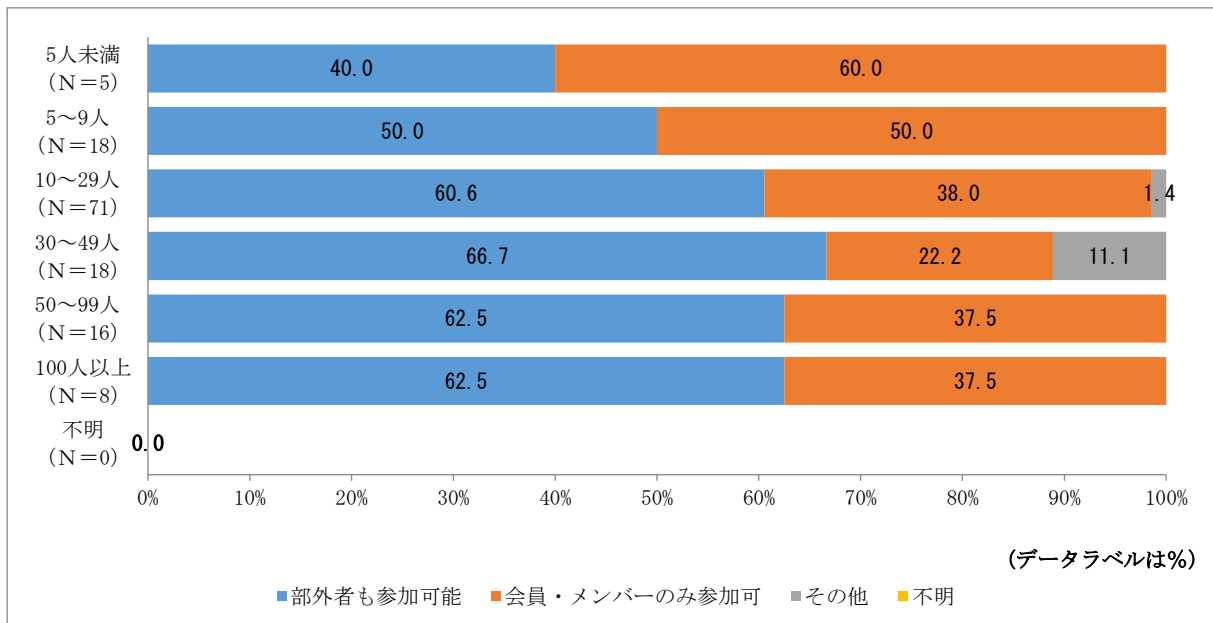
【問 11】 発表会・報告会は誰でも参加できますか。＜SA＞

	全 体	部外者も参加可能	会員・メンバーのみ参加可能	その他	不明
件 数	136	81	52	3	0
%	100.0	59.6	38.2	2.2	0.0



問 10 で発表会・報告会を「開催している」と回答した内訳に、発表会・報告会の公開の是非を聞いた。「部外者も参加開催している」は 59.6%であり、「会員・メンバーのみ参加可能」は 38.2%。活動発表を公開している団体は 6 割ということが分かる。

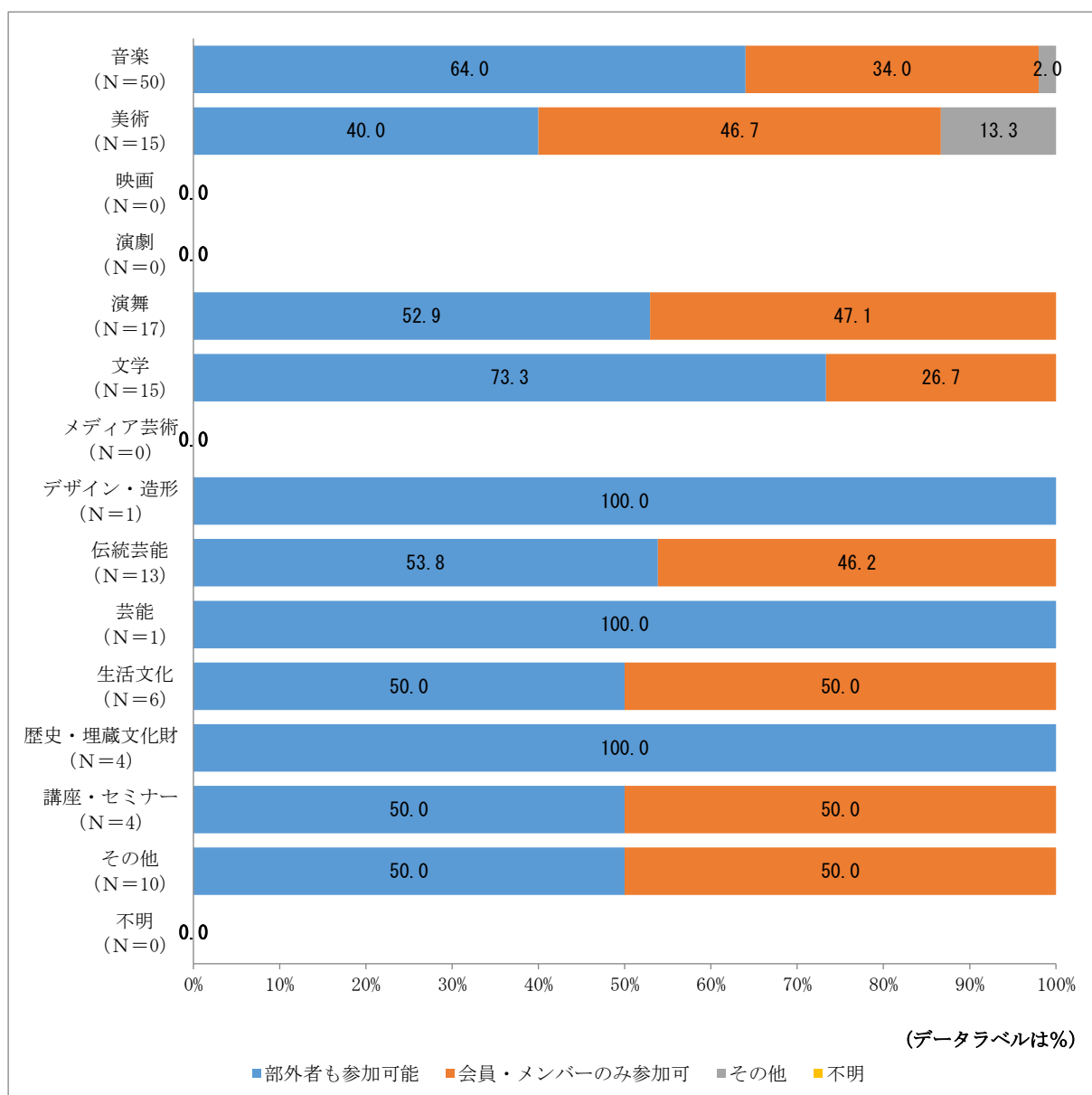
■ 団体の人数



・人数別に見ると、「部外者も参加可能」は 30～49 人の団体で割合が最も高く、66.7% (12 団体) を占めている。全体的に人数が多くなるにつれて割合が高くなる傾向にあり、最も低いのは 5 人未満の団体の 40.0% (2 団体) である。

・「会員・メンバーのみ参加可能」は 5 人未満で 60.0% (3 団体) と最も高く、人数が増えるとともに割合は少なくなっている。最も低いのは 30～49 人の 22.2% (4 団体) である。

## ■活動分野

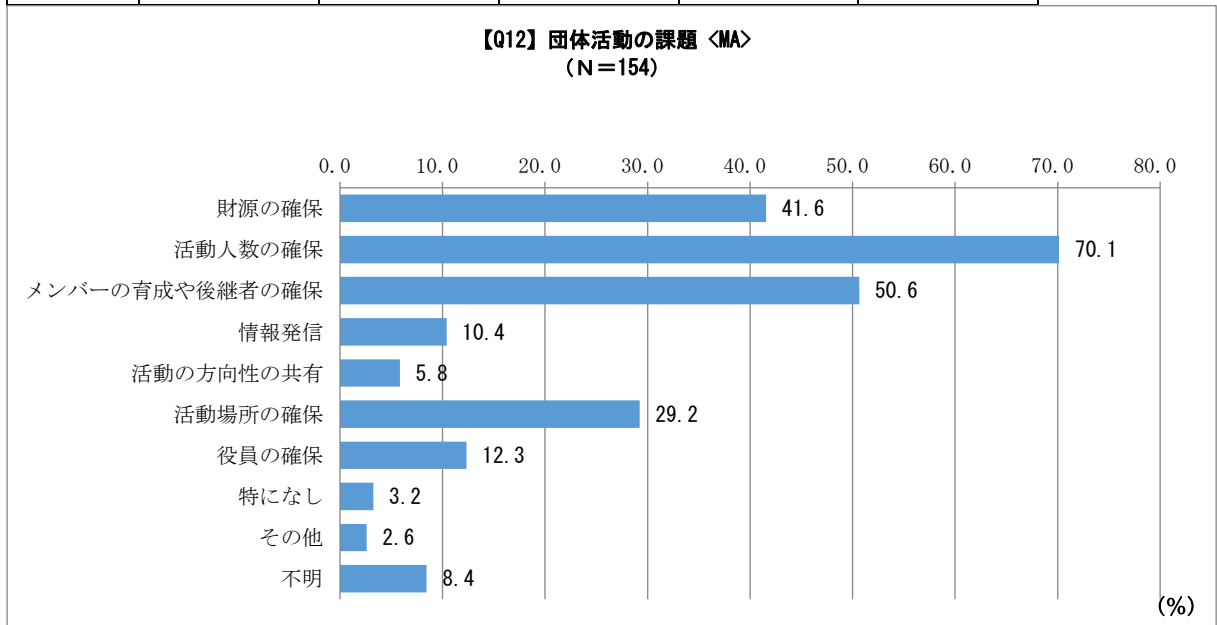


・活動分野別に見ると、「部外者も参加可能」はデザイン・造形（1団体）、芸能（1団体）、歴史・埋蔵文化財（4団体）で100.0%になっている。次いで文学の73.3%（11団体）、演舞の52.9%（9団体）の順で割合が高い。

・「会員・メンバーのみ参加可能」は生活文化（3団体）と講座・セミナー（2団体）で50.0%と最も高く、演舞47.1%（8団体）、美術46.7%（7団体）の順で割合が高くなっている。

【問 12】 団体活動を続けていくうえで、どのような課題がありますか。 <IN>

	全 体	財源の確保	活動人数の確保	メンバーの育成や後継者の確保	情報発信	活動の方向性の共有
件 数	154	64	108	78	16	9
%	100.0	41.6	70.1	50.6	10.4	5.8
	活動場所の確保	役員の確保	特になし	その他	不明	
件 数	45	19	5	4	13	
%	29.2	12.3	3.2	2.6	8.4	



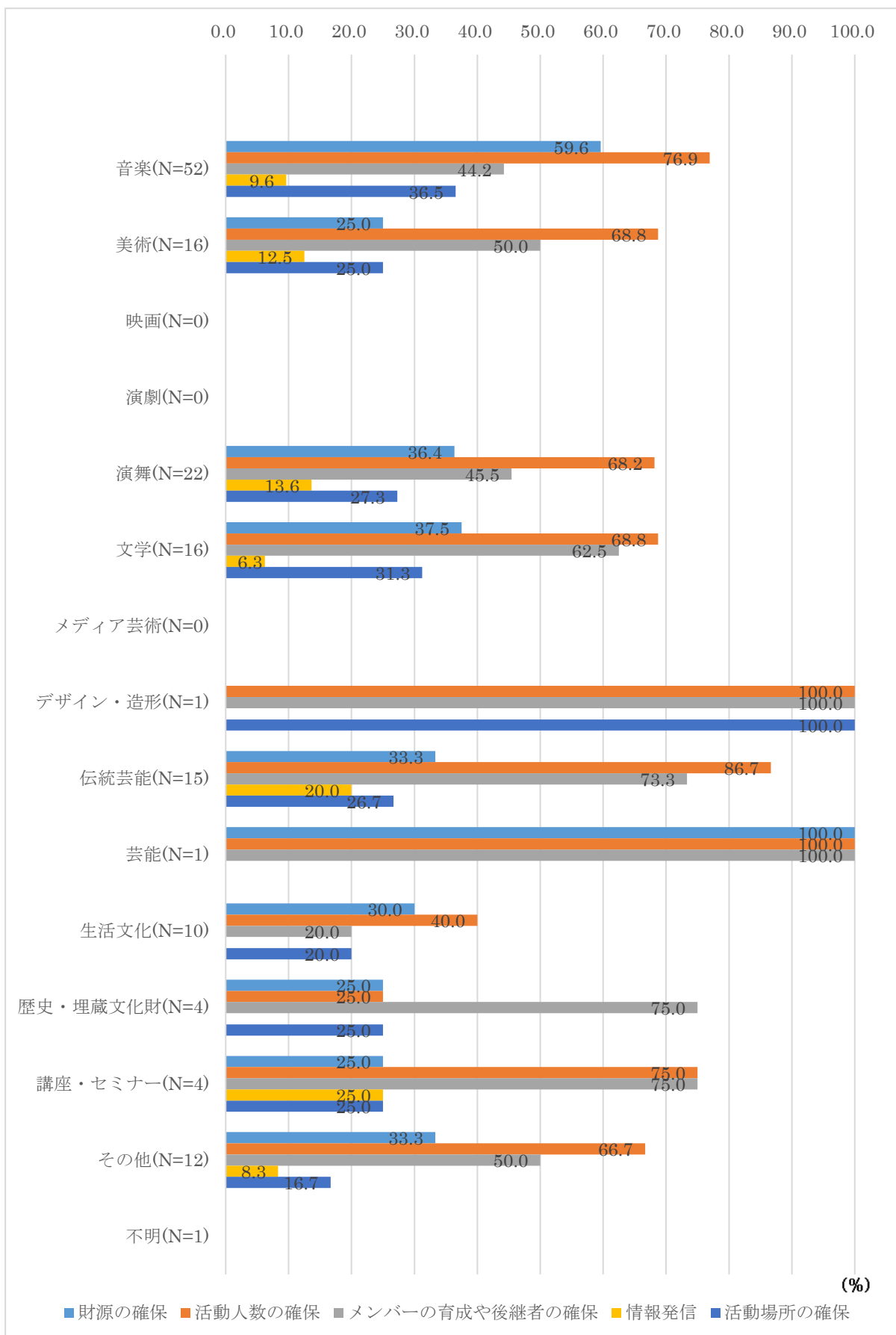
その他の回答 (各 1 件)

指導者の確保、組織マネジメントの強化、広報活動、活動装束の更新時の費用

・「活動人数の確保」がもっとも多く 70.1%を占めており、7割の団体がメンバー不足を感じていることが分かる。次いで「メンバーの育成や後継者の確保」(50.6%)、「財源の確保」(41.6%)となっており、運営を担う次世代メンバーの獲得や、活動を支える金銭面を課題として捉えていることが分かる。メンバー獲得に効果があると思われる「情報発信」については 10.4%と低い結果になっている。



■活動分野



・活動分野別に見ると、「財源の確保」は芸能で100.0%（1団体）、音楽で59.6%（31団体）、文学で37.5%（6団体）の順で割合が高くなっている。

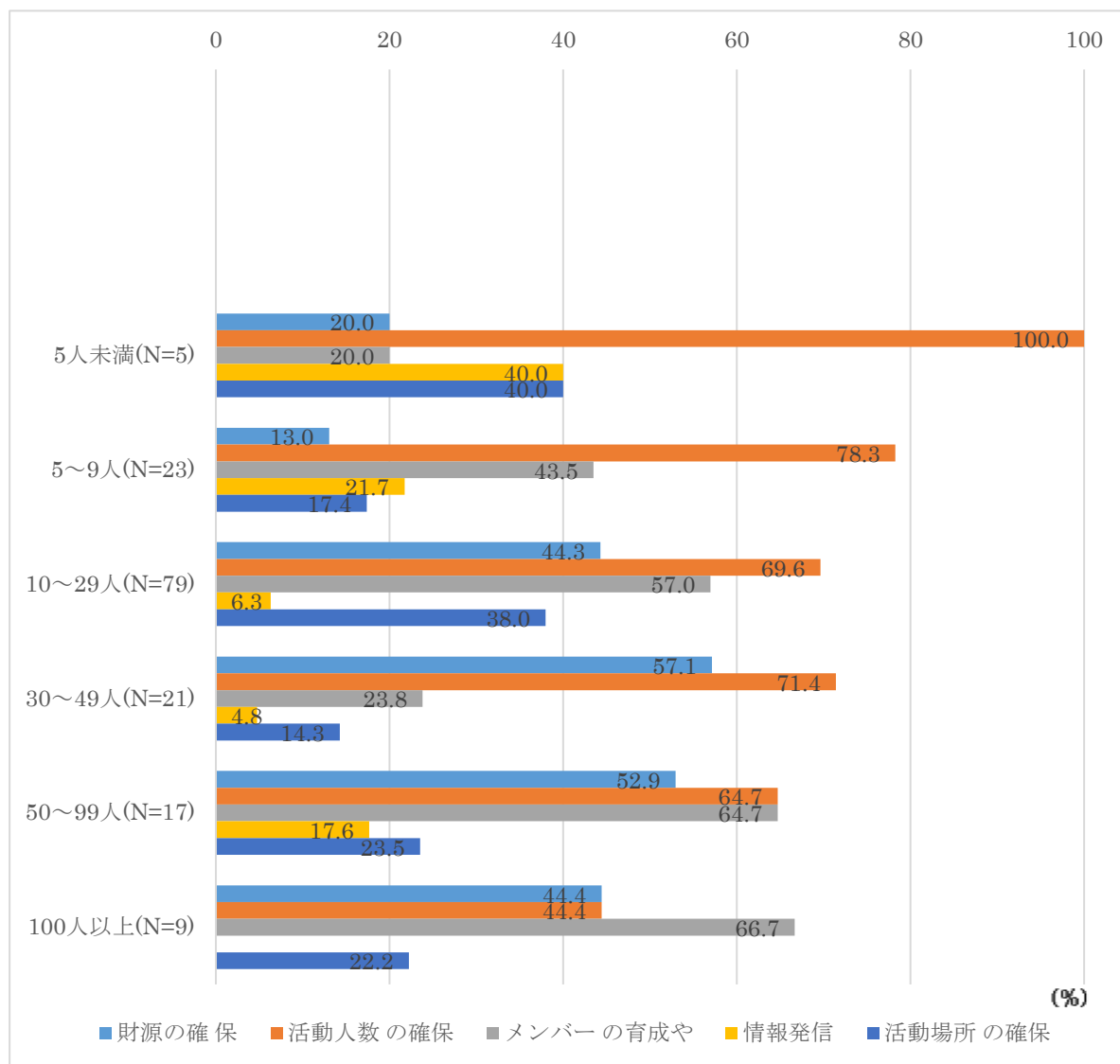
・「活動人数の確保」は、全10団体中9団体で最も高い割合で回答があり、各団体にとって大きな課題になっていることが分かる。割合をみると、デザイン・造形と芸能で100.0%（各1団体）と最も高く、伝統芸能で86.7%（13団体）、音楽で76.9%（40団体）になっている。

・「メンバーの育成や後継者の確保」はデザイン・造形と芸能で100.0%（各1団体）で、歴史・埋蔵文化財と講座・セミナーでは75.0%（各2団体）、伝統芸能では73.3%（11団体）の順で高い割合になっている。

・「情報発信」は、講座・セミナーで25.0%（1団体）、次いで伝統芸能の20.0%（3団体）、演舞の13.6%（3団体）の順で割合が高くなっている。

・「活動場所の確保」はデザイン・造形で100.0%（1団体）、音楽の36.5%（19団体）、文学の31.3%（5団体）の順で割合が高い。

### ■団体の人数



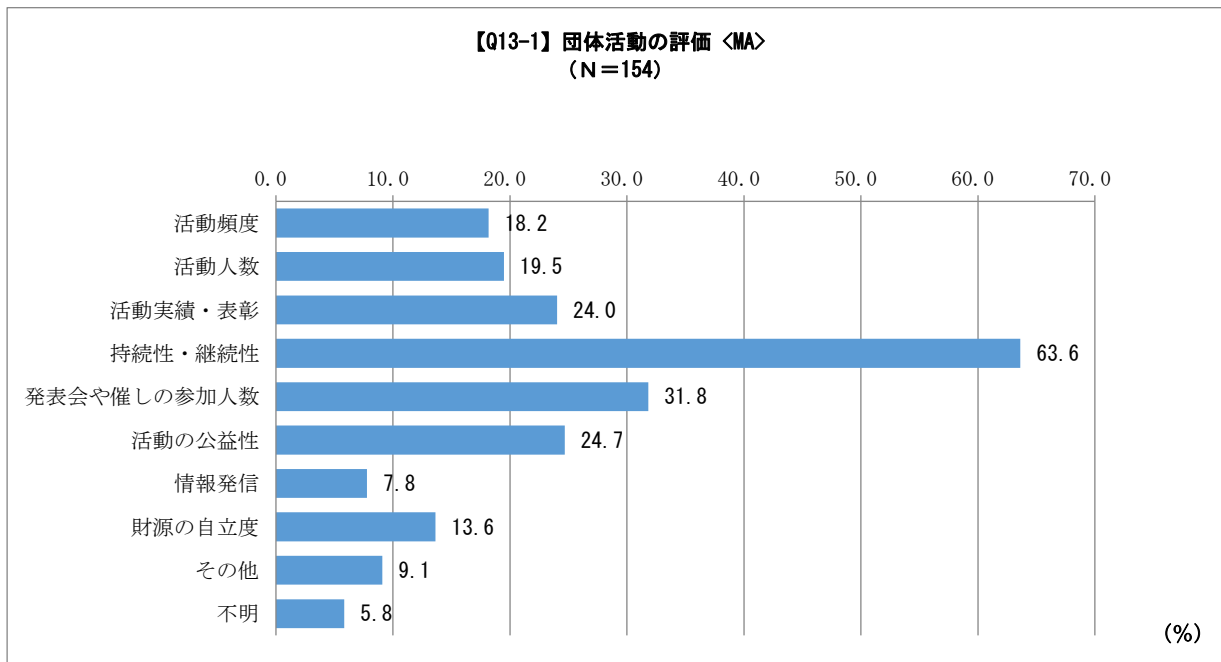
・団体の人数で見ると、「財源の確保」は30～49人の団体で57.1%（12団体）と最も高い割合になっており、次いで50～99人の52.9%（9団体）、100人以上の44.4%（4団体）の順になっている。

「活動人数の確保」は、5人未満の団体で100.0%（5団体）と最も高く、次いで5～9人の78.3%（18団体）、30～49人の71.4%（15団体）の順になっている。活動人数が少ない団体ほど回答の割合が高い傾向になっている。

・「メンバーの育成や後継者の確保」は100人以上の団体で最も高い66.7%（6団体）となり、50～99人の64.7%（11団体）、10～29人の57.0%（45団体）になっている。全体的に活動人数が多いほど高い割合になっているが、30～49人では23.8%（5団体）と低くなっており、一貫性がない。

【問 13】あなたの団体の活動を評価するとき、重視してほしいことはどれですか。〈IN〉

	全 体	活動頻度	活動人数	活動実績 ・表彰	持続性 ・継続性	発表会や催し の参加人数
件数	154	28	30	37	98	49
%	100.0	18.2	19.5	24.0	63.6	31.8
	活動の 公益性	情報発信	財源の 自立度	その他	不明	
件数	38	12	21	14	9	
%	24.7	7.8	13.6	9.1	5.8	

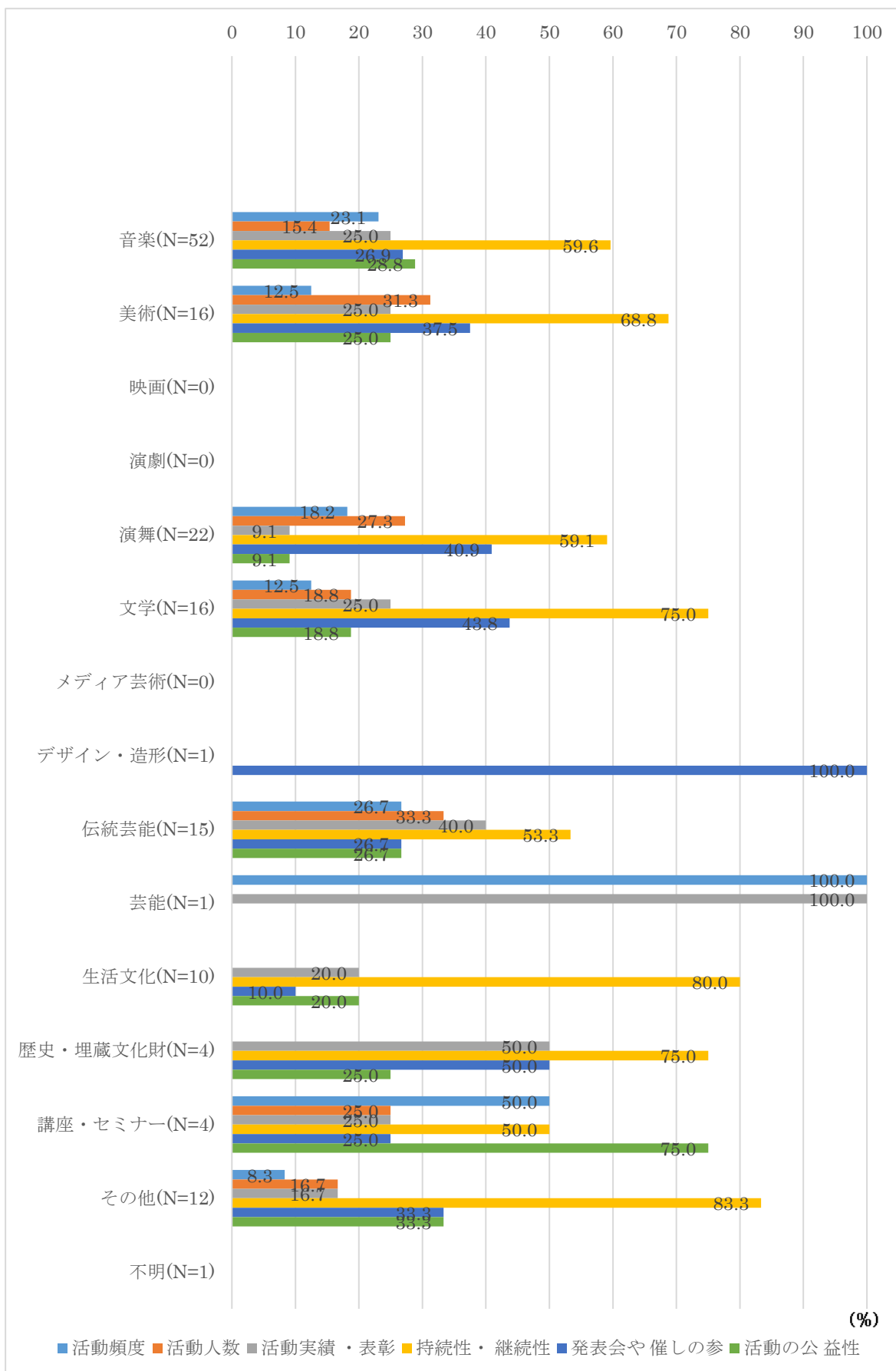


＜その他の回答＞

人とのつながり／ボランティア活動／会員の満足度／活動の質の高さ／地域のつながり／歌上達を目指して／伝統芸能の正調な振り、内容を重視している／活動の楽しさ／長年にわたり三田市友好使節として、米国・韓国の姉妹都市を訪問して演奏／日本文化の継承であるという事実。高齢者問題、時々世代育成にとっても重要であること、義務教育として撮りあけても良いほど貴重な活動であるということ／評価を求めて活動していない。しかし地域の方々と触れあうイベントに参加（出演）したとき、また次もと声をかけていただくととてもうれしい。

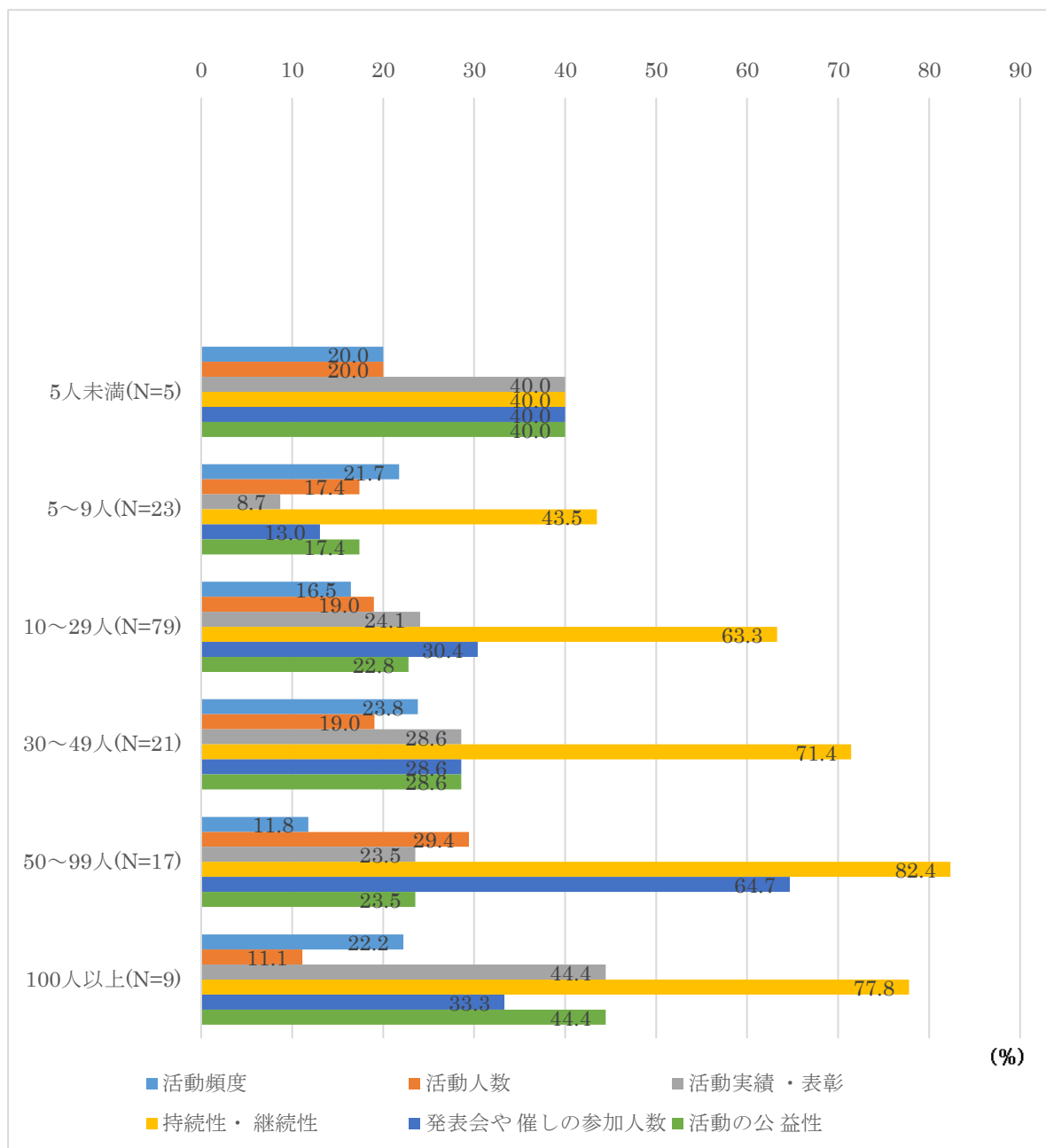
・「持続性・継続性」がもっとも多く 63.6%にのぼっている。次いで「発表会や催しの参加人数」(31.8%)、「活動の公益性」(24.7%)、「活動実績・表彰」(24.0%)となっている。「持続性・継続性」が6割を占めたのは、活動歴20年以上の団体からの回答が全体の6割を占めている（問3参照）実態を反映した結果と考えられる。逆に、「情報発信」(7.8%)や「財源の自立度」(13.6%)は低い結果になっている。

■活動分野



- ・活動分野別に見ると、「活動頻度」では講座・セミナーで50.0%（2団体）と最も高く、次いで伝統芸能の26.7%（4団体）、音楽の23.1%（12団体）となっている。
- ・「活動人数」では、伝統芸能で33.3%（5団体）と最も高く、次いで美術の31.3%（5団体）、演舞の27.3%（6団体）となっている。
- ・「活動実績・表彰」では、50.0%（2団体）が最も高く、伝統芸能の40.0%（6団体）、音楽（13団体）、美術（4団体）、文学（4団体）の25.0%の順で高い割合になっている。
- ・「持続性・継続性」では、生活分野で80.0%（8団体）と最も高く、次いで文学（12団体）、歴史・埋蔵文化財（3団体）の75.0%、美術の68.8%（11団体）の順になっている。
- ・「発表会や催しの参加人数」では、デザイン・造形で100.0%（1団体）に続き、埋蔵文化財の50.0%（2団体）、文学の43.8%（7団体）の順になっている。低い回答としては、生活文化の10.0%（1団体）、講座・セミナーの25.0%（1団体）となっている。
- ・「活動の公益性」では、講座・セミナーが75.0%（3団体）と最も高く、次いで音楽の28.8%（15団体）、伝統芸能の26.7%（4団体）の順になっている。

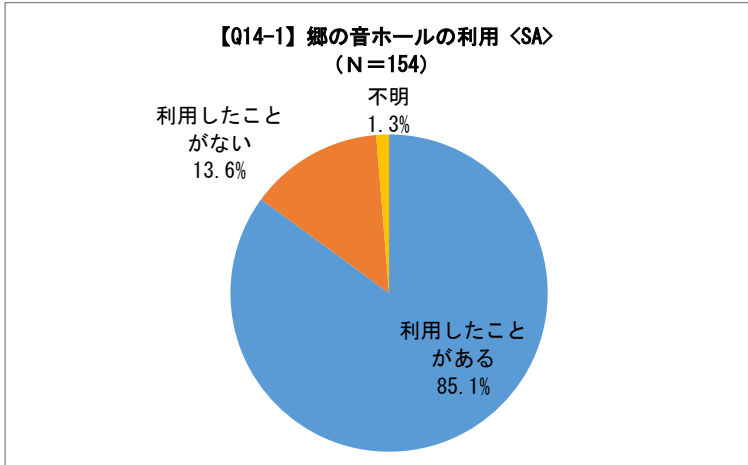
## ■団体の人数



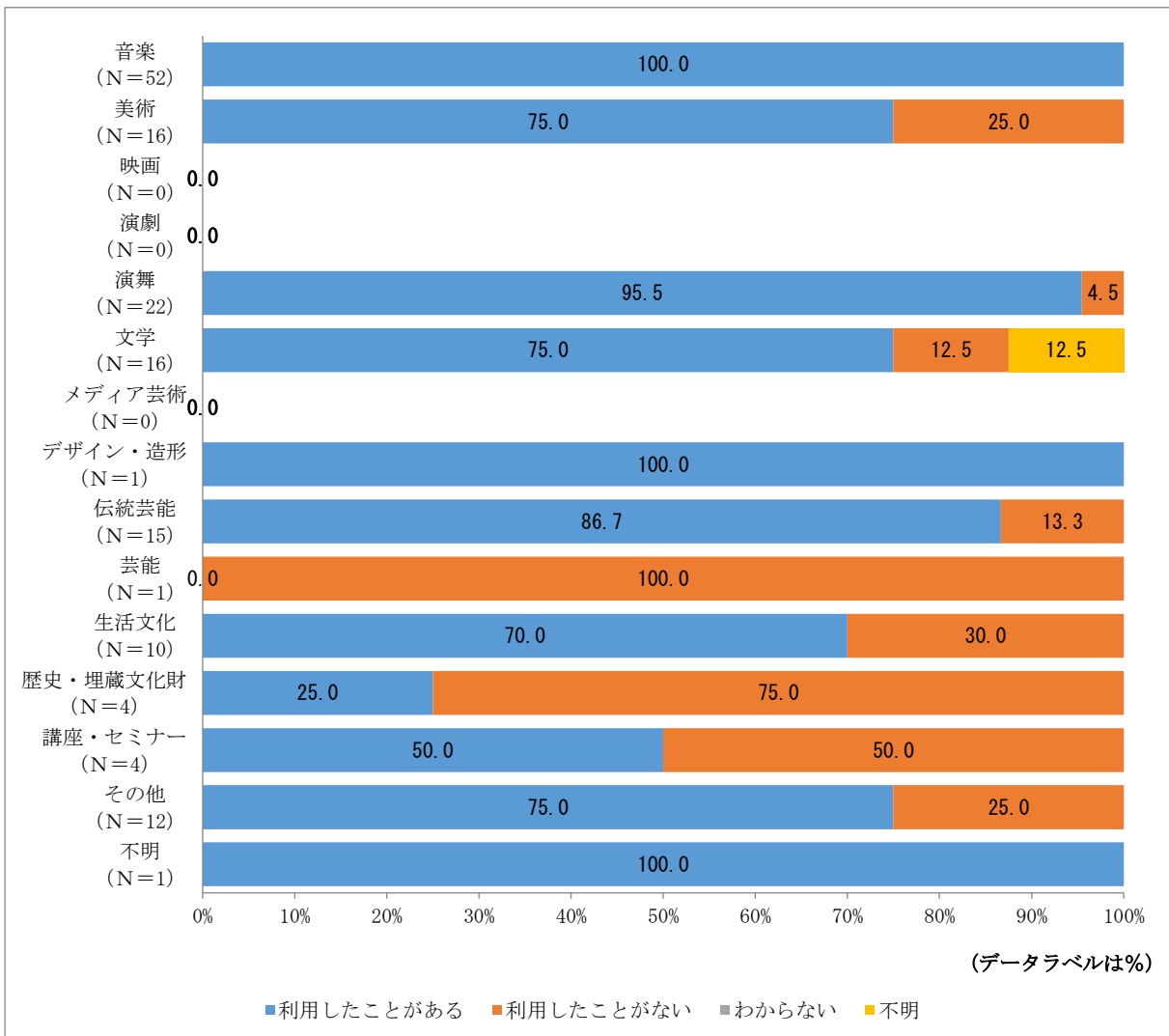
- ・団体の人数別に見ると、最も回答数の多かった「持続性・継続性」については、50~99人の団体で最も高く82.4%（14団体）が回答した。次いで100人以上の77.8%（7団体）、30~49人の71.4%（15団体）となっており、全体的に参加人数が多い団体ほど高い割合を占めている。
- ・「発表会や催しの参加人数」では、50~99人の団体で64.7%（11団体）と最も高く、次いで5人未満で40.0%（2団体）、100人以上で33.3%（3団体）となっている。
- ・「活動の公益性」は100人以上で44.4%（4団体）と最も高く、次いで5人未満の40.0%（2団体）、30~49人の28.6%（6団体）となっている。

【問 14-1】 総合文化センター（郷の音ホール）を利用したことはありますか。〈SA〉

	全 体	利用したこと がある	利用したこと がない	わからない	不明
件数	154	131	21	0	2
%	100.0	85.1	13.6	0.0	1.3



■活動分野



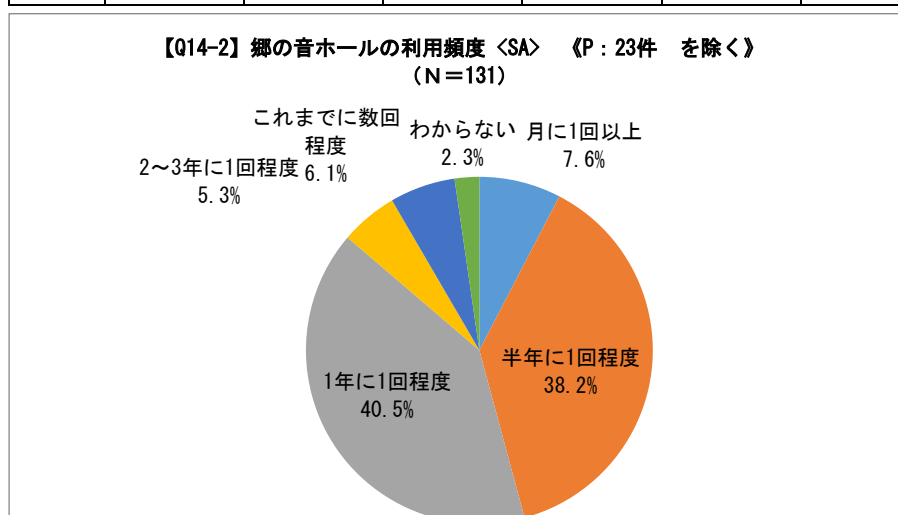


・活動分野別に見ると、音楽（52 団体）、デザイン・造形（1 団体）ですべての団体が「利用したことがある」と回答している。

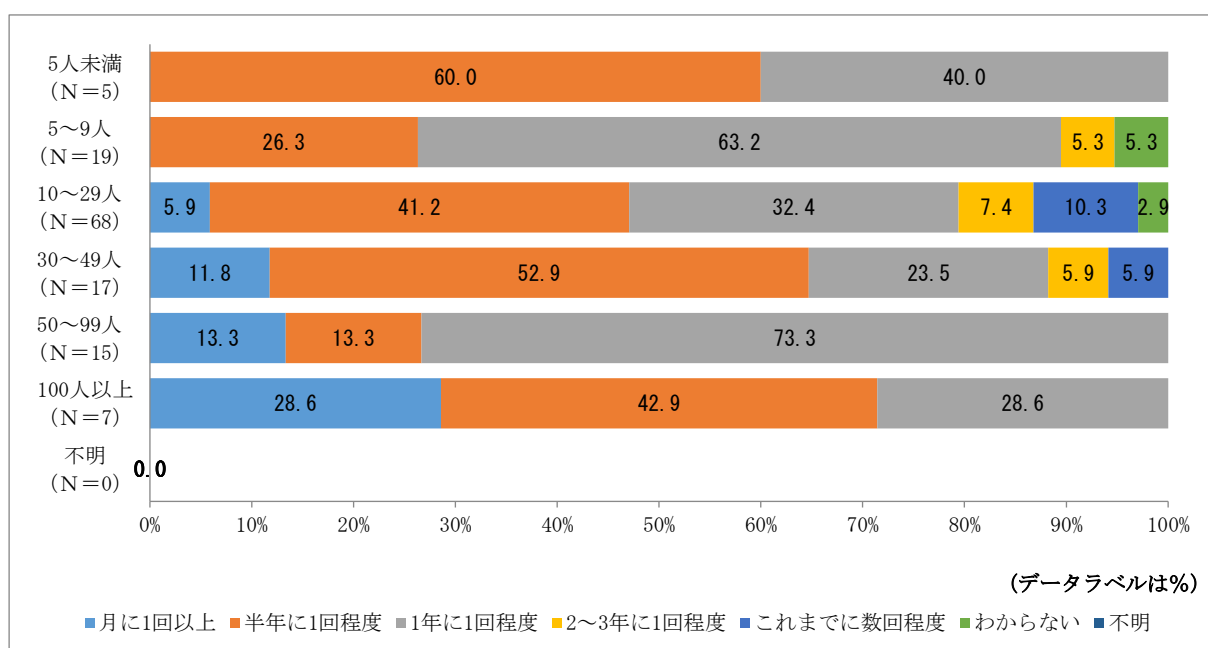
・「利用したことがない」の割合を見ると、芸能（1 団体）で 100.0%となり、次いで歴史・埋蔵文化財で 75.0%（3 団体）、講座・セミナーで 50.0%（2 団体）となっている。

【問 14-2】 郷の音ホールの利用頻度<SA>

	全 体	月に 1 回以上	半年に 1 回程度	1 年に 1 回程度	2~3 年に 1 回程度	これまでに数回程度	わからない	不明
件数	154	10	50	53	7	8	3	0
%	100.0	6.5	32.5	34.4	4.5	5.2	1.9	0.0

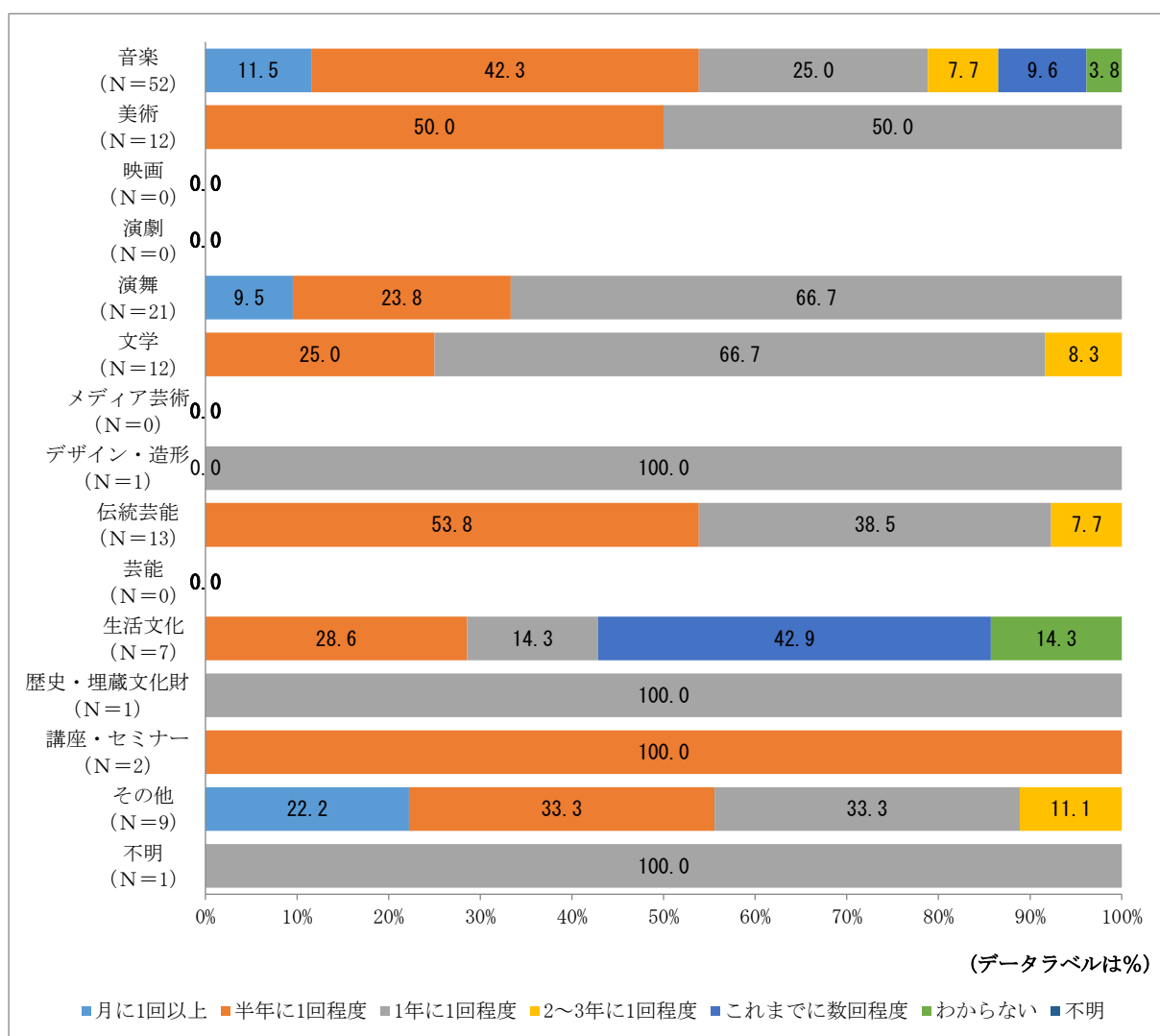


■ 団体の人数



- ・団体の人数別に見ると、「月に1回以上」は100人以上の団体で28.6%（2団体）と最も高い割合になっており、次いで50～99人で13.3%（2団体）、30～49人で11.8%（2団体）となっている。参加人数の多い団体において、郷の音ホールは通常の活動の場選ばれていることが分かる。
- ・「半年に1回以上」は5人未満の団体で60.0%（3団体）と最も高く、次いで30～49人で52.9%（8団体）、100人以上で42.9%（3団体）になっている。「1年に1回程度」は50～99人で73.3%（11団体）と最も高い割合になり、次いで5～9人で63.2%（12団体）の順になっており、利用団体の多くが年1～2回程度の利用回数であることが分かる。

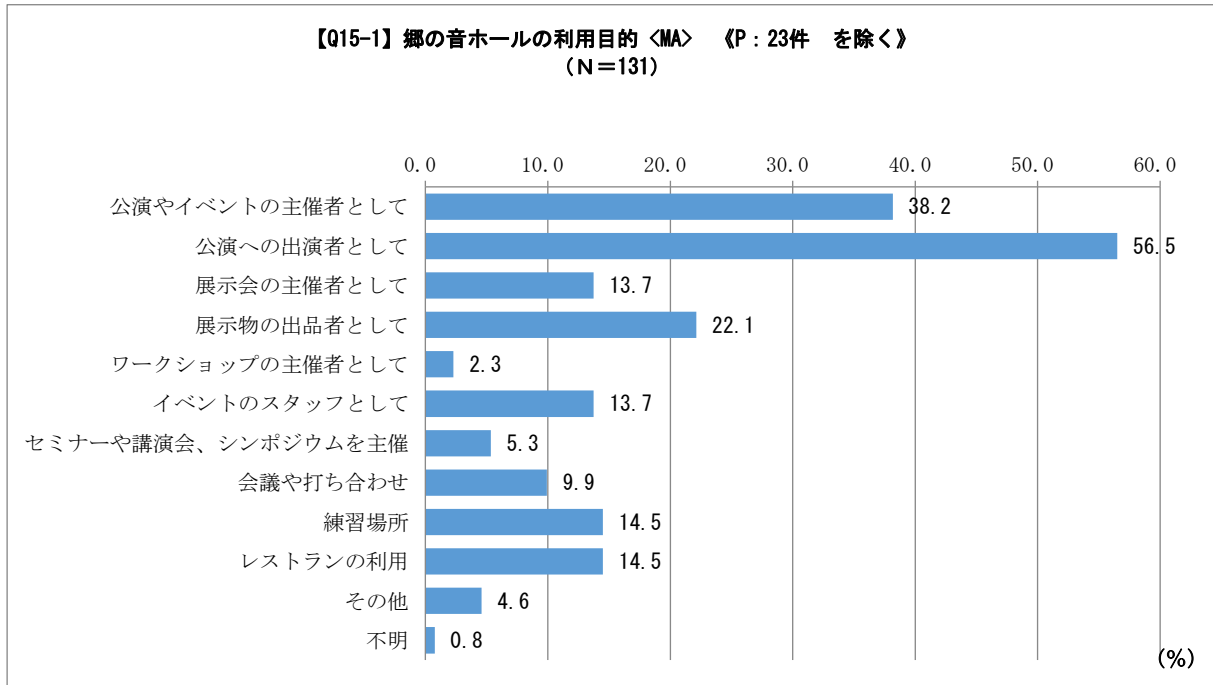
## ■活動分野



- ・活動分野別で見ると、「月に1回以上」は音楽で最も高い11.5%（6団体）で、次いで演舞の9.5%（2団体）となっている。
- ・「半年に1回程度」は講座・セミナーで100.0%（2団体）に続いて、伝統芸能で53.8%（7団体）、美術で50.0%（6団体）となっている。
- ・「1年に1回程度」はデザイン・造形と歴史・埋蔵文化財で100.0%（各1団体）、演舞で66.7%（14団体）、文学で66.7%（8団体）となっている。

【問 15】 郷の音ホールの利用目的は次のうちどれですか。〈MA〉

	全 体	公演やイベントの主催者として	公演への出演者として	展示会の主催者として	展示物の出品者として	ワークショップの主催者として	イベントのスタッフとして
件 数	154	50	74	18	29	3	18
%	100.0	32.5	48.1	11.7	18.8	1.9	11.7
	セミナーや講演会、シンポジウムを主催	会議や打ち合わせ	練習場所	レストランの利用	その他	不明	
件 数	7	13	19	19	6	1	
%	4.5	8.4	12.3	12.3	3.9	0.6	

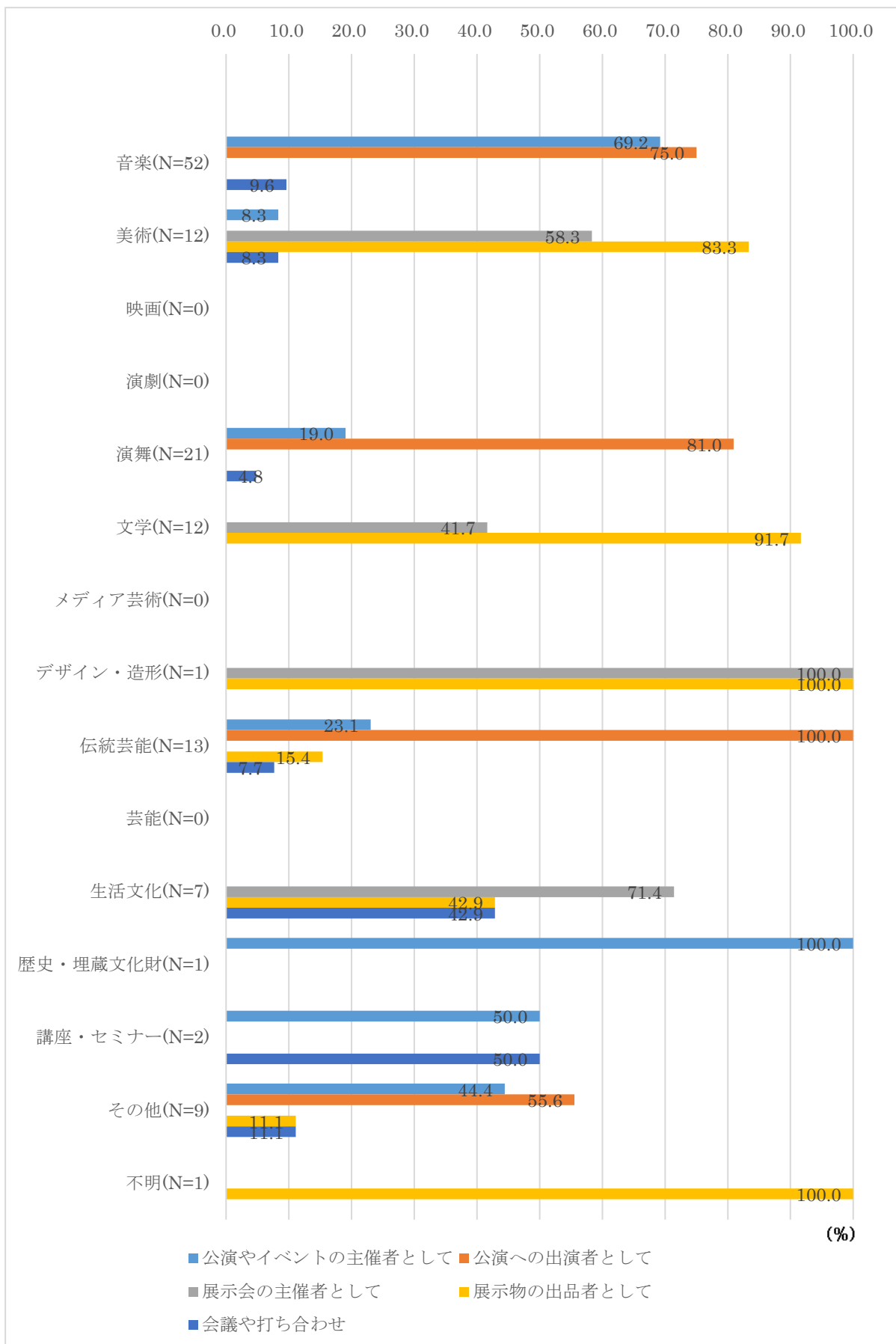


<その他の回答 (各 1 件) >

文化祭／市民文化祭／吹奏楽連盟主催の発表会／イベントの参加者／ホール主催のワークショップ事業の受託者として／出品／出演者鑑賞／イベントへの啓発活動としての参加

・「公演への出演者として」がもっとも多く 56.5%を占めている。以降、「公演やイベントの主催者として」(38.2%)、「展示会の出品者として」(22.1%)と続き、発表機会として利用している回答が上位を占めている。一方で「練習場所」(14.5%)、「会議や打ち合わせ」(14.5%)、「イベントのスタッフとして」(13.7%)など、日常利用や開催運営への関わりもあることが分かる。

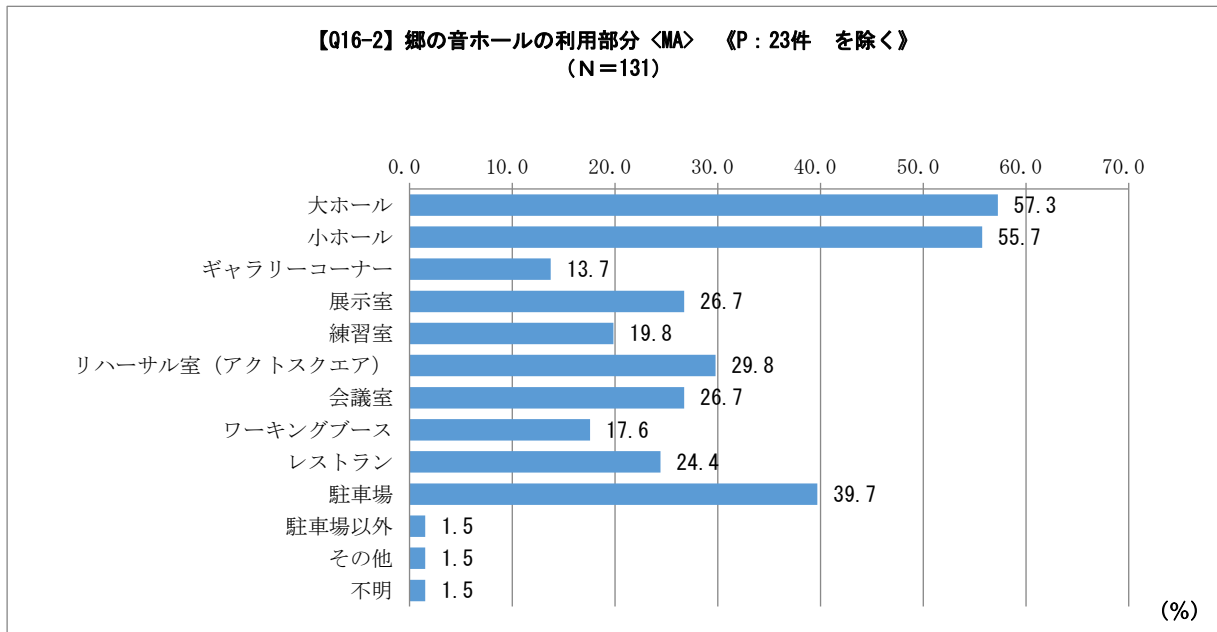
■活動分野



- ・活動分野で見ると、「公演やイベントの主催者として」利用したのは、歴史・埋蔵文化財で 100.0% (4 団体)、音楽で 69.2% (36 団体)、講座・セミナーで 50.0% (2 団体) の順で高くなっている。
- ・「公演への出演者として」では、伝統芸能で 100.0% (13 団体) と最も高く、次いで演舞の 81.0% (17 団体)、音楽の 75.0% (39 団体) となっている。
- ・「展示会の主催者として」では、デザイン・造形で 100.0% (1 団体) に続いて、生活文化の 71.4% (5 団体)、美術の 58.3% (7 団体) となっている。
- ・「展示物の出品者として」では、デザイン・造形で 100.0% (1 団体) に続いて、文学で 91.7% (11 団体)、美術で 83.3% (10 団体) となっている。
- ・「会議や打ち合わせ」では、講座・セミナーで 50.0% (2 団体) と最も高く、次いで生活文化の 42.9% (3 団体)、音楽の 9.6% (5 団体) となっている。

【問 16-1】 郷の音ホールのどの部分を利用されましたか。〈MA〉

	全 体	大ホール	小ホール	ギャラリー コーナー	展示室	練習室	リハーサル室 (アクトスクエ ア)
件数	131	75	73	18	35	26	39
%	100.0	57.3	55.7	13.7	26.7	19.8	29.8
	会議室	ワーキング ブース	レストラン	駐車場	駐車場 以外	その他	不明
件数	35	23	32	52	2	2	2
%	26.7	17.6	24.4	39.7	1.5	1.5	1.5



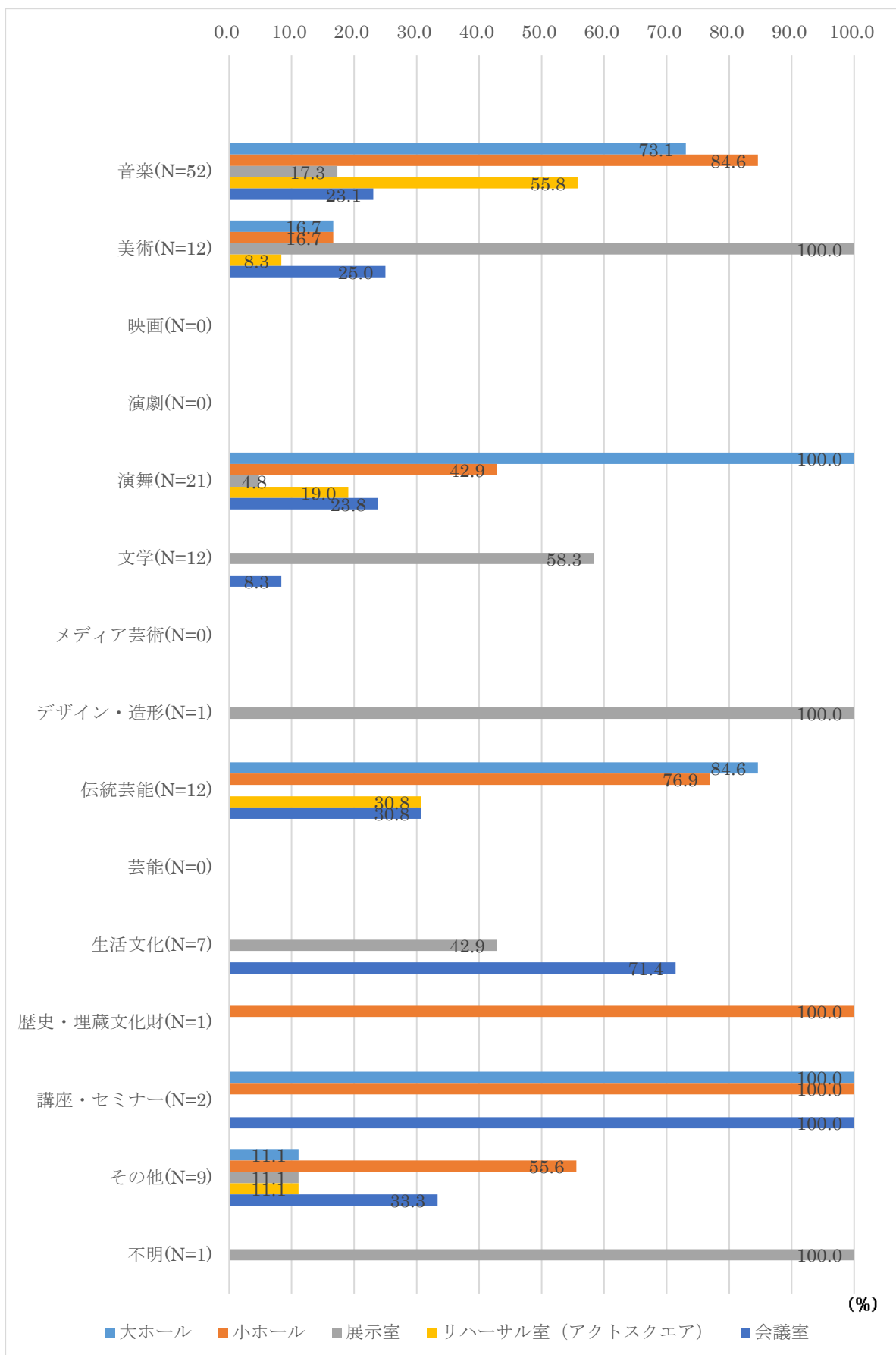
〈その他の回答 (各 1 件)〉

石舞台、東庭の平和の鐘の打鐘

・屋内では、「大ホール」(57.3%)と「小ホール」(55.7%)の2つのホールの利用率が高いことが分かる。「リハーサル室」(29.8%)、「練習室」(19.8%)など公演に関連した部屋の利用もみられるが、ホール利用よりも低い割合になっており、あくまでも発表当日のみ利用している団体が多いことがうかがえる。「会議室」は26.7%、「ワーキングブース」は17.6%となっている。

・屋外では、「駐車場」が39.7%を占め、マイカーによる利用が多いことが分かる。郷の音ホールでは屋外を利用するイベントも開催されているが、「駐車場以外」を利用した団体は1.5%にとどまっている。

■活動分野

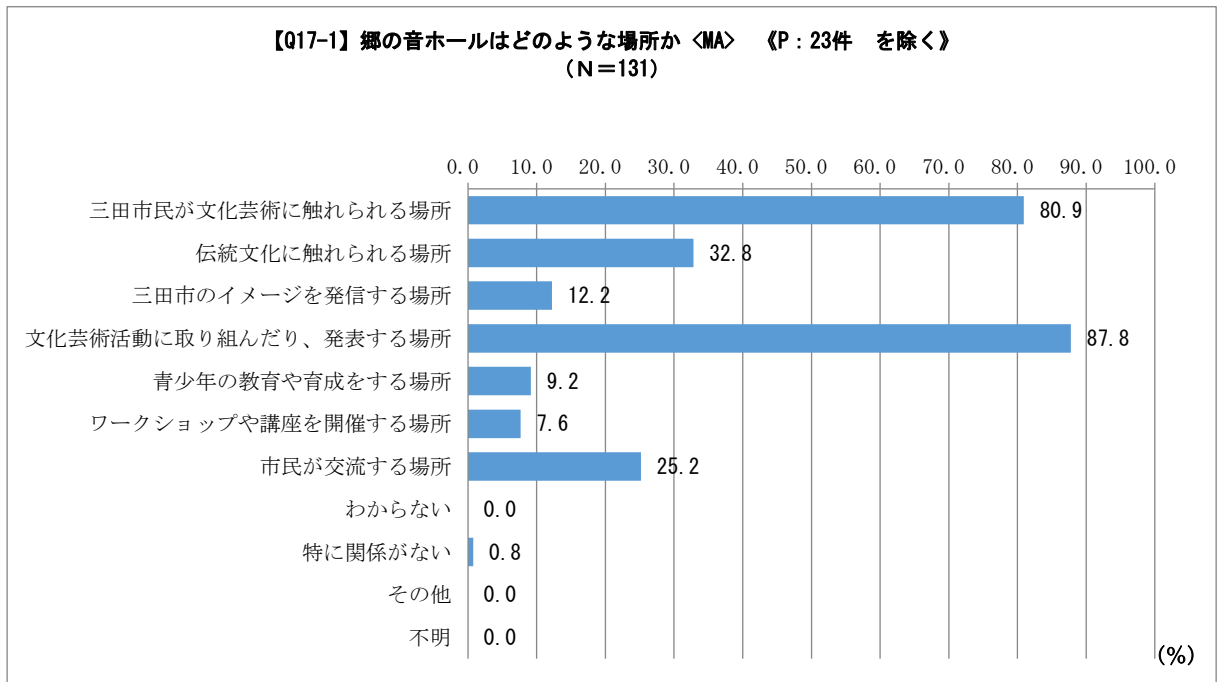


- ・活動分野別で見ると、「大ホール」は演舞（21 団体）と講座・セミナー（2 団体）で 100.0%と最も高く、伝統芸能の 84.6%（10 団体）、音楽の 73.1%（38 団体）と続いている。文学、デザイン・造形、芸能、生活文化、歴史・埋蔵文化財からの回答はなかった。
- ・「小ホール」は歴史・埋蔵文化財（1 団体）と講座・セミナー（4 団体）で 100.0%と最も高く、音楽の 84.6%（44 団体）、伝統芸能の 76.9%（9 団体）の順になっている。
- ・「展示室」は美術（12 団体）とデザイン・造形（1 団体）で 100.0%と最も高く、次いで文学の 58.3%（7 団体）、生活文化の 42.9%（3 団体）の順になっている。
- ・「リハーサル室」は音楽で 55.8%（29 団体）と最も高く、伝統芸能の 30.8%（3 団体）、演舞の 19.0%（4 団体）の順になっている。
- ・「会議室」は講座・セミナーで 100.0%（2 団体）と最も高く、生活文化の 71.4%（5 団体）、伝統芸能の 30.8%（3 団体）の順になっている。
- ・以上のことから、大ホールは音楽や演舞、小ホールは音楽や講座等、展示室は作品展示等というように、活動分野によって利用する部屋に違いがあることが分かる。



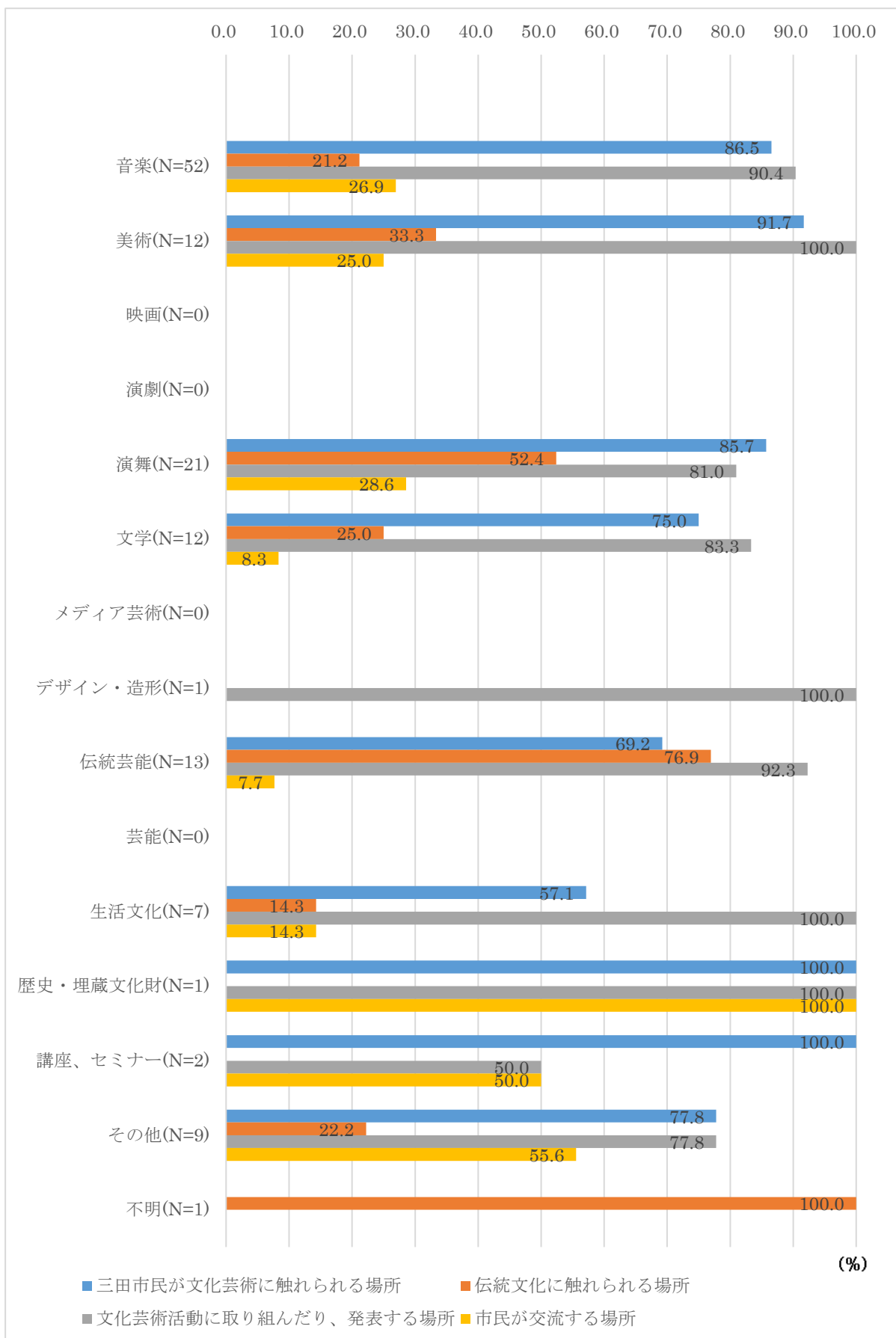
【問 17】 あなたの団体にとって、郷の音ホールはどのような場所ですか。〈IN〉

	全 体	三田市民が文化芸術に触れられる場所	伝統文化に触れられる場所	三田市のイメージを発信する場所	文化芸術活動に取り組んだり、発表する場所	青少年の教育や育成をする場所
件数	131	106	43	16	115	12
%	100.0	80.9	32.8	12.2	87.8	9.2
	ワークショップや講座を開催する場所	市民が交流する場所	わからない	特に関係がない	その他	不明
件数	10	33	0	1	0	0
%	7.6	25.2	0.0	0.8	0.0	0.0



・「文化芸術活動に取り組んだり、発表する場所」がもっとも多く（87.8%）、次いで「三田市民が文化芸術に触れられる場所（80.9%）」となっている。しかし「伝統文化に触れられる場所」は55ポイントも低い32.8%であり、「市民が交流する場所」はさらに低く25.2%になっている。また、「青少年の教育や育成をする場所」（9.2%）、「ワークショップや講座を開催する場所」（7.6%）も低い回答であり、文化芸術活動を発表したり、鑑賞する場所という認識は高いが、市民の教育や交流する場所としての認識は低いことが分かる。

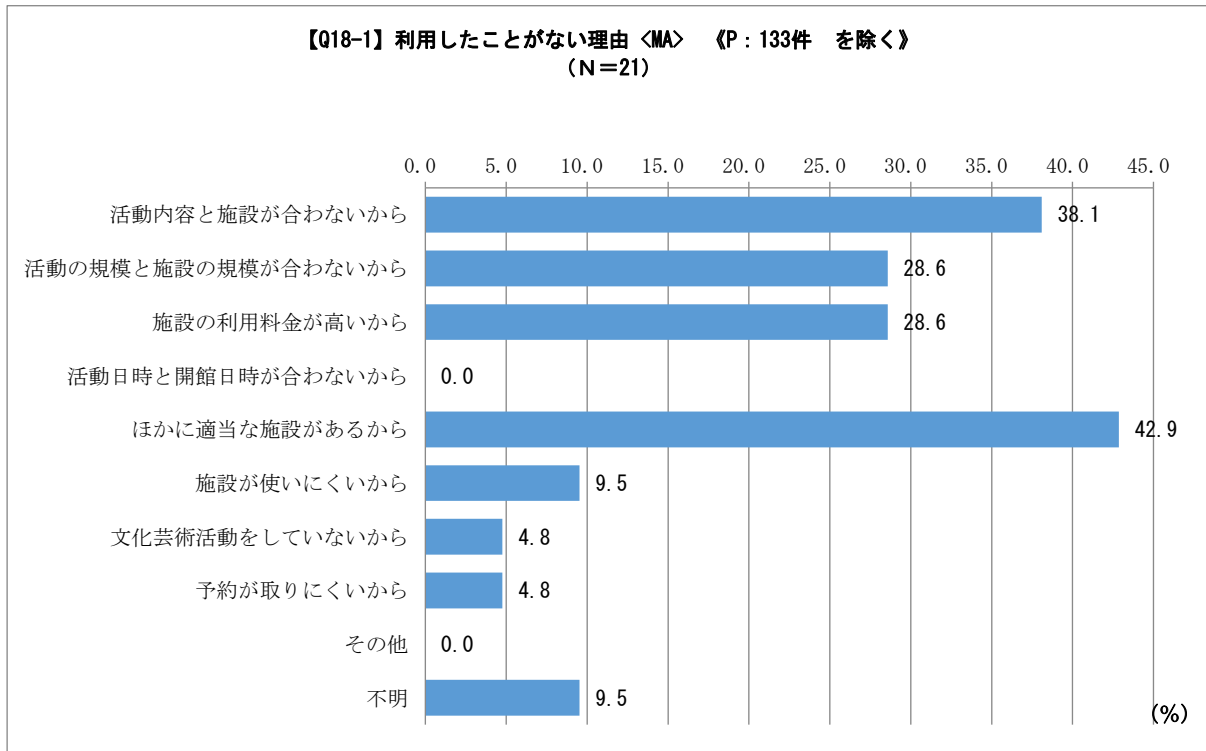
■活動分野



- ・活動分野別に見ると、「三田市民が文化芸術に触れられる場所」は歴史・埋蔵文化財（1 団体）と講座・セミナー（2 団体）でともに 100.0%と最も高く、美術 91.7%（11 団体）、演舞 85.7%（18 団体）と続いている。
- ・「伝統文化に触れられる場所」は、伝統芸能で 76.9%（10 団体）と最も高く、演舞 52.4%（11 団体）、美術 33.3%（4 団体）と続いている。
- ・「文化芸術に取り組んだり、発表する場所」は、美術（15 団体）、デザイン・造形（1 団体）、生活文化（7 団体）、歴史・埋蔵文化財（1 団体）で 100.0%を占めている。続いて伝統芸能 92.3%（12 団体）、文学 83.3%（10 団体）の順になっている。
- ・「市民が交流する場所」は歴史・埋蔵文化財で 100.0%（1 団体）と最も高いが、次点の講座・セミナーでは 50.0%（1 団体）、演舞 28.6%（6 団体）と落ち込みが激しい。

【問 18】 利用したことがない理由は何ですか。〈MA〉

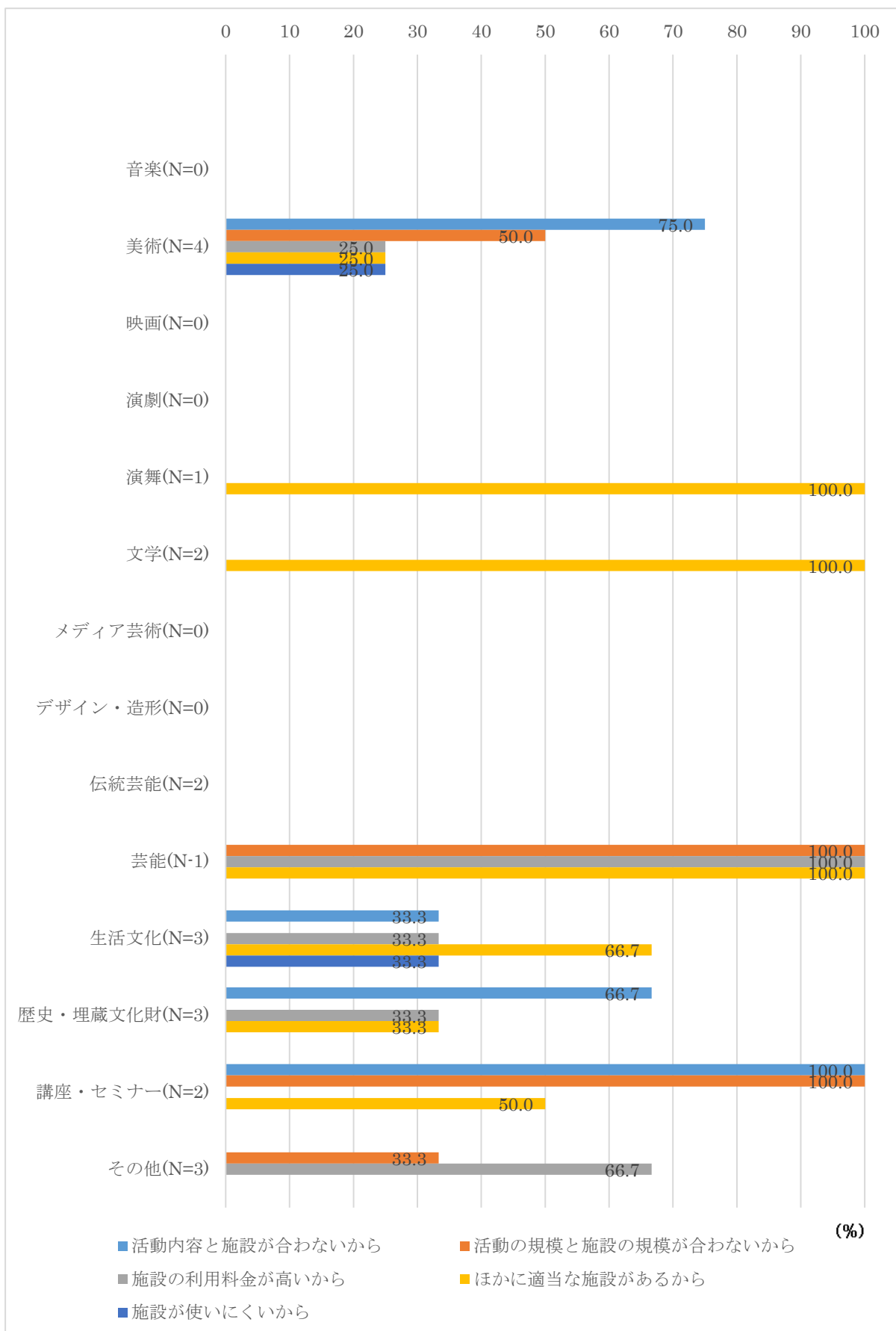
	全 体	活 動 内 容 と 施 設 が 合 わ な い か ら	活 動 の 規 模 と 施 設 の 規 模 が 合 わ な い か ら	施 設 の 利 用 料 金 が 高 い か ら	活 動 日 時 と 開 館 日 時 が 合 わ な い か ら	ほ か に 適 当 な 施 設 が あ る か ら
件数	21	8	6	6	0	9
%	100.0	38.1	28.6	28.6	0.0	42.9
	施 設 が 使 い に く い か ら	文 化 芸 術 活 動 を し て い な い か ら	予 約 が 取 り に く い か ら	そ の 他	不 明	
件数	2	1	1	0	2	
%	9.5	4.8	4.8	0.0	9.5	



・「ほかに適当な施設があるから」が 42.9%で最も多く、以下「活動内容と施設が合わないから」(38.1%)、「活動の規模と施設の規模が合わないから」(28.6%)、「施設の利用料金が低いから」(28.6%)と続く。

・「活動内容と施設が合わない」と回答した団体の内訳は、美術(3)、生活文化(1)、歴史・埋蔵文化財(2)、講座・セミナー(2)である。また、「活動の規模と施設の規模が合わない」と回答したのは、美術(2)、芸能(1)、講座・セミナー(2)、その他(1)となっている。

■活動分野



- ・活動分野別に見ると、「活動内容と施設が合わない」は、講座・セミナーで100.0%（2団体）、美術で75.0%（3団体）、歴史・埋蔵文化財で66.7%（2団体）、生活文化で33.3%（1団体）となっている。
- ・「活動の規模と施設の規模が合わない」は、芸能（1団体）と講座・セミナー（2団体）で100.0%になっており、美術で50.0%（2団体）となっている。
- ・「施設の利用料金が安いから」は、芸能で100.0%（1団体）、生活文化（1団体）と歴史・埋蔵文化財（1団体）で33.3%、美術で25.0%（1団体）となっている。
- ・「ほかに適当な施設があるから」は、演舞（1団体）と文学（2団体）、芸能（1団体）で100.0%になっており、生活文化66.7%（2団体）、講座・セミナー50.0%（1団体）と続いている。
- ・「施設が使いにくいから」は講座・セミナーで100.0%（2団体）と最も高く、生活文化33.3%（1施設）、美術25.0%（1施設）となっている。
- ・以上のことから、特に多くの項目において回答のあった美術、芸能、生活文化、歴史・埋蔵文化財、講座・セミナー分野においては、郷の音ホールの規模や設えが必ずしも活動のニーズと合っていないことが分かる。

【問 19】 その他、郷の音ホールについて自由にご意見をお聞かせください。 <FA>

1) 三田市のホールとして

- ・三田市民にとって、また文化芸術を愛するものにとっても「夢と憧れ」を実現する唯一の場所である。新築された文化センターを誇りに思っています。
- ・郷の音ホールが出来て、三田において高い芸術に触れる機会が増えて喜んでいる。又、それぞれの発表も満足されている様です。
- ・いつもお世話になっております。感謝しております。
- ・イベントも増え楽しみにしています。
- ・市民の文化活動拠点として維持発展を期待している。市民集いの場として、とりわけ生涯学習センターに適している。年間を通じて事業開催があればさらに市民に親近感が増すと思う。
- ・三田市文化拠点として誇らしい存在である。施設のメンテナンスを重要視して欲しい。市民芸術の発展の場として他にないステータスがある。市民が更に親近感を寄せる施策が欲しい。
- ・伝統芸能を伝える。子どもと共に学び次世代のために文化、芸術を残して伝えていく。ホールとしては素晴らしいといつも感謝しています。三田で人生の半分以上を過ごし嬉しい思いです。
- ・立地もよく施設も綺麗でよく利用させてもらっています。
- ・大・小ホールはいずれも音響効果が素晴らしく屋内外のデザインも良い。三田市民として誇りを持って利用できます。
- ・観覧者としては良く利用しています。三田の文化芸術の発信場所です。

2) 公演・イベントの企画について

- ・地元根付いた公演が多いと感じる。公演にあたり、もっと郷の音からのバックアップがあれば、大きな団体（有名）を呼ぶこともできるのではないかと思う。入場無料や 1,000 円くらいのイベントばかりだなと感じたことがあった。
- ・郷の音ホールでの催しは音楽関係ではほとんどといっていいほど洋楽ばかりなので、もう少し邦楽にも目を向けていただき三田から日本文化の邦楽（民謡、三味線、日本舞踊等）も取り入れていただきたい。
- ・郷の音ホール常駐の技術スタッフを積極的に活用する催しを増やすべき、その際の人件費等のコスト面を助成する制度があれば増えるかも。洋楽やクラシック系の偏重のきらいあり。地元の伝統文化に対する支援等を拡充すべき。ワークショップや実行委員会が伝統文化のジャンルには皆無の現状。
- ・三田市民文化祭の演目に伝統文化、芸能を加えていただき、宗教的概念はなく長きに亘り、庶民の娯楽性が馴染んでおり、素朴な面の意外性を広めたい。
- ・伝統文化の振興を願っています。
- ・文化芸術振興のために、より多くの方が郷の音ホールを利用できるように、子ども向け、高齢者向けのように年代別に企画されるのはどうでしょう。低額な料金で実施できればよいと思います。子育てで忙しい世代も親子で楽しめるイベントを増やし、障害のあるお子さんもより気軽に参加できる事業が増えると楽しめると思います。
- ・需給バランスもあると思いますが、大ホールにおいて、著名な音楽家、歌手を時折招いて欲し

いです。

### 3. 利用について

- ・養生テープで机にポスター等が貼れるよう検討してほしい。
- ・第一にホールは市民の宝として認識しています。ホールの独自の企画には時々参加します。勉強になります。お客さまの高齢化などにより、車椅子等の利用者にとって、1階入口が開いてない、又トイレが速いかなと思います。
- ・展示品のケースがなく安全性に欠ける！
- ・リハーサル室がもう一つ欲しい（大・小ホールで本番時どちらかが使えない）。大・小ホール未使・用時に控え室を練習利用させて欲しい。
- ・展示室を使用するのですが、展示用のパネルが使用しにくい施設の利用料金が高いけど、ほかに適当な場所がなく展示日数を最短にして使用している。
- ・展示スペースがない、また展示物が見にくい場所になっている。
- ・多くの団体が常に利用できるように壁面の開放を検討してほしい。展示室やホール利用のときのみ、看板が使用可能ですが、他の部屋での催事に関しても看板の使用を認めてほしい。
- ・発表会を開催するにあたり、大ホールでは大きすぎ、小ホールは観客席が少なすぎという思いがあります。その間の中ホールが欲しかったです。色々なところ、県外問わず発表会に出演させていただきますが、他と比べて、小ホールの楽屋が狭すぎに思います。ホールは綺麗で胸を張れますが、発表会に他府県から出演していただいた時、楽屋についての指摘が多かったので、せめて倍の広さは欲しいです。ホールは誉めていただきました。
- ・児童作品展を開催していますが、ロビーや壁面を無料で貸していただけると三田市全小学校からの応募作品を市民の皆様に見ていただけます。もちろん。受賞者の家族、学校関係者の方の来館も期待できます。
- ・東庭の芝生広場について：最近子どもたちがサッカーボールで遊んでいる場面や家族連れでくつろいでいる風景をみるが増してきました。平和の鐘もせっちされ、非核平和都市三田のシンボルに近づいてきたと感じています。引き続き、草刈等の整備をこまめに実施されるよう望みます。特に市のイベントで打鐘のある前には整備をお願いします。また若者が行きたくなるスポットとして、世界平和と愛の誓いを込めて、一時流行した鎖に鍵を吊るす鎖の設置ができないか等、仕掛けを検討してほしい。
- ・ホールの利用の際に、災害時の避難誘導に関して要員計画書の提出がいるとのことですが、実際にホールを利用している間は団体のメンバーは全員ステージで演奏中なので、何が起こっても観客を誘導するのは難しいと思います。ホール側の誘導體制はどうなっているのでしょうか。災害時には各自で動かず、ホールの係員の支持に従うように開演前にアナウンスのあるホールもありますが、郷の音ホールではそんなアナウンスを聞いたことがないです、指定管理料の管理者の使い方の内訳が不明なので高いのか安いのか妥当なのか分かりません。ホール歳出予算の96.9%にあたると知り、びっくりしました。
- ・練習室（コーラス）がない。
- ・盆栽の展示に中庭を利用させていただいております。雨のとき、花台等は変形することがあり、雨対策（ビニールでカバー）が必要になる。



- ・財源の少ない当方としては、年1回の郷の音ホールでのイベントに参加させていただくカタチでの利用となります。立派なホールを利用して大変ありがたいと思っています。
- ・一階の喫茶室の利用価値の低いのは残念ですあの場所に（上等の）フランス料理店等を置けば集客ができるし、遠いところまで食べに行く必要がないのに、といつも思います。食文化も大切にしたい。
- ・座席の通路をもう少し考える必要がある。
- ・郷の音ホールは、ひとつのグループでの使用は難しいので、三田市民文化祭のような大きなイベントの中でのたくさんの人が発表や展示、体験等参加できるものを作ってほしい。
- ・レストラン、カフェを魅力的な美味しい店にして欲しい。ホールでのコンサート等の予定を「伸びゆく三田」でお知らせして欲しい。

#### 4. 運営について

- ・指定管理業者の努力によって、三田の文化芸術が活性化していると思います。行政だけでは、できない能力を民間事業者は持っているので、さらに民間の活力を發揮できるように工夫していただきたい。
- ・指定管理者は市民の意見や要望を聞いて、市民の文化向上に寄与する企画を立案、実行してほしい。市民参加型の行事に力を入れるべし。
- ・市文化関係課+郷の音ホール+文化団体との緊密な関係の構築。
- ・三田の街に誇れるホールはスタッフの方々も熱心で親切です。ぜひ三田の文化発信の場として地域で活躍している団体への支援をお願いしたいです。既存の音楽協会や文化協会などとも連携して何かイベントを作って、市民に還元していただきたいです。
- ・もっと市民団体と連携して公演を行なうべきだと思う。満席になるのは吉本なつメロ、JPOPだけなどは残念だ。6~8割の入りでも市民団体を活用して回数を増やせばホールの稼働率も上がる。
- ・修繕引当金を積み立てて下さい。市民の協会と指定管理者が共同で市民イベントを企画から参画する契約にすることを希望します。※文化振興基金の残高がないので財政の見通しが分かりません。
- ・郷の音ホールも10年になり、最近友の会も減っているのではと心配しています。若い人達は文化芸術に触れる機会が少なくなり、パートで働く人や高齢化も進み、駅から歩くことも難しくなっています。私も昔のようにチケットを販売するのも出来なくなってきました。ホールのディレクターの佐々木さんや林さんも事務所では見かけません。昔は朝田さんがおられたので企画も相談やお話が色々で良い時代でした。
- ・単なる貸館事業とならないよう、三大の文化発展の基点となるビジョンと情熱をもった運営を期待したい。そのためにも、①他同様施設の実態を研究し、良いところを取り入れているか。例えば、上記ビジョンを持ったプロがいるのか。②予約方法は公平で効率が良いのか。③非効率な運営（例：コピーの利用方法、チケットの販売方法など）がないか。④愚痴だけでなく改善策を考え実行しているか。（④についてはSato-netの78のコピー、館としての努力は丹波篠山市田園交響ホールの実例を添付）
- ・郷の音ホールは、三田市文化芸術ビジョンを支える中核施設となるべきもので、音楽、演劇等、

舞台芸術が中心的存在として、重要な役割を果たしていくものと感じています。しかるに、郷の音がその名が語るように、コンサートホール主体のコンセプトとなっており、絵画、彫刻等、美術芸術の文化中心としては、コンサートホール主体のコンセプトとなっており、ハード面で不十分と感じています。絵画展等では、高齢の来訪者も多いので、時々腰を掛けながら、ゆっくり鑑賞できる状況でありたいと思っています。三田市美術展等、美術領域で年間を通し、ホール独自企画が皆無なのは、ハード面のみならずソフト面で補完すべき店が多々あるものと、推察しています。

- ・事業に関しては、主催、共催、協力と色々な形で利用しますが、スタッフの対応等、丁寧、親切で問題を感じたことはありません。しかし、施設、設備に関しては、老朽化のせいか空調の音漏れや照明の不具合等、音楽施設にふさわしいメンテナンスをお願いしたいと思います。
- ・大小ホールやリハーサル室、控え室等、イベントを開催するにあたり充実した設備が整っており、大変有益な施設である。駐車場も十分に確保されており、イベント参加者にとっても大変便利である。また郷の音ホール主催のイベントも多種多様であり、広く市民に開放されていて、芸術芸能文化の発信地として大いに市、市民に貢献していると感じている。近年の異常気象の折、特に夏の利用時、駐車した車の車内温度は驚異的に高くなるので、将来改造できる機会があるならば、地下駐車場を希望します。自然豊かな三田でしかできない、四季折々の催しをもっと積極的に行なって下さい。
- ・ホールを維持していくのに費用がかかるとは思いますが、無くさないで下さい。
- ・三田市の文化活動拠点として維持発展を期待。施設修繕は不可欠である。市民への呼びかけを強め、市民参加の意識向上が望まれる。
- ・ホール関係者の方々は良く頑張っておられると思います。三田市民がそれをバックアップしていける市民意識の向上のための取り組みが必要だと思います。
- ・館長さんが、演歌ではホールは埋まるが、クラシックだと入らないと嘆いていた。郷の音の音楽プロデューサーの佐々木次彦氏は有名な方ですが、三田のことをご存知なのでしょうか。もう少し三田を理解されている方にさせていただくのはどうでしょうか。

## 5. 利用料金について

- ・現在、文化協会に加入しているので利用させていただいておりますが、個人として利用したことはなく、利用するには料金的には高いと思います（劇場）。もう少しリーズナブルな料金にしていきたいです
- ・料金（使用料）がもう少し安くしていただければと思います
- ・舞台技術スタッフの人件費が高い。オーケストラの証明 ON, OFF くらいならもう少し安いと利用しやすい
- ・利用料金が高い
- ・学校の部活動として利用するにあたり費用が高すぎるし、減額などの配慮もなく非常に困っている。教育活動の一つとして、もっと子どもたちの発表の場として費用面で利用しやすくして欲しいです
- ・利用料が高いため、学校単位（ホール練習等）では利用しにくい
- ・照明等の人件費が非常に高い。自主演奏会にとって大きな負担となっている。ホール予約を抽

選方式にならないか、現状の方法では負担が大きい

- ・文化芸術活動の発表を振興させるため、施設の利用料金を安くすることを検討して欲しい
- ・いつもお世話になっております。もっと三田市内の学生が利用しやすい施設であれば嬉しいです。特に金額面で。他市では割引があったり、無料で利用できるところもありました。郷の音ホールさんに言って、どうなることでもありませんが…
- ・市から支出する歳入予算が2億1400万円もあるのに、備品空調等は徴収するのですか。
- ・駐車場は広くて使用料も安くて使いやすいが、大小ホール、その他お部屋の使用料はもう少しお手ごろ価格にしてほしい。そうすれば、普段の練習や会議にももっと利用できる。

## 6. 予約について

- ・使用が春と秋の土日曜日に集中するために希望する日時が取りにくい。
- ・ホール使用をもっと市民団体が借りやすくして欲しい。演奏会等で使用するとき、個々の団体の状況を考慮して、初めて使う団体や公益性の高い目的を持った事業には優先順位を上げる等して欲しい。一律に申し込んで抽選で決定するのでは、必ずしも公平とは言い難いと思う。
- ・大変良いホールですので、多くのグループが簡単に利用できるようにご検討をお願いいたします。
- ・もっと会場を取りやすくしてほしい

## 7. 駐車場について

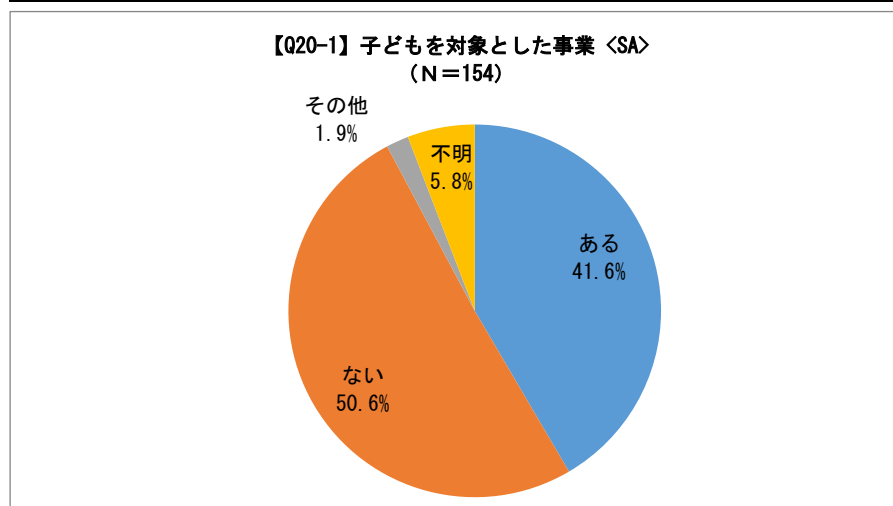
- ・駐車場を利用したとき、11時を過ぎたときの料金が異常に高くびっくりした。前もって知らせて欲しい。
- ・駐車場の閉場時間が早い&閉館日でも駐車場は開場し利用を促進してはどうか
- ・駐車場出口の改善を求めます。市民センターのように前もって払えば、帰るときに混まなくてよいのでは。

## 8. アクセスについて

- ・交通の便利が悪い
- ・交通手段、バスの本数が増えるとありがたいです（土日）。市民がホールで聞くだけでなく、参加出演できるイベントが増えるとありがたいです。
- ・老人が足の確保に困っている。もっと老人の足を考えて欲しいと思う。もっと三田の文化に触れたいと思う人が多いと思います。まず楽しく三田文化に接するようにして欲しいと思います。
- ・フラワータウンからのバスルートが少ない。

【問 20】 これまでに、子どもを対象とした事業をおこなったことがありますか。〈SA〉

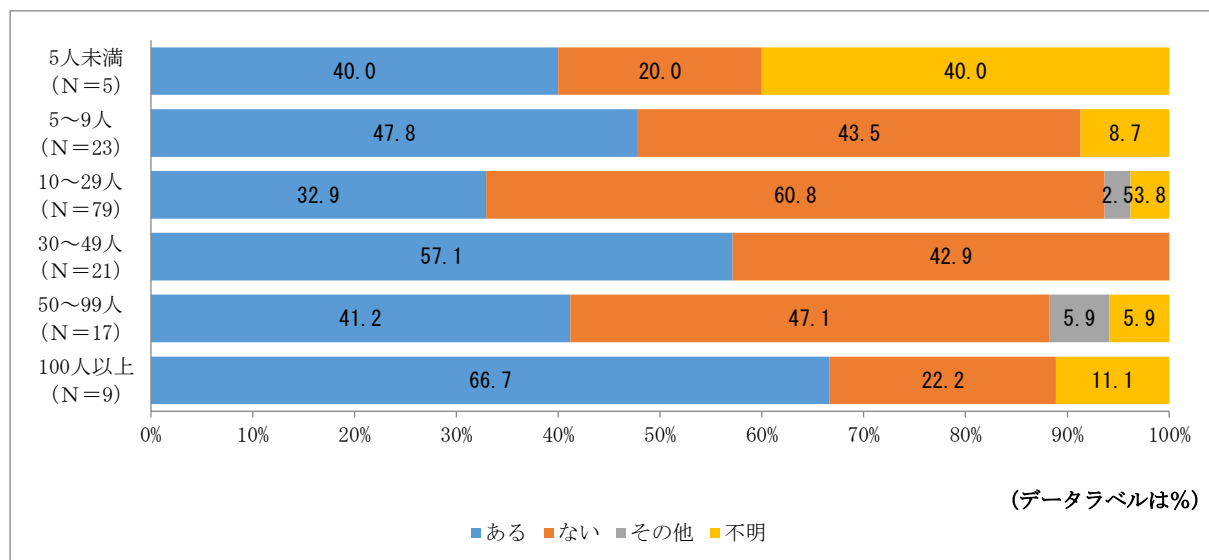
	全 体	ある	ない	その他	不明
件数	154	64	78	3	9
%	100.0	41.6	50.6	1.9	5.8



<その他の回答 (各 1 件) >

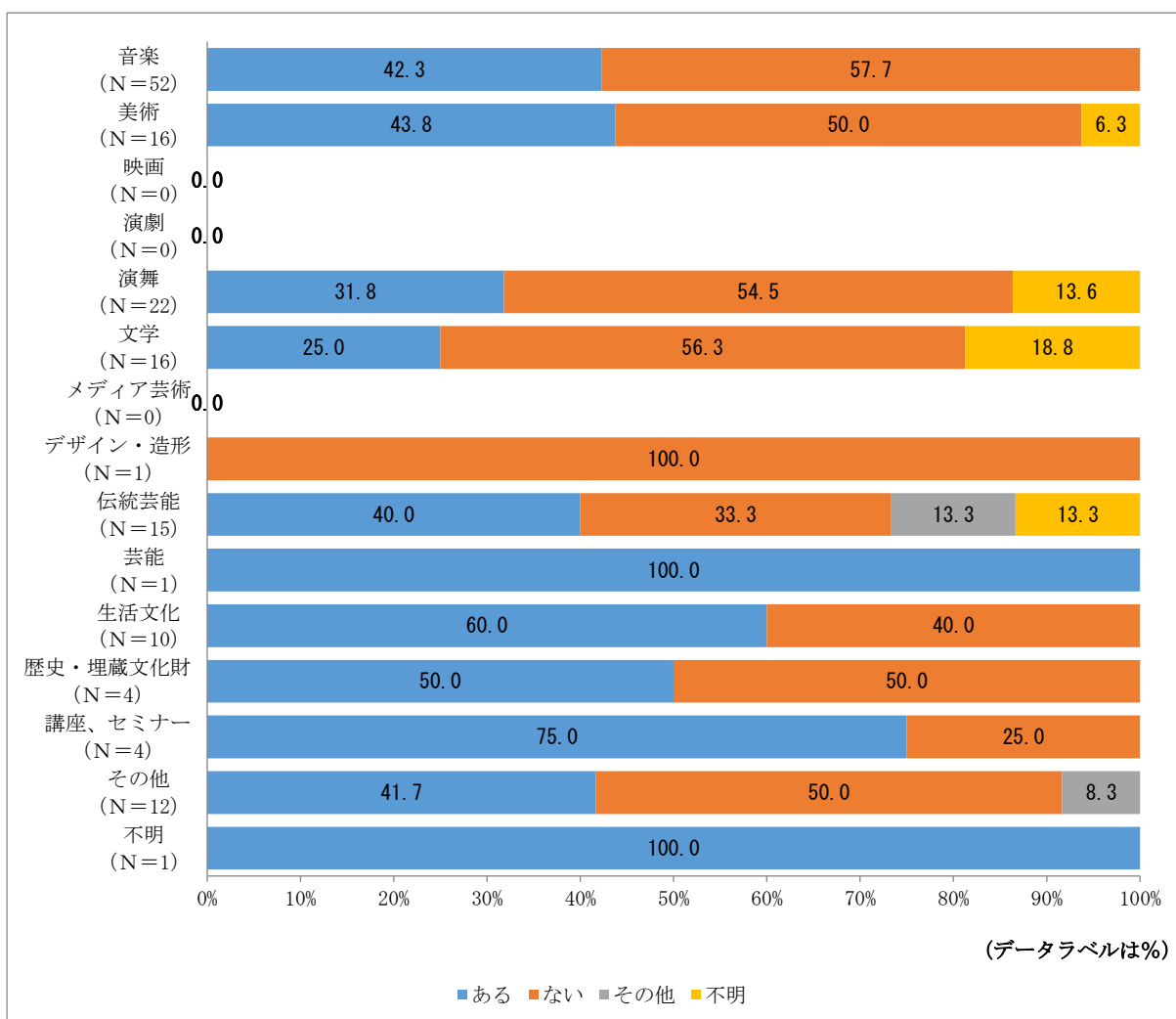
催しには参加したことはある／八坂神社氏子団体の事業

■ 団体の人数



- ・ 団体の人数別に見ると、子どもを対象にした事業をおこなったことが「ある」団体は活動人数が増えるにつれて増加傾向にあり、最も高いのは 100 人以上の団体の 66.7% (6 団体)。次いで 30~49 人の 57.1% (12 団体)、5~9 人の 47.8% (11 団体) の順である。
- ・ 子どもを対象にした事業をおこなったことが「ない」団体は 10~29 人の団体で最も高く、60.8% (48 団体) となっている。次点は 50~99 人の 47.1% (8 団体) である。

## ■活動分野

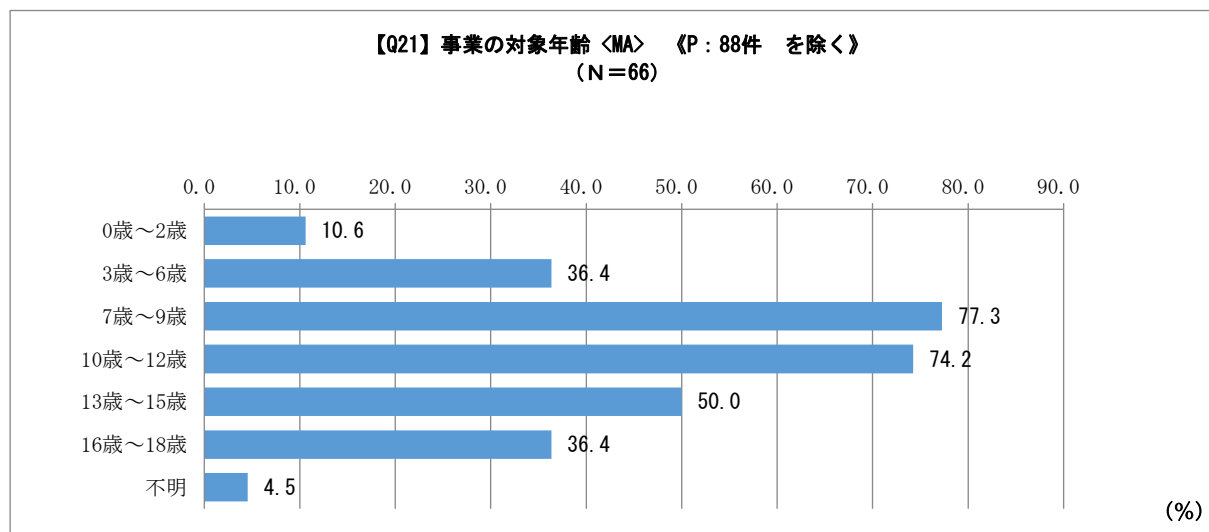


・活動分野別に見ると、子どもを対象にした事業をおこなったことが「ある」団体は、芸能で100.0%（1団体）、講座・セミナーで75.0%（3団体）、生活文化で60.0%（6団体）の順で高い割合になっている。講師役が実演した動作を目で見て真似ることが可能な分野においては、「ある」割合が高くなる傾向にあると考えられる。

・子どもを対象にした事業をおこなったことが「ない」団体は、デザイン・造形で100.0%（1団体）、音楽で57.7%（30団体）、文学で56.3%（9団体）となっている。楽器の演奏のように、音を出すまでに一定の修練が必要な分野や、文章の読解力が求められる文学分野などにおいて、「ない」の割合が高くなっている。

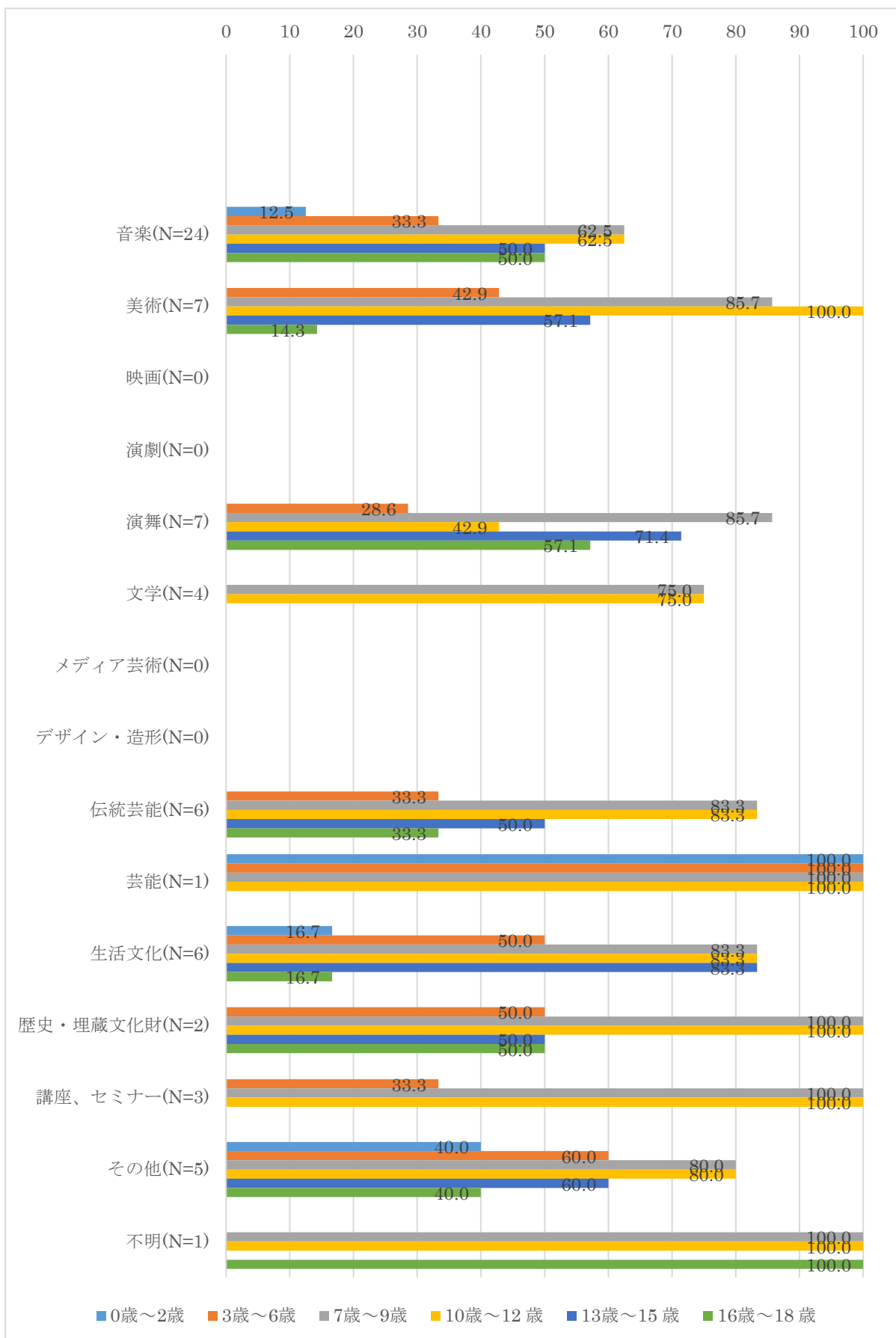
【問 21】事業の対象年齢はどれくらいですか。〈MA〉

	全 体	0 歳 ～2 歳	3 歳 ～6 歳	7 歳 ～9 歳	10 歳 ～12 歳	13 歳 ～15 歳	16 歳 ～18 歳	不明
件数	66	7	24	51	49	33	24	3
%	100.0	10.6	36.4	77.3	74.2	50.0	36.4	4.5



・次世代のための文化芸術振興として、子どもを対象にした事業の有無とその対象年齢を聞いた。子どもを対象にした事業が「ある」と回答したのは64件で、全体の41.6%であった。事業の対象年齢は、「7歳～9歳」が77.3%でもっとも多く、次が「10～12歳」で74.2%であり、小学生を対象にした取り組みが7割に達している。一方で、乳幼児にあたる「0歳～2歳」は最も少なく、10.6%であった。

■活動分野



・活動分野別に見ると、「0～2歳」を対象にしているのは、芸能で100.0%（1団体）を除いて、音楽で12.5%（3団体）、生活文化で16.7%（1団体）という割合であり、すべての年代の中で最も低くなっている。乳幼児を対象とする事業は困難なことが分かる。

・「3～6歳」を対象にしているのは、生活文化（3団体）と歴史・埋蔵文化財（1団体）で50.0%、美術で42.9%（3団体）、音楽（8団体）、伝統芸能（2団体）、講座・セミナー（1団体）で33.3%となっている。

・小学校低学年にあたる「7～9歳」を対象にしているのは、芸能（1団体）、歴史・埋蔵文化財（2団体）、講座・セミナー（3団体）で100.0%、次いで美術（6団体）と演舞（6団体）で85.7%、伝統芸能（5団体）と生活文化（5団体）で83.3%になっている。小学校高学年の「10～12歳」でもほぼ同様の傾向がみられる。

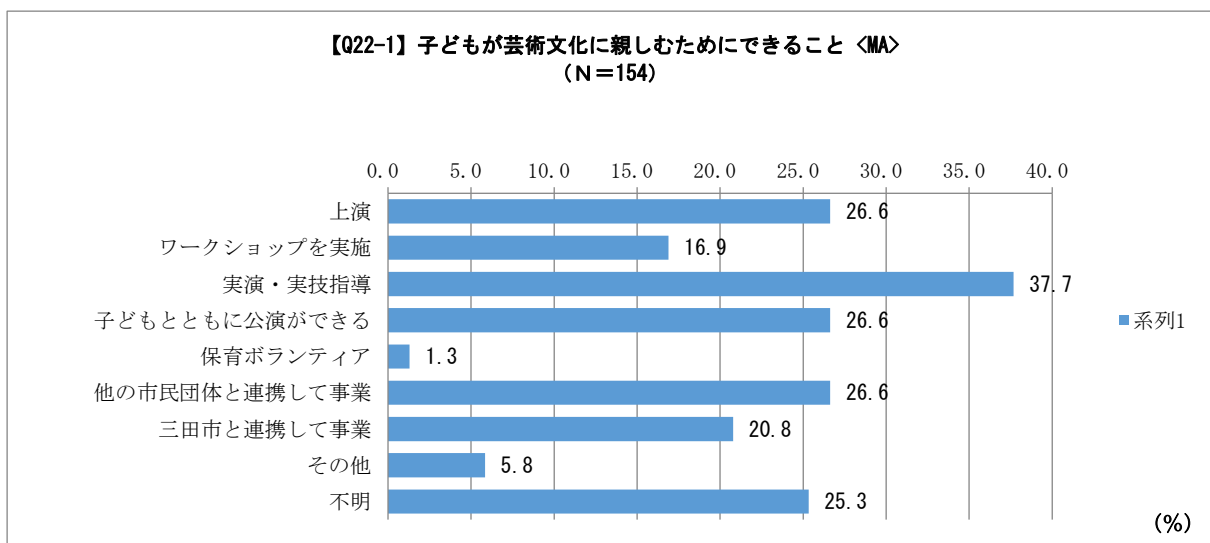
・中学生にあたる「13～15歳」では、全分野において「7～9歳」「10～12歳」よりも低い回答数になっている。もっとも高いのは生活文化の83.3%（5団体）で、次いで演舞の71.4%（5団体）、美術の57.1%（4団体）となっている。

・高校生にあたる「16～18歳」では、「13～15歳」よりもさらに低い割合になっている。最も高いのは演舞の57.1%（4団体）で、次いで音楽（12団体）と歴史・埋蔵文化財（1団体）の50.0%の順である。



【問 22】子どもが文化芸術に親しむために、あなたの団体ができることはありますか。〈MA〉

	全 体	上演	ワークショップの 実施	実演・実技指導	子どもとともに 公演ができる
件数	154	41	26	58	41
%	100.0	26.6	16.9	37.7	26.6
	保育 ボランティア	他の市民団体と 連携して事業	三田市と 連携して事業	その他	不明
件数	2	41	32	9	39
%	1.3	26.6	20.8	5.8	25.3



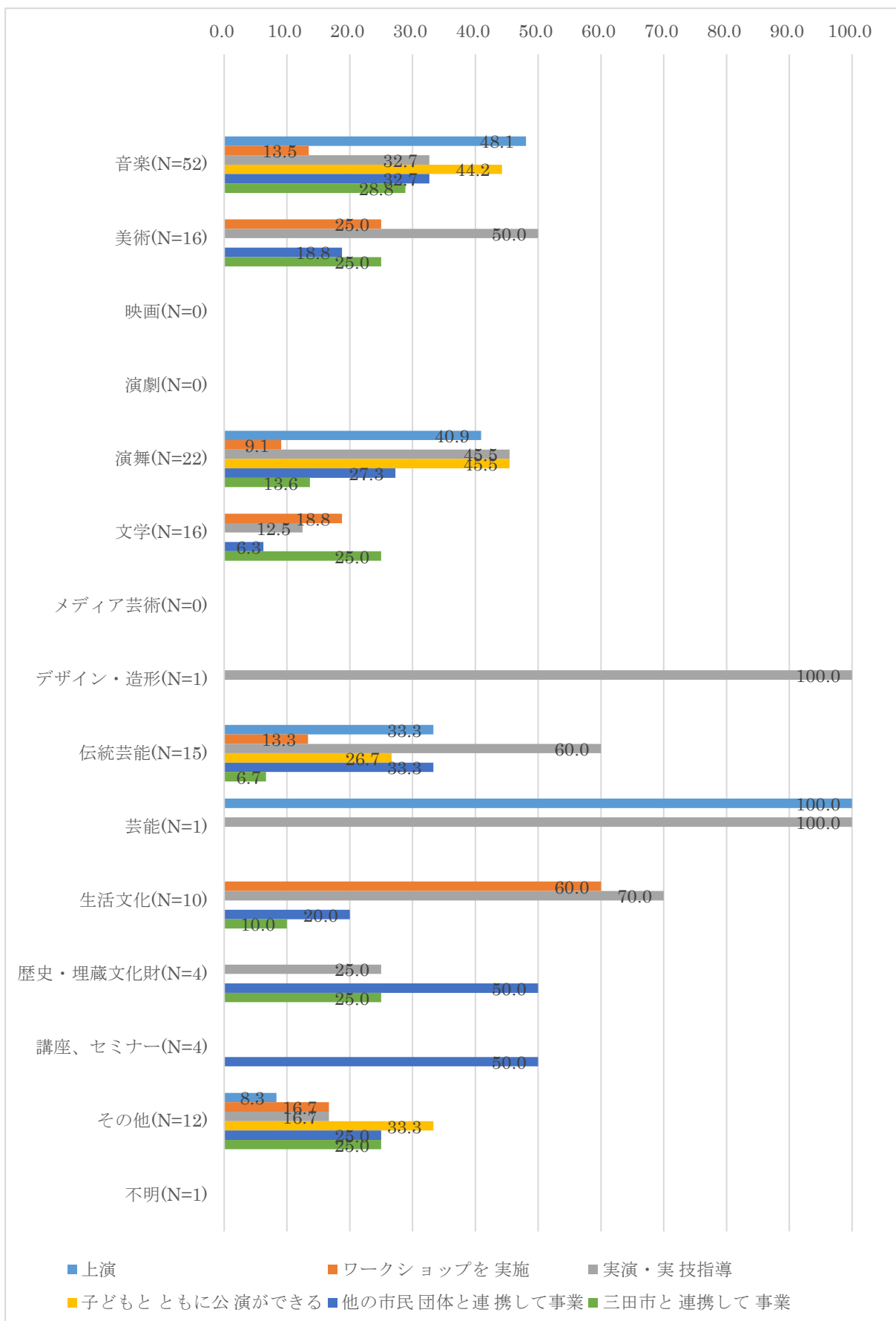
その他の回答（各 1 件）

一緒に歌唱すること／郷の音ホール主催の保育を有料で実施している／風景の募集、発表、写真、絵画集の発行等及び展示／学校の部活動なので／一緒に楽器を吹いたりして交流／未来を担ってもらう子どもたちに応援をしている／日本文化として継承できる。通常の練習以上に県内市小学校児童に（行儀）作法の指導に 10 年以上ボランティアで続けている

・問 20 と問 21 で子どもを対象にした事業の実態を聞いたのに対して、問 22 では今後子どもの芸術文化振興にどのように貢献できるか聞いた。もっとも多かったのは「実演・実技指導」で、154 団体中 58 団体（37.7%）が回答した。通常の演目を披露する「上演」（26.6%）よりも高くなっている。

・「子どもとともに公演ができる」（26.6%）、「他の市民団体と連携して事業」（26.6%）と、四分の一の団体が何らかの形で子どもたちとコラボレーションする可能性を示しているが、その入り口となる「ワークショップを実施」できるのは 26 団体で 16.9%にとどまっており、全体の進行や体験プログラムを実施するノウハウを持っている団体は少ないことが分かる。

■活動分野



- ・活動分野別に見ると、「上演ができる」は芸能で100.0%（1団体）が最も高く、音楽で48.1%（25団体）、演舞で40.9%（9団体）の順になっている。
- ・「ワークショップを実施」は、生活文化で60.0%（6団体）と最も高く、美術の25.0%（4団体）、文学で18.8%（3団体）の順になっている。生活文化では講師の所作を手本に、美術では作品制作を中心に実施できるノウハウがあることが考えられる。
- ・「実演・実技指導」では、デザイン・造形（1団体）、芸能（1団体）で100.0%と最も高く、次いで生活文化の70.0%（7団体）、伝統芸能の60.0%（9団体）の順で高くなっている。ある程度決まった型や様式のある分野において高い割合になっている。
- ・「子どもとともに公演ができる」は、演舞で45.5%（10団体）と最も高く、音楽の44.2%（23団体）、伝統芸能の26.7%（4団体）となっている。楽譜や型・様式、お手本など共演を支えるルールの有無が分かれ目になっていると考えられる。
- ・「他の市民団体と連携して事業」では、歴史・埋蔵文化財（2団体）と講座・セミナー（2団体）で50.0%と最も高く、次いで伝統芸能の33.3%（5団体）、音楽の32.7%（17団体）の順に高い割合を占めている。
- ・「三田市と連携して事業」では、音楽の28.8%（15団体）に続き、美術（4団体）と文学（4団体）、歴史・埋蔵文化財（1団体）の25.0%の順に高い割合を占めている。

【問 23】文化芸術振興のために必要なことやアイデアについて、自由にお書きください。〈FA〉

### 1. 三田市の文化施策について

- ・三田市の中心に郷の音ホールが存在するという事は三田市が文化を大切に考えて下さっている証。そういう市には文化に関心の高い人が集まり豊かな暮らしが詰まっていると思います。
- ・市政において文化活動への理解・援助が乏しいような気がする。
- ・三田市は文化芸術振興の意識が低いと思います。年々、助成金なども減っているので、もっと市民のために税金を使って、一人ひとりの意識を高めるべきだと思います。
- ・子どもの数が少なくなると、財源も少なくなり一人ひとりへの負担が増えているのが現状です。・教育現場にそういった支援があると豊かな活動につながっていくと思います。

### 2. 活動への支援について

- ・緊縮財政の折、各種団体への施策見直しに一定の理解をしているものである。しかし、文化芸術（伝統）への最低限の保障は今後も続けて欲しい。
- ・芸術文化振興のためには各当事者団体の活発な活動がメインであるがこの時期メンバーの高齢なり手不足等、課題は多い。事務局を市で持っている団体については、それなりに事務局も活動に関与しもっと力を入れて欲しい。現状は団体の窓口でしかない感じである。
- ・①文化発展のため、文化振興基金の他、公的資金はいくらあり、誰がどのようにコントロールしているのか（例：文化協会、郷の音コンサート実行委、市オケ、市吹など）②何年前か、ある小学校教頭に合唱祭のチラシの掲示をお願いすると、スポーツを重視しており、協力する暇がないとの対応だった。専門の先生方や予算のバランスはどうなのか③音楽に限れば、郷の音ホールの運営も含め、この地域に密着して長期的視野で寄与していただけるプロ（売名行為に走らない単なる演奏家でない、例えば大阪音大学長のレベルの方）を市として招聘すべき④団体登録の届出は核市民と個別でなく統一フォームで1ヶ所にすればよいと⑤例えば、レジデンシャルとシティフレッシュの若手演奏者の定着できる環境を整えようとしているか。
- ・現行では、三田市文化協会が市民文化活動の窓口となり、郷の音コンサート実行委員会も音楽関係の企画実行を行なっているようですが、いずれも愛好家（アマチュア）の集まりで、特に文化協会は高齢者が大半を占めるなか、どちらとも企画事業に硬直化がみられます。今後の三田市における新たな文化振興のためには、それを担う組織や人材を見直し、限られた文化振興財源をより有効に活用するため、かつての三田市文化振興基金協会のようなプロとアマ両方の視点からなる組み上げが必要だと思います。特に、プロは市在住、ゆかりに多くの人材があり、その方々を活用した地域循環型育成システムを構築し、子どもたちにできるだけ本物に触れ、夢を持って、しかも身近に文化芸術に親しんでもらうことが、三田の未来につながると信じます。既に、フルート音楽の関係者はそれを具現化しています。
- ・市民センターまつり再開のための支援のお願い：2年前から市の援助が打ち切られ、各地域のそれぞれに状況によって開催にばらつきが見られています。開催には住民の物的人的支援が欠かせません。本当の意味での文化芸術振興を考えるならば、地域独自の開催に難がある地域にこそ、行政支援が必要だと思います。
- ・旧市民センターまつりは、各地域で市民の手により継続開催されています。このイベントは会

場の無料使用やセンターの方の協力なしではできません。さらなるバックアップをお願いします。

### 3. 企画・イベントについて

- かつて市民センター主催で子ども教室がありましたが、いつの間にか消滅してしまいました。また企画してみてはどうでしょうか。
- 会員数の多い少ないに関わらず、小規模の団体も参加できる企画をして欲しい。郷の音ホールを経由するバスがあったらいいと思います。三田駅からは近いのですが、ニュータウンからはとても遠く感じます。車がないという前提で高齢者等が利用しやすい交通機関が必要だと思います。
- 年齢を問わず、誰もが気軽に参加できるような催しを企画してほしいです。
- 郷の音主体の音楽（楽器・コーラス・歌・劇等）の指導の実施などで郷の音ホールとのつながりをもっと多くの市民に親しんでもらうことができればいいと思います。リハーサル室を区切り利用のキャパをふやすことで利用しやすくなるのでは。
- 子どもたちのため、大人のため内容、価格ともに別に取り組みるといいのではと思います。近くにホールがあることはとても嬉しいし、期待しています。駐車場利用についても考えて欲しい。
- 先日、コスミックホールにて N 響弦楽メンバーによる演奏会の一部に地元の中高生（ピアノ）と弦楽のアンサンブルがあった。文化芸術振興、青少年の育成にとっても良いと感じた。三田でも同じ様な場があればと思った。
- 三田の既存文化団体と郷の音ホールがもっと手を取り合ってもイベントを作っていって欲しい。一般の市民が参加できる「サタデーレクチャー」5 回シリーズとかで演劇、オペラ、オーケストラ、合唱等を学ぶ機会を作ってみてはどうだろうか。素晴らしいホールだと思うので、世界で活躍されている一流の方々のを鑑賞できる機会をたくさん作っていただきたい。
- 子どもが楽しめる、クラシックコンサートを増やし親子で楽しみながらレベルアップするようなことも、どんどん増やして欲しい。大阪まで出かけるより経費がかからず、楽しめて嬉しいです。郷の音ホールは素晴らしいし、大阪や他府県の方をお呼びしても、三田の街は素敵ですね！と言われます。
- 子ども、学生のうちから身近に触れること（教科書の中だけじゃなく）三田市出身の若手の作家の作品展をオフィシャルに開催して育成を促進。
- 良い内容の発表会には見学者や聴衆からの反応や参画希望が寄せられます。指導者の充実を図るべく、いずれかの協議や交流策を実現できないものでしょうか？
- 大ホールでの市民第九等の企画をしてほしい。
- 事業によっては発表の場所を無料にしてはどうでしょうか。成人と子どもと一緒に発表できる事業を企画したり、後継者を育てる事業を援助していく必要があると考えます。横のつながりも大切にして機会あるごとに文化に触れる催事を行なう。郷土芸能への補助育成が必要（鑑賞体験）。
- 子どもたちに芸術鑑賞の機会を増やすために、クラシックのコンサートは観客が少ない（著名な演奏団体でも）と思うので、100 名分くらいは学校、部活動単位で入場を促してもらっては

どうか？年間の公演予定を渡して、前もって希望をとればよいのでは。また空席が出そうな公演、特に興味がなくても体験することで興味も湧く（自身の経験からそう思う）。私は、フェスティバルホールで洋画や外国タレントやオーケストラの公演を特別安い割引券で何度も鑑賞したことがある。

- 吹奏楽部同士の横のつながりはあるものの、就学前のお子様と交流する機会や合唱団体との交流は少ないのが現状です。中学校においての部活動のあり方は、今、見直しがされ参加できる機会は少ないかもしれませんが、イベントがあれば宣伝はできるかな、と思います。
- それぞれの年代に応じて、子どもたちの未来のために楽しく力を合わせて活動出来たら素晴らしいです。
- 文化芸術振興＝子どもを文化の担い手として育成する街ぐるみの体制を市と市民で作ること。市内の希望をスポンサーに文化基金を創設すること。西洋音楽基礎教育を強化する。横割りの部活動の構造を改善し、複数校が共同で演奏会をするような体制と支援。
- さとのね七夕フェスティバルを見せていただきましたが、何かいつも同じような特定のクラブばかりがやっている印象です。集客の問題などもあるので、ある程度致し方ないのもわかりますが、もっと規模が小さくても、一生懸命にひたむきに頑張っているところにもスポットが当たると、皆さん頑張り甲斐があると思います。私の将来の夢は、文化は兵庫県一に三田市が輝くことです。これからも焦らず、腐らず、一步一步確実に足元を固めて頑張っていく所存ですので、その想いを共有できる仲間と輪が広がって、夢の実現に邁進します。
- 文学作品を三田市主催で公募する。尼崎市などでは70年以上文芸祭を実施、また加西市など周辺市町村も多くが実施している。全国より公募するので、市内各団体（短歌協会、俳句協会、川柳協会）の協力を得て、投句をハガキ、WEBで応募するなど。詳細は尼崎市の担当部署にお聞きになるのが良いと思います。
- 日本人の心の支えである伝統的行事からなる芸能の衰退著しく、その影響は日常の活動の縮小に及んでいる。例えば、演歌の減による、気力、粘り、人情感の薄れや伝統的地域のお祭り、の形態の減退による地域間での競争意欲、コミュニケーション不足、協働活動精神が損なわれている。提案として、今こそ伝統文化を見直すべき。①開催頻度を定め、市内の神社のだんじり祭りを開催。②田楽も市内8箇所それぞれの特徴を生かした競演フェスの開催。③盆踊りも各地の音頭の節回しを知ってもらいマンネリを防ぐ。伝統文化と現代風の踊りや花火を融合し、参加人員の底上げと盛り上げを図ることが急務と考える。
- 敷居を低く、と考え市民の方が気軽に参加できるイベント等を行なうことが大切だと思います。我々もボランティアとしてお手伝いできます。
- 各学校の芸術鑑賞の日を作って、劇場に出かける。各学校自体が劇場で出演できる機会を作る。町単位の自治会にも宣伝する、また招待する日を作る。兵庫県の学校演劇コンクールを開催。またシナリオコンクールなども作り、最優秀賞をプロの劇団が演じる。舞踊コンクールなど団体に活発化できることを考える。
- 国が応援してくださる子ども教室等では、一番喜ばれるのは、礼式を見て、日本人であることを改めて意識することだそうです。伝統文化の温故知新を大切にしたい。若い人たちに夢を持ってもらいたいので、和風ミュージカルなど、若い人、高齢者も一つになって、見る者も演じる者も酔える舞台づくりをしていきたいです。できれば、学校教育のなかにも、伝統文化を取

り入れて欲しいです。礼節を楽しみながら教え、残してゆきたいです。

- ・郷の音ホールをはじめ充実した施設で様々な文化芸術活動が行なわれているが、「三田文化」が根付いたまちづくりができているとは言えず、その対策としてイベント開催などに注力しても費用対効果は薄いと思います。36年間市内各地で演奏されている三田太鼓を知らない市民が多いように、どんな文化芸術活動が行なわれているか、認知度が低さを解消することから着手すべき。「知ってもらう」→「興味を持つ」→「参加する」につながる入口です。そのために、以下のような低コストの工夫が考えられます。①小中学校の芸術鑑賞ニーズ、高齢者施設の文化活動ニーズに対して、候補となりうるコンテンツを紹介②子ども体験型無料イベントや低価格の子ども料金を設定したコンサートなど、基準を満たした民間企画に三田市が「子ども文化育成事業」に認定し、指定ロゴの使用を認める。まず知恵を絞って、文化芸術活動の認知度を向上させ、興味→参画→三田文化形成→文化が根付いたまちづくり、と展開できればと思うし、三田太鼓も協力させていただきます。

#### 4. 集客について

- ・文化祭等で郷の音ホールで発表させていただきますが、集客数が悪く、市民に浸透していないように思います。自分達だけが頑張っても観てくれる観客がいなくて寂しい舞台になります。どのように宣伝活動をすれば効果があるか、また観に来ていただいた観客を退屈することなく楽しんでいただくかが課題だと思っています。
- ・毎年、11月に舞踊祭で郷の音ホールを使わせていただいております。課題は会員の高齢化と集客数です。11段台の舞踊会員が一丸となり、市民の皆さんへチラシを渡し、声かけを頑張っております。その成果は少しずつあり、そこそこ集客できるようになりました。観客がいなくて寂しい舞台になります。どのように宣伝活動をすれば効果があるか、また観に来ていただいた観客を退屈することなく楽しんでいただくかが課題だと思っています。高齢化の問題はどうしようもありません。
- ・①問題点として、参加者と見る側の高齢化と固定化がある。見てもらえる機会と新しい人達をどのように増やすか。②解決案として、活動の場に主に使用している市民センターと郷の音ホール以外に人々がよく集まるけやき台のイオンでの発表会を行ない、多くの人に見てもらえるようにする。ただし、イオンも商売なのでメリットがないと動けないと思うので、イオンの商圈自治体とのコラボのカタチにして、イオンのイメージアップを図り協力してもらう。

#### 5. 予約について

- ・いつも三田市民センターで発表大会をしていたが、大ホールの場所取りが難しく、くじ引きなので、いつも不安を感じていた。経済的なこと、場所のことを考えて、今年から文化祭の11月のみにし、春の大会を終えることを決断いたしました。
- ・予約システムの変更：毎月1日午前0時にサーバーアクセスが殺到し予約が取りづらい状況になる。しかし、その時間に予約を取らないとすぐに他団体が複数日の予約を取る。従って、希望日に予約を取るには、頑張って目を覚まして予約しないといけない（やや不健康的）。このシステムを熟知している団体は、予約獲得競争に勝ちやすいが、新たに参入する団体には不親切かもしれない。新規の団体も活動しやすいように、「事前申込み→抽選」を検討してもいいかも

しれない。

- ・実際は、使いたいときに場所が確保できない現実があります。予約方法の改善をお願いしたいです。

## 6. 活動について

- ・いろいろな文化活動をしたい意欲はありますが、全員高齢となりなかなか思うような行動ができなくなりました。和気あいあいと質ネイで少しでも教養を高めるように努力しています。
- ・三田舞踊祭に参加させていただいております。大きな舞台に参加して思うのは団体ではなく一人 5000 円ぐらいの費用は出してもいいのではないのでしょうか。リハーサル、当日と色々な人にお世話になり舞台が出来上がります。感謝しております。これからも長く続きますようにみんなと力を合わせていきたいです。
- ・三田で一番大きな組織であるのであれば、各地域の文化施設登録グループの代表が参加して運営を検討すべきであると思います。フラワーでも約 78 団体、三田市民センターで約 70 団体、ウッディーでも多くの団体が登録されていると思われる。文化協会だけの意見では少なすぎるのでは？なるべき優秀な人材を多く集めて検討すべきでは？
- ・日本古来の伝統文化を身近に感じ、三田市民一人ひとりが家庭生活に潤いと心に安らぎ、そしてゆとりある日々を送れるよう団体として手助けが出来ればと念じています。
- ・地域のなかでも無報酬で講習を開くことを提案しても会場を確保することができない。営利でなくても難しい。残りの人生をお役に立てたらと思うにも思うがままにならないものです。
- ・詩吟界全体の悩みとして、会員の高齢化があり、今後どのようにしていったらよいか、勉強会等があれば参加したい。
- ・短歌、高齢化とともに趣味同行者、会員減。
- ・毎年、郷の音ホールにて三田舞踊祭で参加させていただいております。三田舞踊協会は 11 部会あり、みなさま集まる場所、小さな開場でもボランティアで出演、出場させていただけます。機会があれば、お声がけ下さい。いつでも準備 OK です。
- ・私は老人です。これまで自分の身で体験してきたことを、もっと自由に若い人たちに伝えられればと考えています。現在 85 歳です。できれば、できれば小さいときから関わって来たものですから、話したいと考えるようになりました。
- ・日常的に絵画、立体造形に携わる一市民として、いくつか提案させてください。①三田立体造形カレッジ：まず現有する三田のアート活動をいかに活性化していくかがポイントです。「三田立体造形カレッジ」を中心とする構想をもっています。新宮晋先生は三田の貴重な財産です。先生の力をお借りし、立体造形に関わる教室を開くべきです。ほか、三田青磁、ガラス工芸館、木材加工、石材加工などの素材加工業も取り込んだ、創作機会の場を作りたい。②三田アートスペース：市内では、個人で「アートギャラリー」「アート工房」を営んでいるところはほとんどない。市の援助により、アクセスの良い駅チカに個人作家が個展の会場に使いやすいスペースを確保して欲しい。③三田アート倉庫：多くの作家さんにとって、作品の保管場所の確保は頭の痛い問題です。作家さんとマーケットを結ぶのが「三田アート倉庫」のコンセプトです。公共の関与でアート作品の保管場所を確保するとともに、ネットを通じ、作品情報をマーケッ



トに提供する機能を持たせるものです。アート作品の安全な保存と流通、適切な処分により、作家さんと市民の間に WIn-WIn 関係を築き、将来の三田の芸術振興に寄与することができると思います。④上述の「三田立体造形カレッジ」「三田アートスペース」「三田アート倉庫」は究究極のところ「三田市美術館」の創設に収斂する過程の道標と認識しています。10年ビジョンというタイムスケールに、どう組み込んでいただけるか、ご検討お願いいたします。(抜粋)

## 7. 費用・料金について

- ・学校教育だが保護者の負担で財源の多くを確保している。学校向けにもう少し費用が低くなると利用しやすい。
- ・いつもお世話になっています。三田市の文化がますます発展していくことを願っています。郷の音ホールを借りる際、ある程度学割等の優遇していただけると助かります。
- ・問 19 に書いた通り、費用面をもっと安くしていただければ、中高生が音楽を通して、三田市民の方々ともっと触れ合う場ができると感じます。何をするにしても費用がネックとなっており、何もできない状況が続いています。

## 8. 場所について

- ・市民センターなど定例的に集まって活動出来る場所をもっと増やして欲しい。
- ・文化芸術振興のために発表のできる場所の確保と使用料金が安いことを望みます。
- ・郷の音ホールを長期的に活用できるよう、保守点検修理等、指定管理団体（企業）に任せず所有者である三田市が積極的に管理して欲しい。市職員だけでなく専門家を入れてホールのハード面をしっかり守って欲しい。完全に壊れたら修理ではなく常に点検補修することで却って経費削減になるのではと思う。
- ・常時、ホール、各部屋を活用するアイデアを求める。従来からホールでの三田市文化協会、三田市へ各自が相談できるでしょうが、そのアイデアを単独でできないと判断したのを上記の団体でシェアする。
- ・郷の音ホールと市民団体との意見交換の場が必要である。郷の音ホールと活動内容。目的などをもっと告知すべき。何のために、やっているかが見えるように。市の担当課は郷の音ホールへの企画内容の研究を更に進めてもらいたい。三田市と他市と比べて、プラスマイナスなど、自己評価したものを公表し、常にあるべき姿を明示してほしい。現状認識と過去の歩み、そして未来の道筋など、市民文化団体とともに進んでもらいたい。
- ・文化センターは今の三田市民の文化施設としてはちょうど良い施設だと思います。これからも様々な企画で市民を楽しませてください。
- ・生活文化の部では利用しにくい面、部屋がある。特に、郷の音ホールの和室の水屋の奥のシンクは狭すぎる。今後広くしていただきたい。廊下外の以下のベランダがあるが、長年の風雨で相当痛んでいる、修理願いたい。その時、片流れの小屋根（日差し、風雨を防ぐ屋根）をぜひ付けていただきたい。
- ・三田に住んで 25 年になりますが、文化芸術活動が盛んになったうえ、それぞれの分野でプロ顔負けくらいの技術もすばらしく向上していると思います。ただ、郷の音ホールへ行くのに、駅から歩くのが高齢者にとってつらいです。催し物のある時間帯に三田駅往復でもいいですので、

マイクロバスでも出してもらえたら嬉しいです。高齢者が文化芸術活動に触れたら、元気で生き生きとした生活を送ることができると思います。

- ・三田の子どもたちが本物の芸術に直接触れる場としての活用を考えてもらいたい。現在、西宮市の県施設で体験しているようですが、市内に立派な施設があるので是非活用を。体験学習は、子どもたちの成長にとって重要です。上質の音楽や演劇は子どもの成長の糧となると思います。経費はふるさと納税や基金の活用と子どもたちからも若干の負担をしていただいてもいいと思います。
- ・郷の音ホールは指定管理者によって管理運営されているが、三田市として主導権やリーダーシップが必要である。三田市、指定管理者、市民団体 3 者の力強い協調が必要である。市民団体からの提案を受けて、市民に向けた事業が必要である。郷の音ホールの維持のための修繕費が年間 470 万円です。宝塚市、川西市、伊丹市には文化行政を運営している文化財団があるが、三田にはない。なくてもやれるのか、これに代わる団体はどこか。
- ・郷の音ホールが 10 周年を迎え、指定管理についてもどう変わるか心配です。三田のシンボルとして市民をはじめ、近隣や遠方からもホールの響きが良い、スタインウェイのピアノが設置されていることが、多くの音楽家や団体、個人を含め利用されています。郷の音ホール大ホールの使用には、市の補助金をいただき、郷の音市民コンサート実行委員会として、郷の音ジュニアコーラスフェスタを開催しました。来年は、補助金がどうなるか分からないとのことで、10 回目のフェスタは断念しました。観客 800 名、三田市以外の周辺の合唱団先生、子どもも大変残念がっていらっしゃいました。これからも郷の音ホールを文化の中心として、守り続けたいと思っています。(抜粋)
- ・最近、主催者側のボランティアとして参加した三田まつりで感じたことです。問題点は、6 年前に 3 万人強だった来場者が、2019 年には倍以上の 7 万 5 千人となり、特に迫力ある花火を楽しむに市外、県外からも観賞に足を運ぶ方が増えているのに、大駐車場を利用した催しのため、駐車場の確保が出来にくく、また分かりにくい。公共交通機関を利用した場合、立派な会場が前方の視界をさえぎり、全然見ることができない。将来、修繕や改修工事ができるなら、会場の屋上を利用して観賞できるようにするのはどうでしょう。また、ヒップホップが義務教育となり、地域で優秀者が選抜され、発表会が開催されているが、来年度以後、三田まつりにもぜひ参加披露できる機会を作るべきだと思う。従来、一般の応募参加者は参加無料であったが、屋内の素晴らしい音響舞台を利用するので一律に参加費はとるべき。ただし、参加費イコール施設維持費として、他には車来場がほとんどなので、地下駐車場にして、夏の暑さ、冬の寒さから保護できるようにしてほしい。
- ・多くの若者が毎日安い料金で利用できる部屋や防音ルームを作る。若者が集い、作品や音楽を披露できる場所になる。
- ・ニュータウン地区は地域のつながりが薄いと言われます。様々な文化活動を通して、人がつながり助け合う優しいまちになることを願っています。身近に集える場所やホール、展示や体験ができる場所が大切だと思います。
- ・郷の音ホールは、音楽をはじめ文化活動に参加している人には身近な場所になっていると思いますが、そうでない人にとっては、ほとんど足を運ぶことのない無関係に場所になっていると思います。どのようなイベントが開催されているか、もっとたくさんの人の目に触れる機会が

できればと思います。現在、様々な行事が縮小中止されています。ここ10年間で、高齢者もさらに増えると考えます。予算の関係もありますが、弱者に限らず集える行事、集まれる場所が減少してしまわないよう、考えて欲しいです。